

朝倉市男女共同参画に関する市民意識調査  
報 告 書

令和8年1月

朝 倉 市



# 目 次

## I. 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査の内容	1
3. 調査の性格	1
4. 標本特性	2
5. 調査結果利用上の注意	5

## II. 調査結果の分析

### 第1章 男女平等に関する考え方について

1. 男女平等や男女共同参画への関心度	7
2. 性別役割分担意識	9
3. 分野別にみた男女の地位の平等感	12

### 第2章 家庭生活について

1. 家庭内における性別役割分担の状況	28
(1) 家庭内の役割分担の状況	28
(2) 配偶者にしてほしいこと	44
2. 子どものしつけや教育についての考え方	46

### 第3章 就労について

1. 女性が職業をもつことについて	51
(1) 女性が職業をもつことについての考え方	51
(2) 女性が職業を続けない方がよいと思う理由	53
2. 女性の実際の働き方	55
3. 女性が働き続けるために必要なこと	57
4. 就労状況について	60
(1) 現在の就業状況	60
(2) 就業形態	62
(3) 職場における女性の就労環境	64
5. 男性が育児休業・介護休業・子の看護休暇を活用することについて	67
6. 男性が育児休業を取得しない(できない)理由	69
7. 男女がともに介護と仕事を両立させていく環境を作るために必要なこと	71

### 第4章 地域活動について

1. 地域活動での男女の役割分担	73
------------------	----

2. 女性が地域の役職につくことについて	78
(1) 女性が地域の役職に推薦された場合の対処	78
(2) 地域の役職を断る理由	80
3. 女性が市の審議会や委員会の委員に就任を依頼された場合の対処	82
4. 政策・方針決定の過程に女性が少ない理由	84
5. 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点	86

## 第5章 暴力などの人権侵害について

1. ドメスティック・バイオレンスについて	88
(1) ドメスティック・バイオレンスの認知	88
(2) ドメスティック・バイオレンスの経験	92
(3) ドメスティック・バイオレンスの相談	95
(4) 相談をしなかった理由	97
2. 男女間における暴力を防止するための取り組み	99

## 第6章 男女共同参画社会の実現について

1. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度	101
(1) 希望	101
(2) 現実（現状）	102
2. 男女共同参画社会実現のために望む施策	103

# Ⅲ. 調査結果のまとめ

調査結果から見える特徴と今後の課題	107
-------------------	-----

## ◎参考資料

使用した調査票	115
---------	-----

# I 調査の概要



# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

この調査は、朝倉市における男女共同参画に関する意識について現状を把握し、今後の「男女共同参画社会」実現に向けての施策推進の基礎資料を得ることを目的として実施した。

## 2. 調査の内容

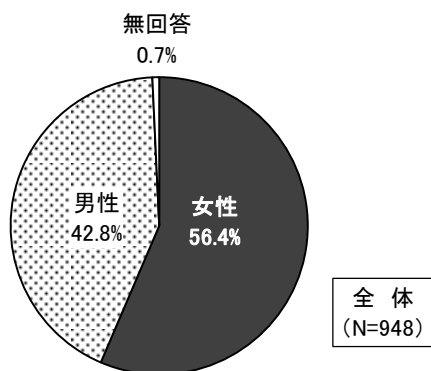
- (1) 男女平等に関する考え方について
- (2) 家庭生活について
- (3) 就労について
- (4) 地域活動について
- (5) 暴力などの人権侵害について
- (6) 男女共同参画社会の実現について

## 3. 調査の性格

- |                |                                 |
|----------------|---------------------------------|
| (1) 調査地域       | 朝倉市全域                           |
| (2) 調査対象者      | 18歳以上の男女2,000人                  |
| (3) 回収率        | 有効回収数948人 有効回収率47.4%            |
| (4) 抽出方法       | 住民基本台帳から無作為抽出                   |
| (5) 調査方法       | 郵送調査（郵送回収または、インターネット回答）         |
| (6) 調査期間       | 令和7年9月26日（金）～10月17日（金）          |
| (7) 調査企画・実施    | 朝倉市 企画振興部 男女共同参画推進室             |
| (8) 調査結果の分析と監修 | 特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所研究員<br>武藤 桐子 |

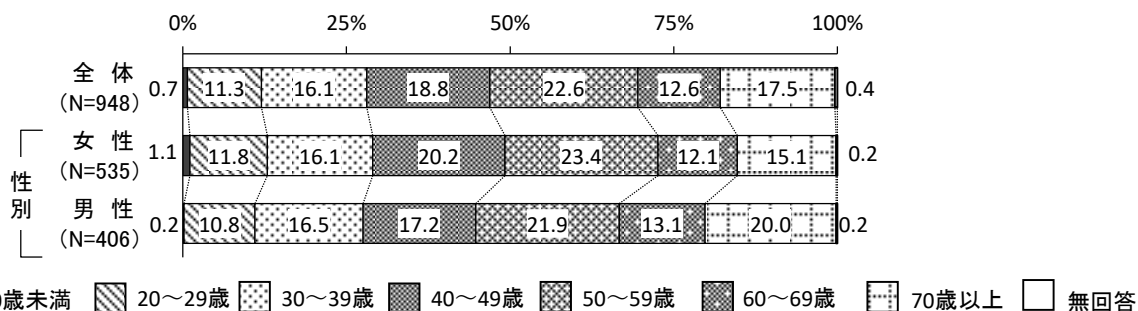
4. 標本特性

◎性別



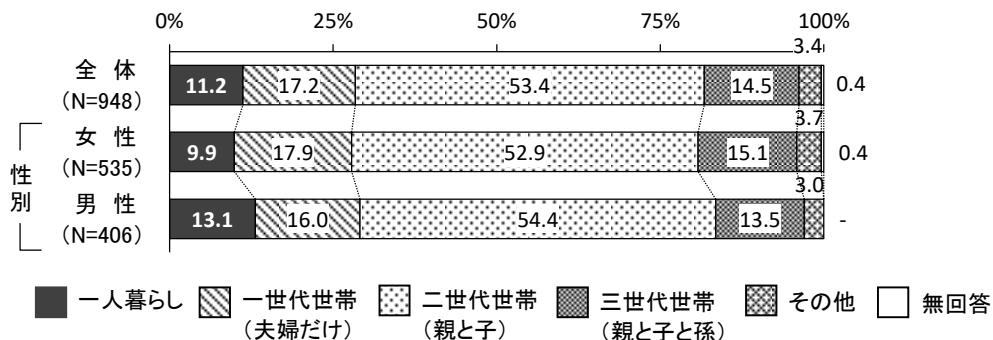
回答者の性別は「女性」が 56.4%、「男性」が 42.8%と女性の回答が 13.6 ポイント多い。

◎年齢



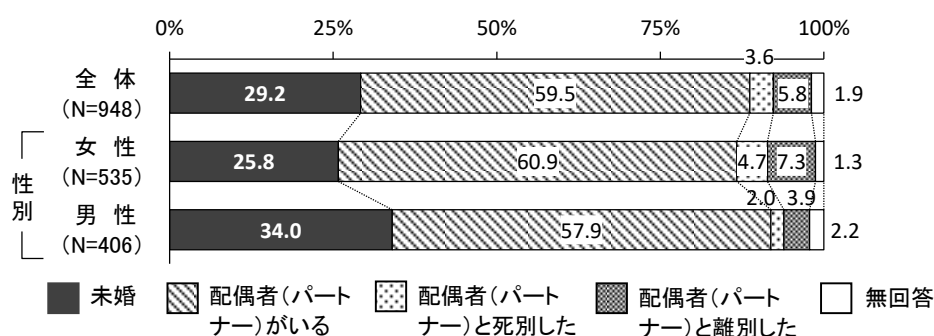
回答者の年代は、「50~59歳」が 22.6%、「40~49歳」が 18.8%、「70歳以上」が 17.5%の順で多く、以下、「30~39歳」が 16.1%、「60~69歳」が 12.6%、「20~29歳」が 11.3%となっている。性別にみると、女性は「40~49歳」「50~59歳」の割合が男性より多く、男性は「70歳以上」の割合が女性より多い。

◎家族構成



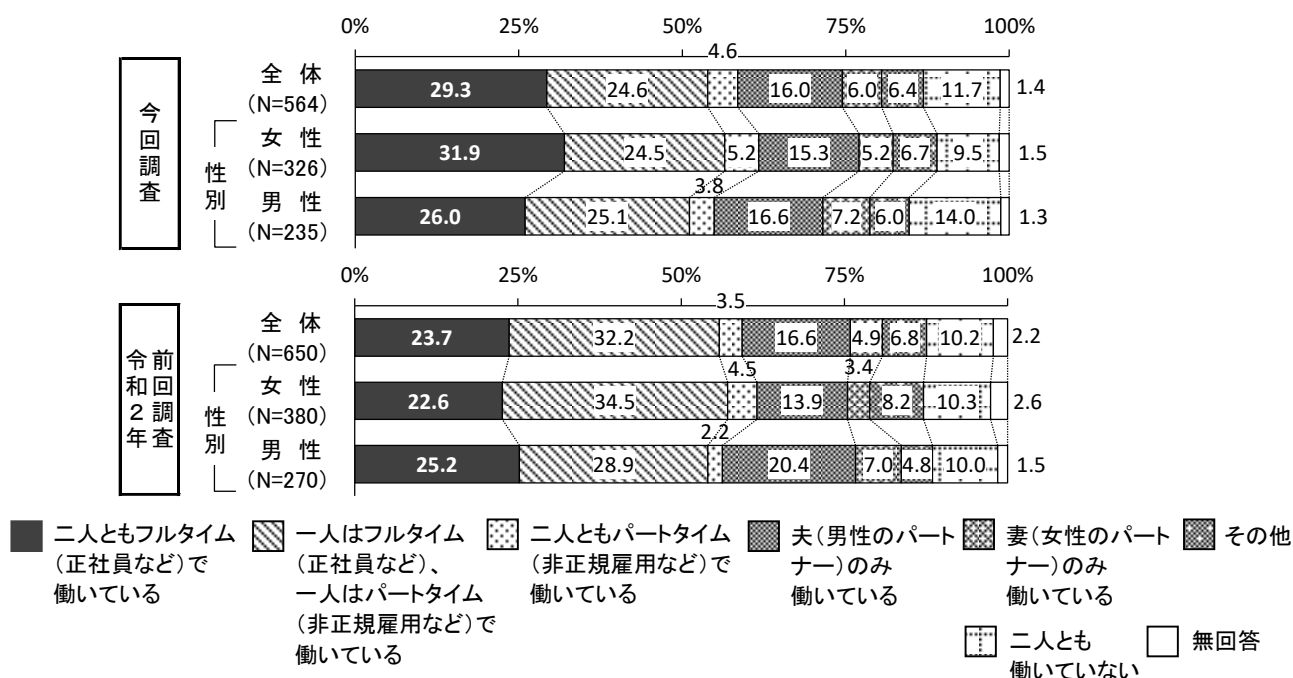
家族構成は、「二世世代世帯 (親と子)」が 53.4%で最も多く、次いで「一世代世帯 (夫婦だけ)」が 17.2%、「三世世代世帯 (親と子と孫)」が 14.5%、「一人暮らし」が 11.2%である。

## ◎配偶関係



回答者の配偶関係は「未婚」が 29.2%、「配偶者（パートナー）がいる」が 59.5%、「配偶者（パートナー）と死別した」が 3.6%、「配偶者（パートナー）と離別した」が 5.8%である。

## ◎共働きの状況

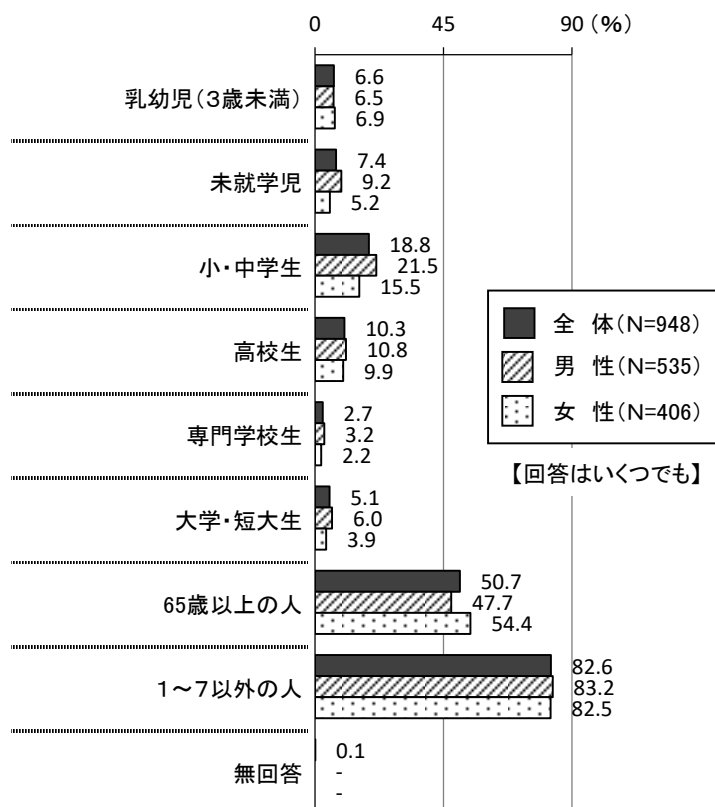


配偶者（パートナー）がいる人に共働きかどうかたずねた。「二人ともフルタイム（正社員など）で働いている」（29.3%）、「一人はフルタイム（正社員など）、一人はパートタイム（非正規雇用など）で働いている」（24.6%）、「二人ともパートタイム（非正規雇用など）で働いている」（4.6%）をあわせた『共働き』は 58.5%である。「夫（男性のパートナー）のみ働いている」（16.0%）、「妻（女性のパートナー）のみ働いている」（6.0%）をあわせた『片働き』は 22.0%、「二人とも働いていない」は 11.7%である。

令和2年9月に実施された「朝倉市男女共同参画に関する市民意識調査」（以下、前回調査という）と比べると、『共働き』の割合はあまり変わらないが、そのうち「二人ともフルタイム（正社員など）で働いている」の割合が増え、特に女性では 9.3 ポイント増えている。

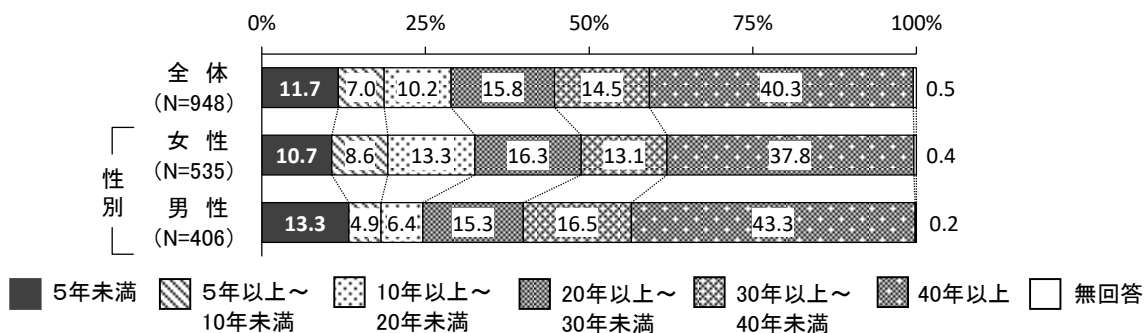
I 調査の概要

◎同居家族



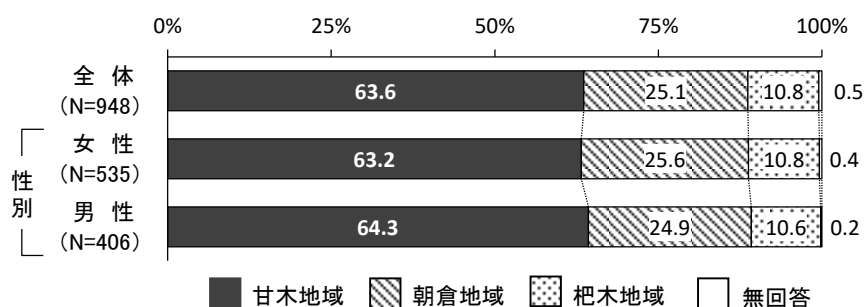
回答者自身も含めた同居家族は「65歳以上の人」が50.7%、次いで「小・中学生」が18.8%、「高校生」が10.3%となっている。

◎居住年数



居住年数は「40年以上」が40.3%で最も多い。

## ◎居住地域



居住地域は「甘木地域」が 63.6%、「朝倉地域」が 25.1%、「杷木地域」が 10.8%である。

## 5. 調査結果利用上の注意

- (1) 数字は、百分比のポイント以下2位を四捨五入しているので、回答比率の合計は、必ずしも100%ちょうどになるとは限らない。
- (2) 2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は、原則として100%を超える。
- (3) 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の標本数と合わないことがある。
- (4) 付問は前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。
- (5) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち、2つ以上のものを合計して表す場合は『 』とした。
- (6) 今回の調査は、次の資料と比較分析を行っている。

朝倉市 「男女共同参画に関する市民意識調査」令和2年9月実施

内閣府 「男女共同参画社会に関する世論調査」令和6年9月実施

福岡県 「男女共同参画社会に向けての意識調査」令和6年12月実施



## Ⅱ 調査結果の分析



## Ⅱ 調査結果の分析

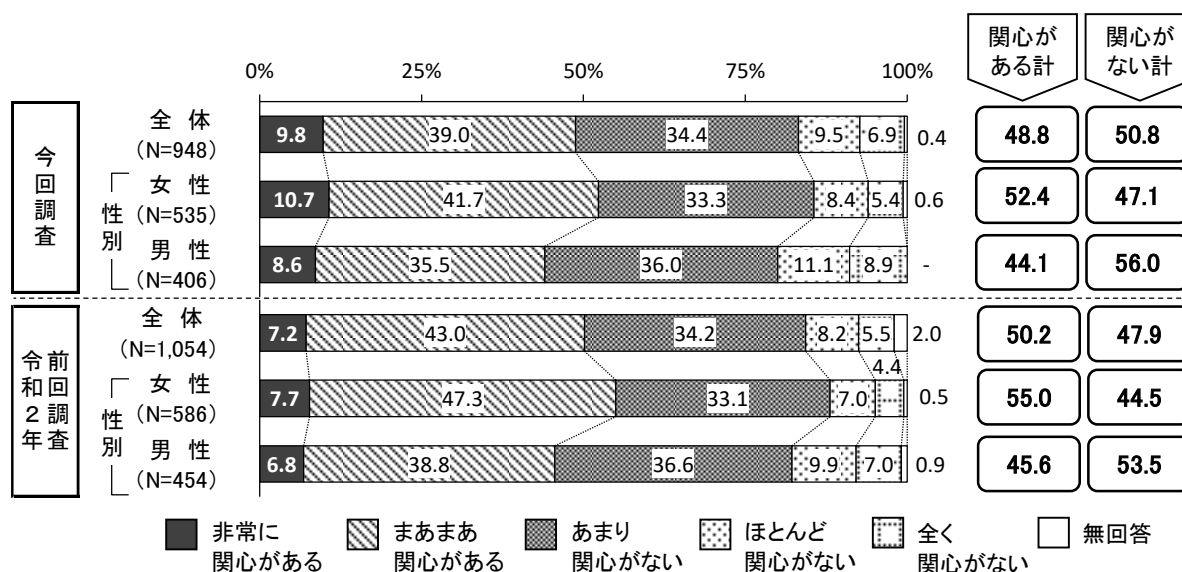
### 第1章 男女平等に関する考え方について

#### 1. 男女平等や男女共同参画への関心度

- 男女平等・男女共同参画への関心度は女性が約5割で男性よりも約8ポイント高い。前回調査と比べ男女とも関心度はあまり変わらない。
- 女性の30代、男性の30代と50代で『関心がない』が約6割から6割台半ばで高い。

問1. あなたは男女平等や男女共同参画をテーマにする話題にどの程度関心がありますか。(○印は1つ)

図表1-1 男女平等や男女共同参画への関心度 [全体、性別] (前回調査比較)



男女平等や男女共同参画への関心度について、全体では「非常に関心がある」(9.8%)と「まあまあ関心がある」(39.0%)を合わせた『関心がある』は48.8%で、「あまり関心がない」(34.4%)と「ほとんど関心がない」(9.5%)、「全く関心がない」(6.9%)を合わせた『関心がない』は50.8%と、『関心がない』がやや上回っている。

性別にみると、『関心がある』は女性が52.4%で、男性(44.1%)を8.3ポイント上回り、『関心がない』が男性は56.0%で女性(47.1%)を8.9ポイント上回っている。男女平等や男女共同参画への関心度は女性の方が高いようである。

前回調査と比べると、男女ともあまり大きな差はみられない。

## II 調査結果の分析

年齢別にみると、女性の30代と男性の30代と50代で『関心がある』の割合が3割台半ばから約4割と他の年齢に比べて低く、『関心がない』は約6割から6割台半ばと高い。

図表1-2 男女平等や男女共同参画への関心度 [全体、年齢別]

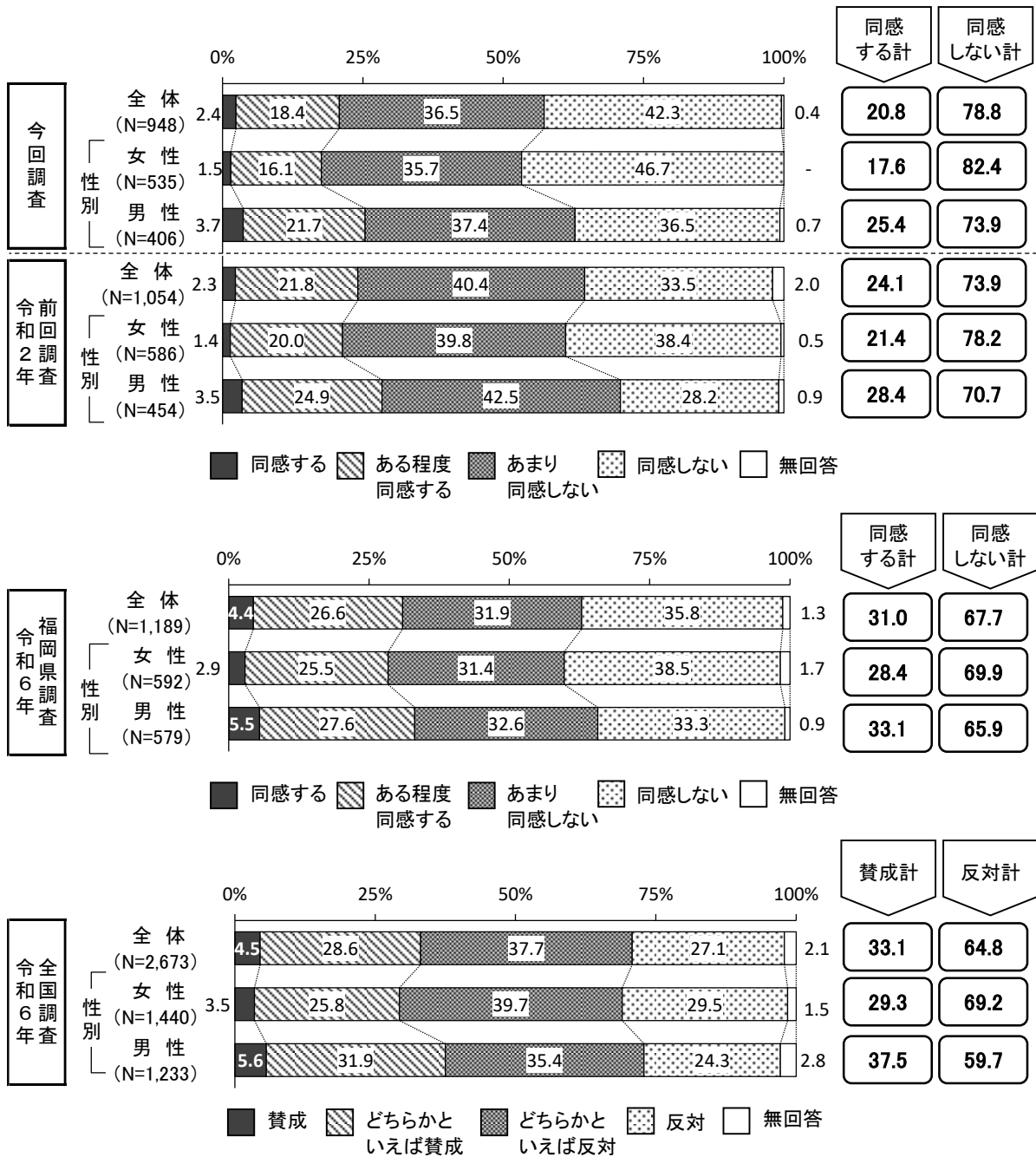
		標本数	非常に 関心がある	まあ まあ関心 がある	あまり 関心 がない	いほ んど関 心 がな い	全 く関 心 がな い	無 回 答	関 心 が あ る 計	関 心 が な い 計
全 体		948 100.0	93 9.8	370 39.0	326 34.4	90 9.5	65 6.9	4 0.4	463 48.8	481 50.8
年 齢 別	女性:18~29歳	69	11.6	40.6	21.7	13.0	13.0	-	52.2	47.7
	女性:30~39歳	86	10.5	31.4	34.9	14.0	9.3	-	41.9	58.2
	女性:40~49歳	108	9.3	41.7	35.2	11.1	1.9	0.9	51.0	48.2
	女性:50~59歳	125	13.6	44.0	36.0	3.2	2.4	0.8	57.6	41.6
	女性:60~69歳	65	7.7	46.2	38.5	4.6	3.1	-	53.9	46.2
	女性:70歳以上	81	9.9	46.9	29.6	6.2	6.2	1.2	56.8	42.0
	男性:18~29歳	45	13.3	37.8	31.1	2.2	15.6	-	51.1	48.9
	男性:30~39歳	67	13.4	20.9	40.3	13.4	11.9	-	34.3	65.6
	男性:40~49歳	70	5.7	37.1	35.7	11.4	10.0	-	42.8	57.1
	男性:50~59歳	89	5.6	32.6	39.3	16.9	5.6	-	38.2	61.8
	男性:60~69歳	53	15.1	35.8	37.7	3.8	7.5	-	50.9	49.0
	男性:70歳以上	81	3.7	48.1	30.9	11.1	6.2	-	51.8	48.2
	無回答	9	11.1	33.3	33.3	11.1	-	11.1	44.4	44.4

2. 性別役割分担意識

- 「男は仕事、女は家庭」に『同感しない』女性は82.4%、男性は73.9%。前回調査より男女とも3.2~4.2ポイント増加。
- 福岡県・全国調査と比べ、性別役割分担を容認しない人は多い。

問2. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたの考えに最も近いのはどれですか。(○印は1つ)

図表1-3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



## Ⅱ 調査結果の分析

---

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、全体では「同感する」(2.4%)と「ある程度同感する」(18.4%)を合わせた『同感する』が20.8%で、「同感しない」(42.3%)と「あまり同感しない」(36.5%)を合わせた『同感しない』が78.8%と性別役割分担意識を容認しない人が58.0ポイント上回っている。

性別にみると、女性の『同感しない』は82.4%で男性(73.9%)を8.5ポイント上回っている。『同感する』は男性が25.4%で女性(17.6%)を7.8ポイント上回り、男性の方が性別役割分担を容認する人が多い。

前回調査と比べると、男女とも『同感しない』が3.2~4.2ポイント増え、『同感する』が3.0~3.8ポイント減るなど、性別役割分担意識を容認しない人が男女ともやや増えている。

令和6年9月に実施された福岡県の「男女共同参画社会に向けての意識調査」(以下、福岡県調査という)と比べると、今回調査の方が男女とも『同感しない』が8.0~12.5ポイント上回っている。

令和6年12月に実施された内閣府の「男女共同参画社会に関する世論調査」(以下、全国調査という)と比べると、設問項目が違うため正確な比較はできないが、性別役割分担を容認しない人は女性で13.2ポイント、男性では14.2ポイント高いなど、今回調査の方が男女とも性別役割分担を容認しない人が多い。

年齢別にみると、女性の50代で『同感しない』が87.2%と最も高く、それ以下の年代でも8割台、男性は60代(81.1%)のみが8割台と高い。男性の18～29歳は『同感する』が33.4%と最も高い。

図表1-4 「男は仕事、女は家庭」という考え方について [全体、年齢別]

			(%)						
		標本数	同感する	ある程度同感する	あまり同感しない	同感しない	無回答	同感する計	同感しない計
全体		948	23	174	346	401	4	197	747
		100.0	2.4	18.4	36.5	42.3	0.4	20.8	78.8
年齢別	女性:18～29歳	69	4.3	13.0	27.5	55.1	-	17.3	82.6
	女性:30～39歳	86	3.5	16.3	40.7	39.5	-	19.8	80.2
	女性:40～49歳	108	0.9	15.7	37.0	46.3	-	16.6	83.3
	女性:50～59歳	125	0.8	12.0	36.0	51.2	-	12.8	87.2
	女性:60～69歳	65	-	21.5	33.8	44.6	-	21.5	78.4
	女性:70歳以上	81	-	21.0	35.8	43.2	-	21.0	79.0
	男性:18～29歳	45	17.8	15.6	28.9	37.8	-	33.4	66.7
	男性:30～39歳	67	4.5	20.9	35.8	35.8	3.0	25.4	71.6
	男性:40～49歳	70	-	24.3	24.3	51.4	-	24.3	75.7
	男性:50～59歳	89	1.1	25.8	42.7	30.3	-	26.9	73.0
	男性:60～69歳	53	1.9	15.1	41.5	39.6	1.9	17.0	81.1
	男性:70歳以上	81	2.5	22.2	46.9	28.4	-	24.7	75.3
	無回答	9	-	11.1	44.4	33.3	11.1	11.1	77.7

3. 分野別にみた男女の地位の平等感

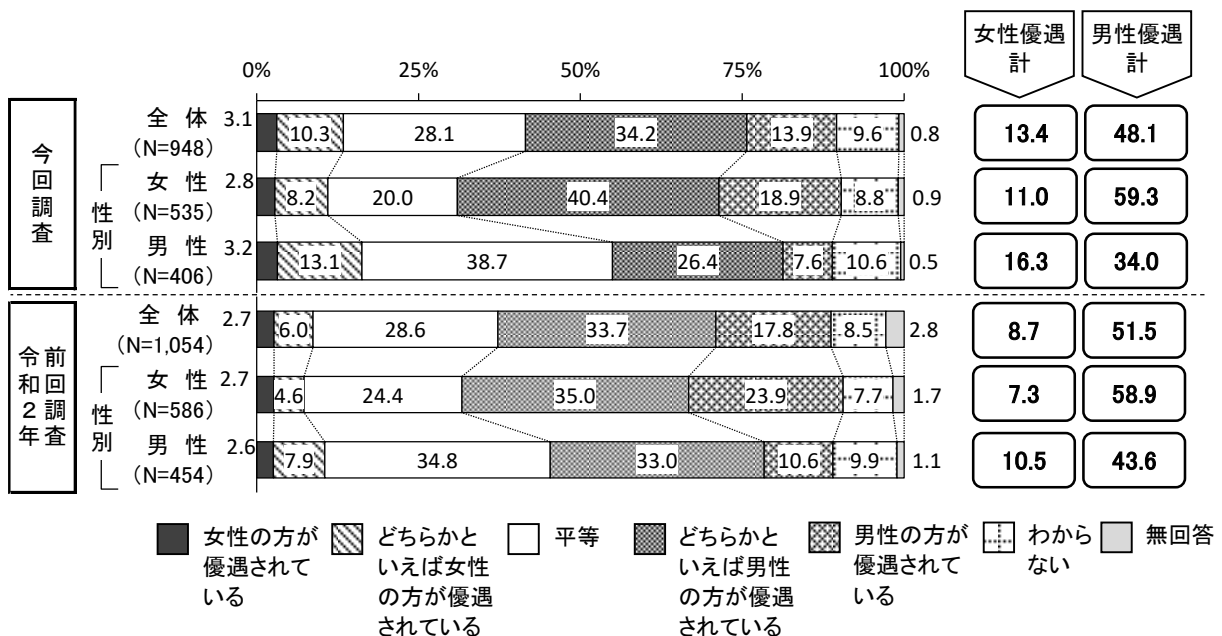
- 「平等」との回答が高い分野は「学校教育の場」で約5割。その他の分野は『男性優位』の割合が高く、「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり」では約7割、「社会全体」は約6割、「家庭生活」で約5割、「地域活動・社会活動の場」「職場」で約4割、「法律や制度のうえ」で3割台半ば。
- 女性の方が男性よりも「平等」の割合は低く、『男性優遇』の割合が高い。
- 「政治の場で」「社会通念・慣習・しきたりなど」の分野では、女性の『男性優遇』の割合は前回調査と変わらない。男性はすべての分野で『男性優遇』の割合が減少。

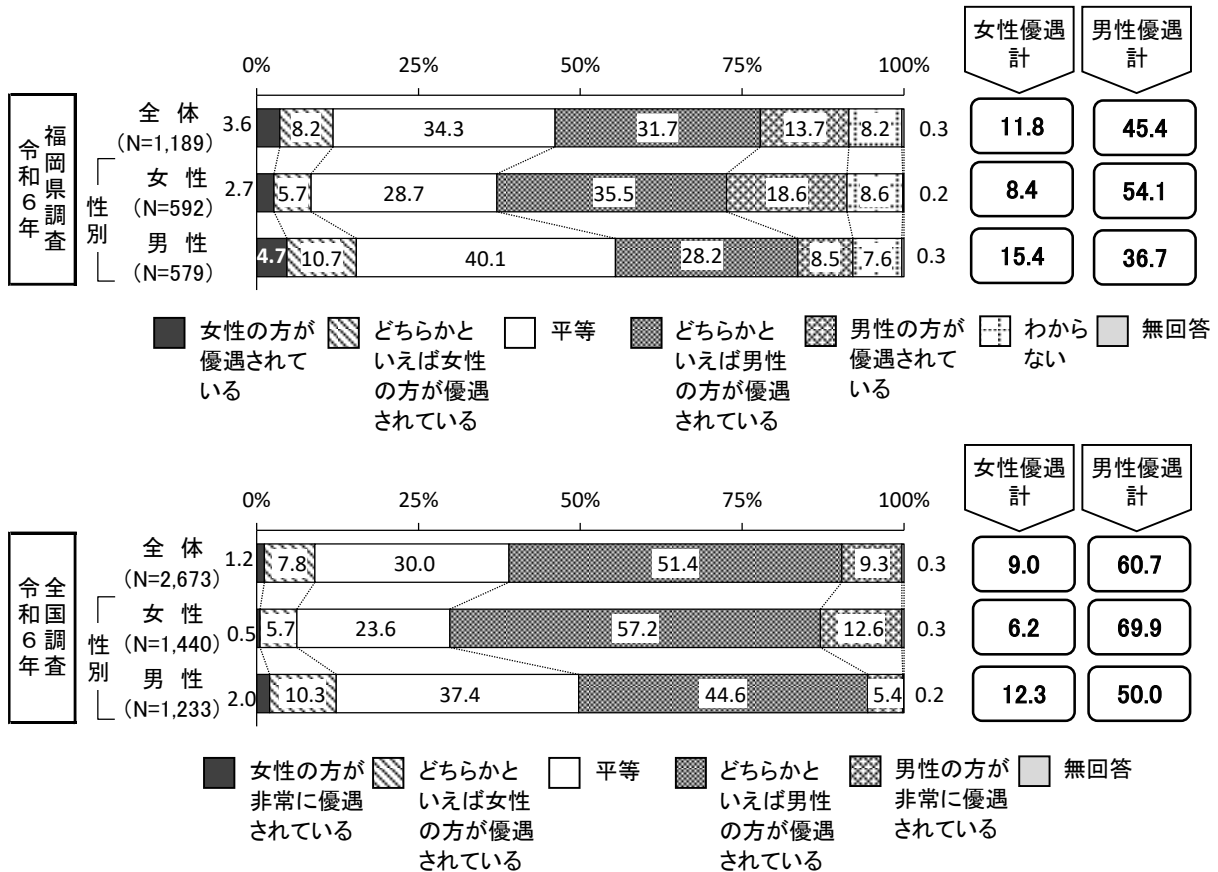
問3. あなたは、次にあげる（ア）から（ク）までの分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれについて、最もあてはまるものを選んでください。（〇印は1つずつ）

社会における8種類の分野において、男女の地位の平等感について、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「男性の方が優遇されている」の5段階でたずねた。

（ア）家庭生活

図表1-5 家庭生活での男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)





家庭生活では、「平等」は 28.1%、「男性の方が優遇されている」(13.9%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(34.2%)を合計した『男性優遇』は 48.1%である。『女性優遇』(「女性の方が優遇されている」(3.1%)と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(10.3%)の合計)は 13.4%である。

性別にみると、「平等」は女性が 20.0%、男性が 38.7%と男性の方が女性より 18.7 ポイント高い。一方、『男性優遇』は、女性は 59.3%に対し男性は 34.0%と女性の方が 25.3 ポイント高くなっている。女性が感じているほど男性自身は男性が優遇されているとは認識してはおらず、平等であると認識している傾向にあり、男性と女性で家庭生活の平等についての認識が異なっていることがわかる。

前回調査と比べると、女性はあまり大きな変化はみられないが、男性は『男性優遇』が 9.6 ポイント減り、「平等」や『女性優遇』が 3.9~5.8 ポイント増えていることから、家庭生活における男性優遇との認識はやや低くなっているようである。

福岡県調査と比べると、女性の『男性優遇』は今回調査の方が 5.2 ポイント高く「平等」は 8.7 ポイント低いなど家庭生活での平等感は福岡県より低くなっている。

全国調査の項目とは違いがあるため正確な比較はできないが、今回調査の方が男女とも『男性優遇』は女性で 10.6 ポイント、男性で 16.0 ポイント低く、「平等」は男女ともあまり変わらない。家庭生活での平等感は男女とも全国より高いようである。

II 調査結果の分析

年齢別にみると、女性は年齢が高くなるほど『男性優遇』の割合が高くなり70歳以上では71.6%と最も高い。女性の18～29歳と男性の50代以下では『女性優遇』が約2割から3割と高いのが目立つ。「平等」は男性の18～29歳と60代以上で約4割から5割と高い。

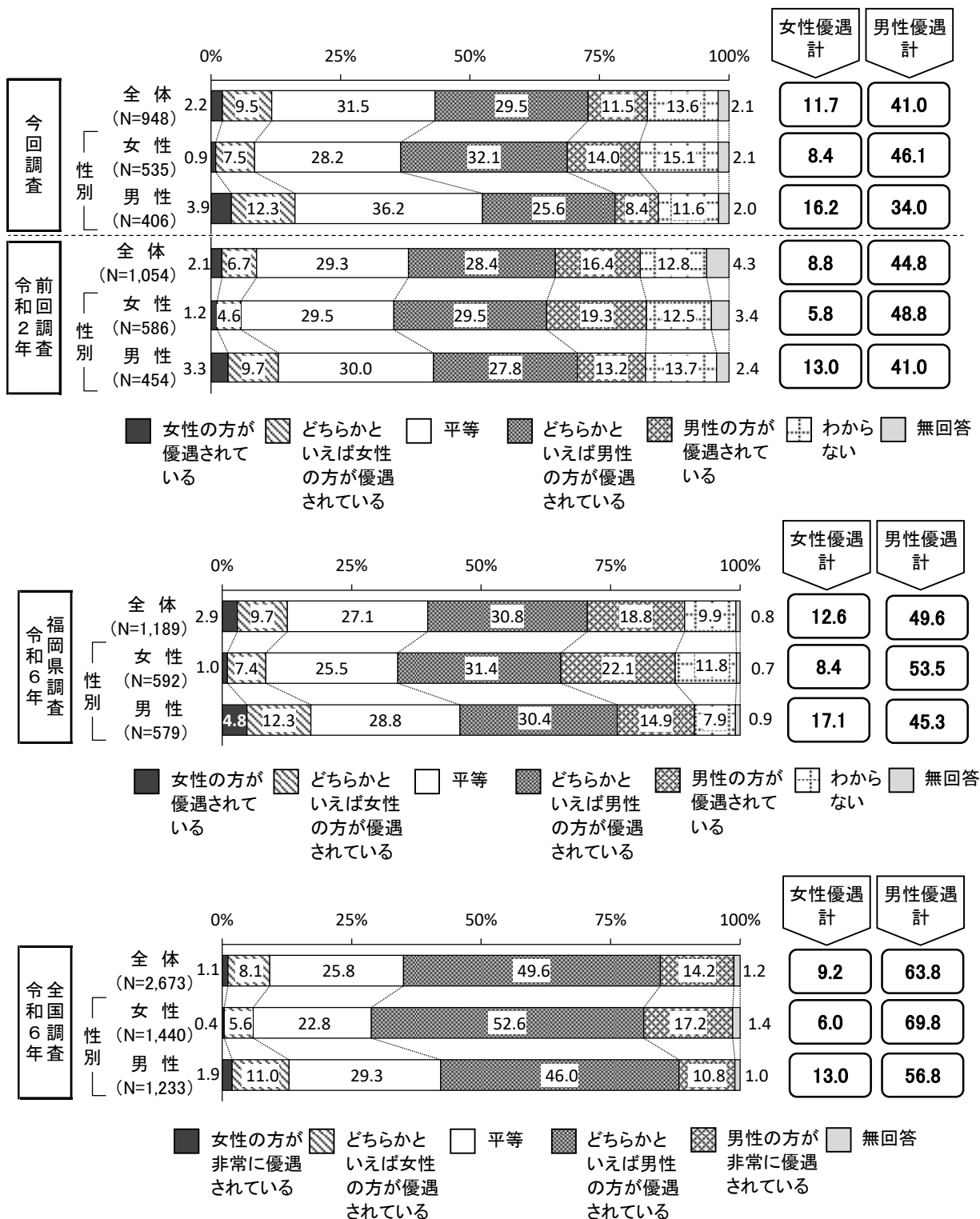
配偶関係別にみると、女性で配偶者がいる人の『男性優遇』は62.3%で未婚(50.8%)よりも11.5ポイント高い。

図表1-6 家庭生活での男女の地位の平等感 [全体、年齢別、配偶関係別]

		標本数	女性の方が優遇	さ女性と男性の優え	平等	さ男性の方が優遇	わからぬ	無回答	女性優遇計	男性優遇計	
全体		948 100.0	29 3.1	98 10.3	266 28.1	324 34.2	132 13.9	91 9.6	8 0.8	127 13.4	456 48.1
年齢別	女性:18～29歳	69	7.2	21.7	26.1	26.1	14.5	4.3	-	28.9	40.6
	女性:30～39歳	86	3.5	14.0	22.1	34.9	10.5	12.8	2.3	17.5	45.4
	女性:40～49歳	108	3.7	4.6	23.1	39.8	22.2	6.5	-	8.3	62.0
	女性:50～59歳	125	-	4.8	16.8	43.2	21.6	12.0	1.6	4.8	64.8
	女性:60～69歳	65	1.5	3.1	21.5	46.2	21.5	6.2	-	4.6	67.7
	女性:70歳以上	81	2.5	3.7	12.3	50.6	21.0	8.6	1.2	6.2	71.6
	男性:18～29歳	45	11.1	8.9	42.2	17.8	6.7	11.1	2.2	20.0	24.5
	男性:30～39歳	67	3.0	19.4	35.8	20.9	4.5	16.4	-	22.4	25.4
	男性:40～49歳	70	-	18.6	30.0	34.3	8.6	8.6	-	18.6	42.9
	男性:50～59歳	89	6.7	13.5	33.7	25.8	7.9	12.4	-	20.2	33.7
	男性:60～69歳	53	-	13.2	49.1	28.3	3.8	3.8	1.9	13.2	32.1
	男性:70歳以上	81	-	4.9	45.7	28.4	12.3	8.6	-	4.9	40.7
無回答		9	11.1	22.2	22.2	11.1	-	22.2	11.1	33.3	11.1
配偶関係別	女性:未婚	138	5.1	11.6	21.0	31.2	19.6	10.1	1.4	16.7	50.8
	女性:配偶者がいる	326	2.1	8.0	20.9	43.3	19.0	5.8	0.9	10.1	62.3
	女性:配偶者と離・死別した	64	1.6	3.1	14.1	45.3	15.6	20.3	-	4.7	60.9
	男性:未婚	138	6.5	15.2	26.1	27.5	7.2	15.9	1.4	21.7	34.7
	男性:配偶者がいる	235	1.7	11.5	46.8	25.5	8.1	6.4	-	13.2	33.6
	男性:配偶者と離・死別した	24	-	20.8	29.2	29.2	8.3	12.5	-	20.8	37.5
無回答		23	4.3	4.3	30.4	26.1	8.7	21.7	4.3	8.6	34.8

(イ) 職場

図表1-7 職場での男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



職場での「平等」は31.5%、『男性優遇』は41.0%となっている。  
 性別にみると、「平等」は女性が28.2%、男性が36.2%と男性の方が8.0ポイント高く、『男性優遇』は女性が46.1%、男性が34.0%と女性の方が12.1ポイント高くなっている。

## II 調査結果の分析

前回調査と比べると、男性は「平等」が 6.2 ポイント増え、『男性優遇』が 7.0 ポイント減るなど男性の職場での男性優遇との認識は低くなっている。女性はあまり変わらない。

福岡県調査と比べると、『男性優遇』は男女とも今回調査の方が 7.4～11.3 ポイント低く、「平等」が男性で 7.4 ポイント高い。

全国調査と比べると、「平等」の割合は男女とも今回調査の方が 5.4～6.9 ポイント高い。

職業の有無別にみると、職業をもっている女性の 44.9%が『男性優遇』としているのに対して男性は 31.3%と女性の方が 13.6 ポイント高く、「平等」（女性 32.7%、男性 39.4%）は男性の方が 6.7 ポイント高い。

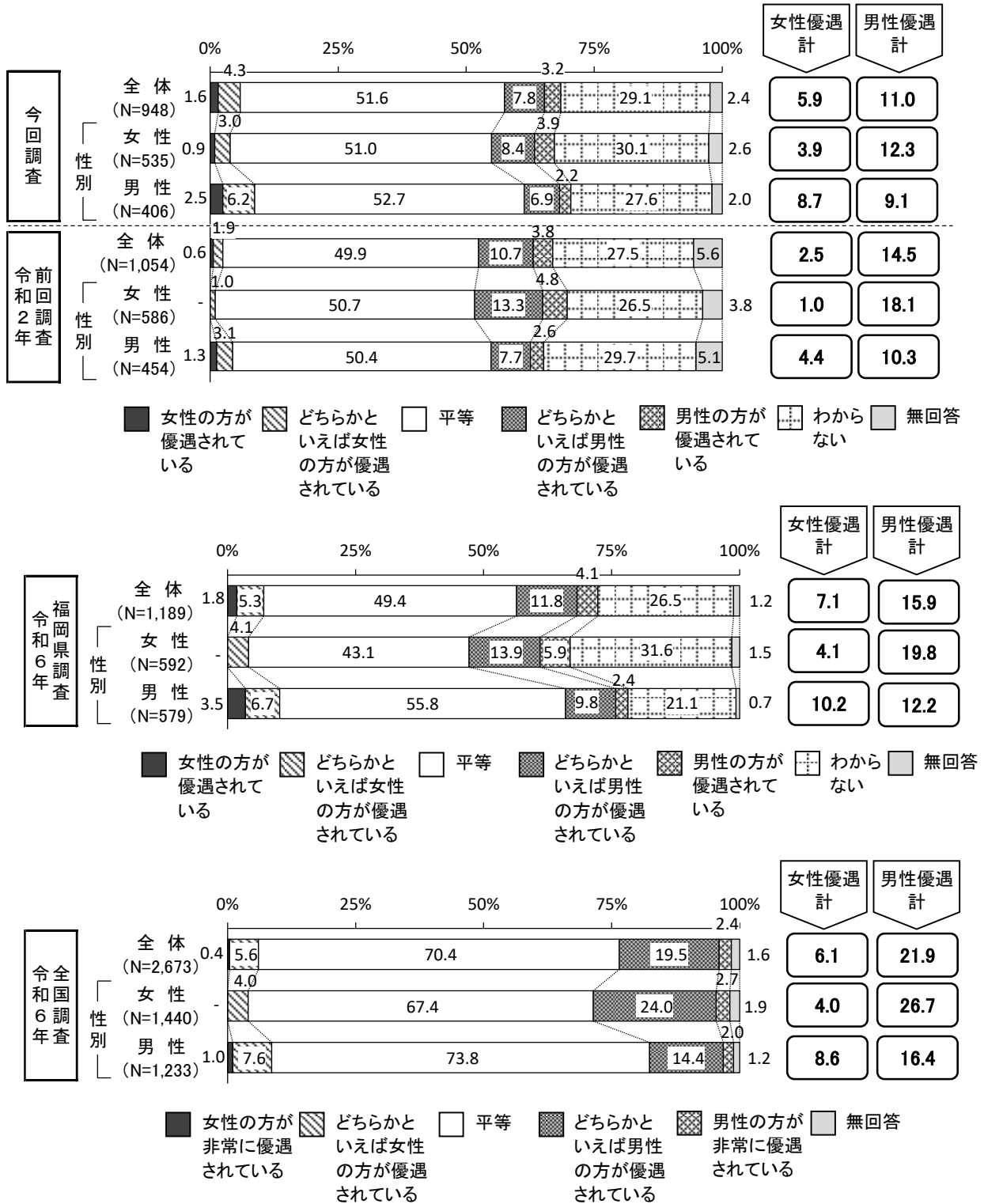
図表 1－8 職場での男女の地位の平等感 [全体、職業の有無別]

		標本数	女性の方が優遇さ	女性どちらの方が優いさ	平等	男性どちらの方が優いさ	男性どちらの方が優いさ	わからない	無回答	女性優遇計	男性優遇計
全体		948	21	90	299	280	109	129	20	111	389
		100.0	2.2	9.5	31.5	29.5	11.5	13.6	2.1	11.7	41.0
職業の有無別	女性：職業をもっている	392	0.8	9.2	32.7	30.6	14.3	10.7	1.8	10.0	44.9
	女性：以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない	109	0.9	1.8	14.7	39.4	15.6	24.8	2.8	2.7	55.0
	女性：いままで職業をもったことはない	24	4.2	8.3	20.8	25.0	8.3	33.3	-	12.5	33.3
	男性：職業をもっている	310	4.8	13.2	39.4	23.2	8.1	9.7	1.6	18.0	31.3
	男性：以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない	80	-	7.5	25.0	36.3	10.0	20.0	1.3	7.5	46.3
	男性：いままで職業をもったことはない	8	12.5	25.0	25.0	37.5	-	-	-	37.5	37.5
無回答		25	-	4.0	24.0	28.0	4.0	24.0	16.0	4.0	32.0

(%)

(ウ) 学校教育の場

図表1-9 学校教育の場での男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



学校教育の場では、8分野の中で「平等」(51.6%)の割合が最も高くなっている。ただし、「わからない」(29.1%)も他の分野に比べて高く、学校に関わる機会の少ない人では実際の様子が把握しにくいという状況もうかがえる。

性別にみると、「平等」は女性が51.0%で、男性(52.7%)とほぼ同程度である。

## II 調査結果の分析

前回調査と比べると、女性の『男性優遇』が5.8ポイント減っているが、その他に男女で大きな差はみられない。

福岡県調査と比べると、今回調査の方が男女とも『男性優遇』が3.1～7.5ポイント低い。

全国調査と比べると、今回調査の方が男女とも「平等」が女性で16.4ポイント、男性で21.1ポイント低い。

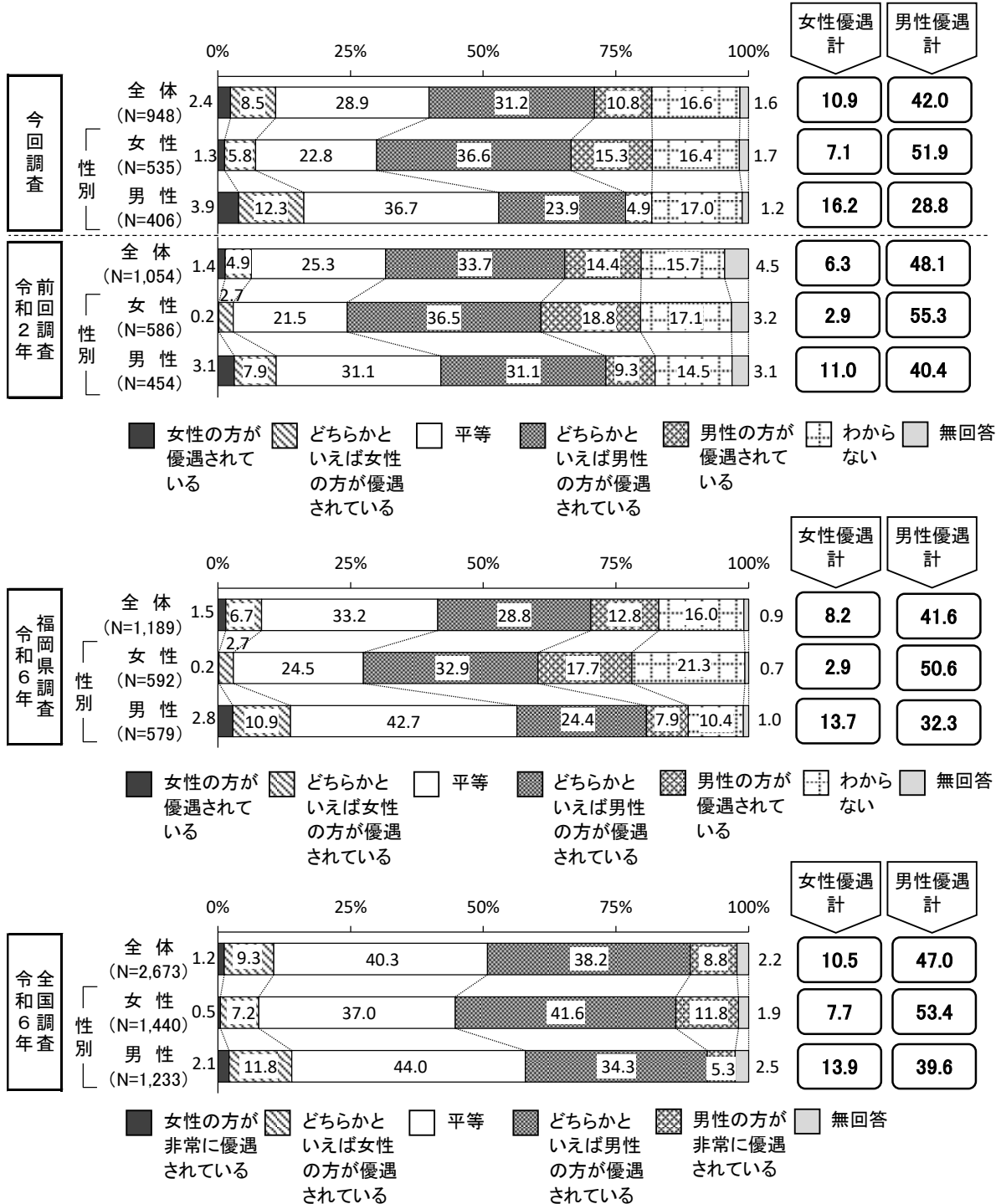
年齢別にみると、「平等」は女性の30代で64.0%と最も高く、女性の18～29歳でも59.4%、40代でも56.5%と5割を超えている。男性の18～29歳では『女性優遇』が26.7%と他の年代に比べて高くなっている。

図表1-10 学校教育の場での男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

		標本数	さ女性 れた ての い 方 が 優 遇	遇ばど さ女性 れ性ら てのか い方と るが い 優え	平 等	遇ばど さ男性 れ性ら てのか い方と るが い 優え	さ男性 れた ての い 方 が 優 遇	わ か ら な い	無 回 答	女 性 優 遇 計	男 性 優 遇 計
全体		948 100.0	15 1.6	41 4.3	489 51.6	74 7.8	30 3.2	276 29.1	23 2.4	56 5.9	104 11.0
年 齢 別	女性:18～29歳	69	5.8	10.1	59.4	4.3	4.3	15.9	-	15.9	8.6
	女性:30～39歳	86	-	5.8	64.0	7.0	-	19.8	3.5	5.8	7.0
	女性:40～49歳	108	-	1.9	56.5	4.6	6.5	30.6	-	1.9	11.1
	女性:50～59歳	125	-	1.6	46.4	9.6	3.2	36.8	2.4	1.6	12.8
	女性:60～69歳	65	-	-	41.5	15.4	3.1	33.8	6.2	-	18.5
	女性:70歳以上	81	1.2	-	37.0	11.1	6.2	39.5	4.9	1.2	17.3
	男性:18～29歳	45	6.7	20.0	55.6	2.2	2.2	11.1	2.2	26.7	4.4
	男性:30～39歳	67	6.0	6.0	55.2	7.5	-	25.4	-	12.0	7.5
	男性:40～49歳	70	-	7.1	44.3	4.3	2.9	41.4	-	7.1	7.2
	男性:50～59歳	89	2.2	5.6	58.4	1.1	2.2	28.1	2.2	7.8	3.3
	男性:60～69歳	53	1.9	-	45.3	11.3	5.7	35.8	-	1.9	17.0
	男性:70歳以上	81	-	2.5	54.3	14.8	1.2	21.0	6.2	2.5	16.0
無回答	9	-	-	44.4	11.1	-	33.3	11.1	-	-	11.1

(工) 地域活動・社会活動の場

図表1-11 地域活動・社会活動の場での男女の地位の平等感 [全体、性別]  
(前回・福岡県・全国調査比較)



※自治会やPTAなどの地域活動の場

地域活動・社会活動の場では、「平等」は28.9%、『男性優遇』が42.0%である。

性別にみると、「平等」は女性が22.8%、男性が36.7%と男性の方が13.9ポイント高く、『男性優遇』は女性が51.9%、男性が28.8%と女性の方が23.1ポイント高い。

前回調査と比べると、男性は『男性優遇』が11.6ポイント減り、「平等」は5.6ポイント増えている。『女性優遇』は男女とも4.2~5.2ポイント増えている。

## II 調査結果の分析

福岡県調査と比べると、今回調査の方が男性は「平等」が6.0ポイント低い、あまり大きな差はみられない。

全国調査と比べると、今回調査の方が男女とも「平等」は7.3～14.2ポイント低い。

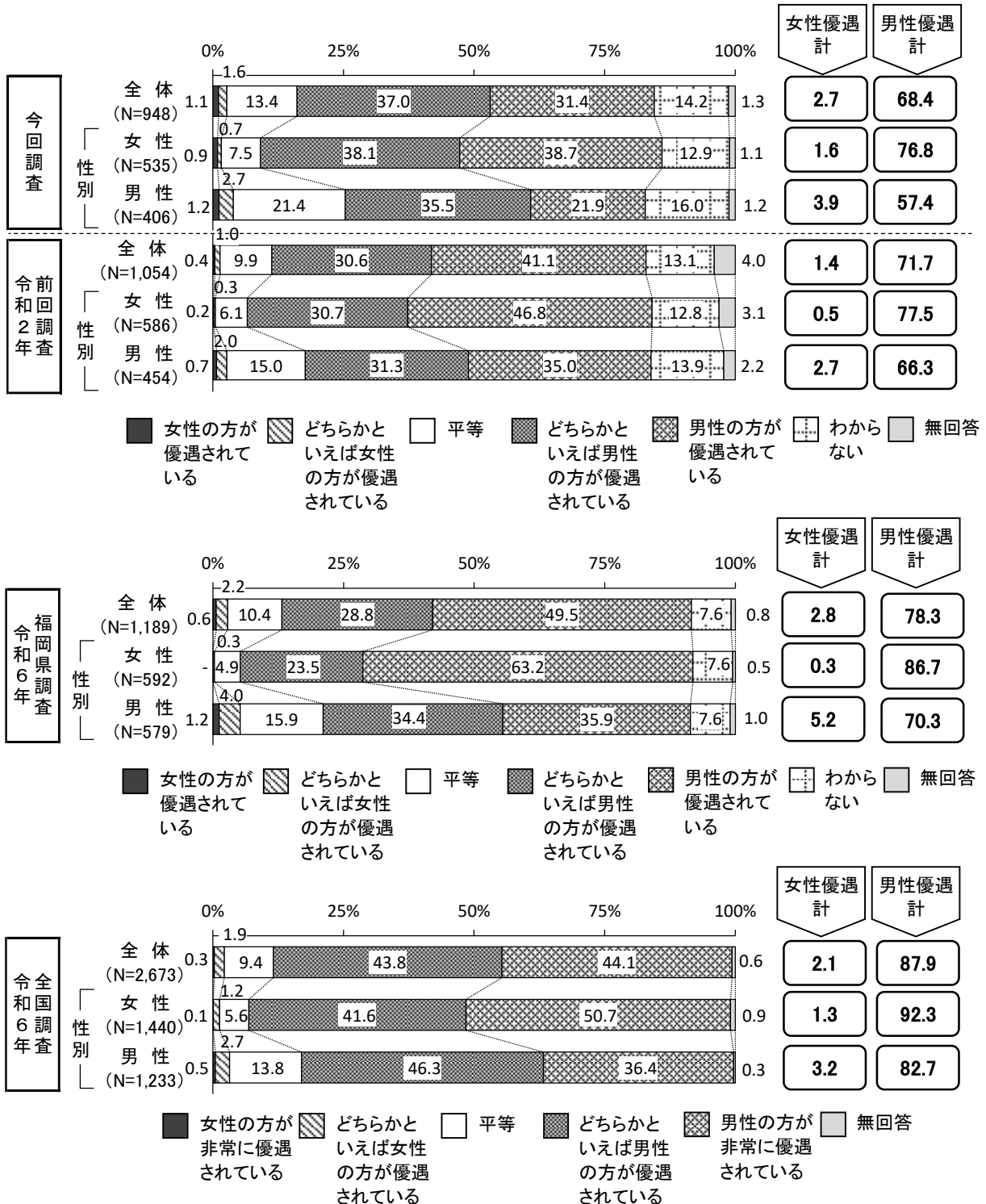
年齢別にみると、『男性優遇』は女性の60代で63.1%と最も高く、また50代(57.6%)、70歳以上(58.0%)でも約6割と高い。男性は50代と70歳以上を除く年代では、『男性優遇』より「平等」の割合の方が高い。

図表1-12 地域活動・社会活動の場での男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

		(%)									
		標本数	女性の方が優遇	どちらの方が優え	平等	どちらの方が優え	男性の方が優遇	わからない	無回答	女性優遇計	男性優遇計
全体		948 100.0	23 2.4	81 8.5	274 28.9	296 31.2	102 10.8	157 16.6	15 1.6	104 10.9	398 42.0
年齢別	女性:18～29歳	69	4.3	5.8	27.5	30.4	15.9	15.9	-	10.1	46.3
	女性:30～39歳	86	1.2	5.8	29.1	31.4	7.0	23.3	2.3	7.0	38.4
	女性:40～49歳	108	0.9	5.6	25.9	29.6	19.4	18.5	-	6.5	49.0
	女性:50～59歳	125	1.6	6.4	18.4	43.2	14.4	13.6	2.4	8.0	57.6
	女性:60～69歳	65	-	3.1	20.0	46.2	16.9	12.3	1.5	3.1	63.1
	女性:70歳以上	81	-	7.4	16.0	39.5	18.5	14.8	3.7	7.4	58.0
	男性:18～29歳	45	11.1	11.1	53.3	8.9	2.2	11.1	2.2	22.2	11.1
	男性:30～39歳	67	7.5	13.4	41.8	14.9	3.0	17.9	1.5	20.9	17.9
	男性:40～49歳	70	2.9	15.7	34.3	17.1	4.3	25.7	-	18.6	21.4
	男性:50～59歳	89	3.4	13.5	29.2	28.1	5.6	19.1	1.1	16.9	33.7
	男性:60～69歳	53	1.9	11.3	39.6	22.6	7.5	15.1	1.9	13.2	30.1
	男性:70歳以上	81	-	8.6	30.9	42.0	6.2	11.1	1.2	8.6	48.2
無回答	9	-	-	55.6	33.3	-	-	11.1	-	-	33.3

(オ) 政治の場

図表1-13 政治の場での男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



政治の場では、『男性優遇』は 68.4%と 8 分野中 2 番目に高く、「平等」は 13.4%と 2 番目に低いなど、男性優遇が強く認識されている分野である。

性別にみると、『男性優遇』は女性で 76.8%と男性 (57.4%) より 19.4 ポイント高く、「平等」は女性で 7.5%、男性で 21.4%と男性の方が 13.9 ポイント高い。女性で男性優遇との認識が強い。

II 調査結果の分析

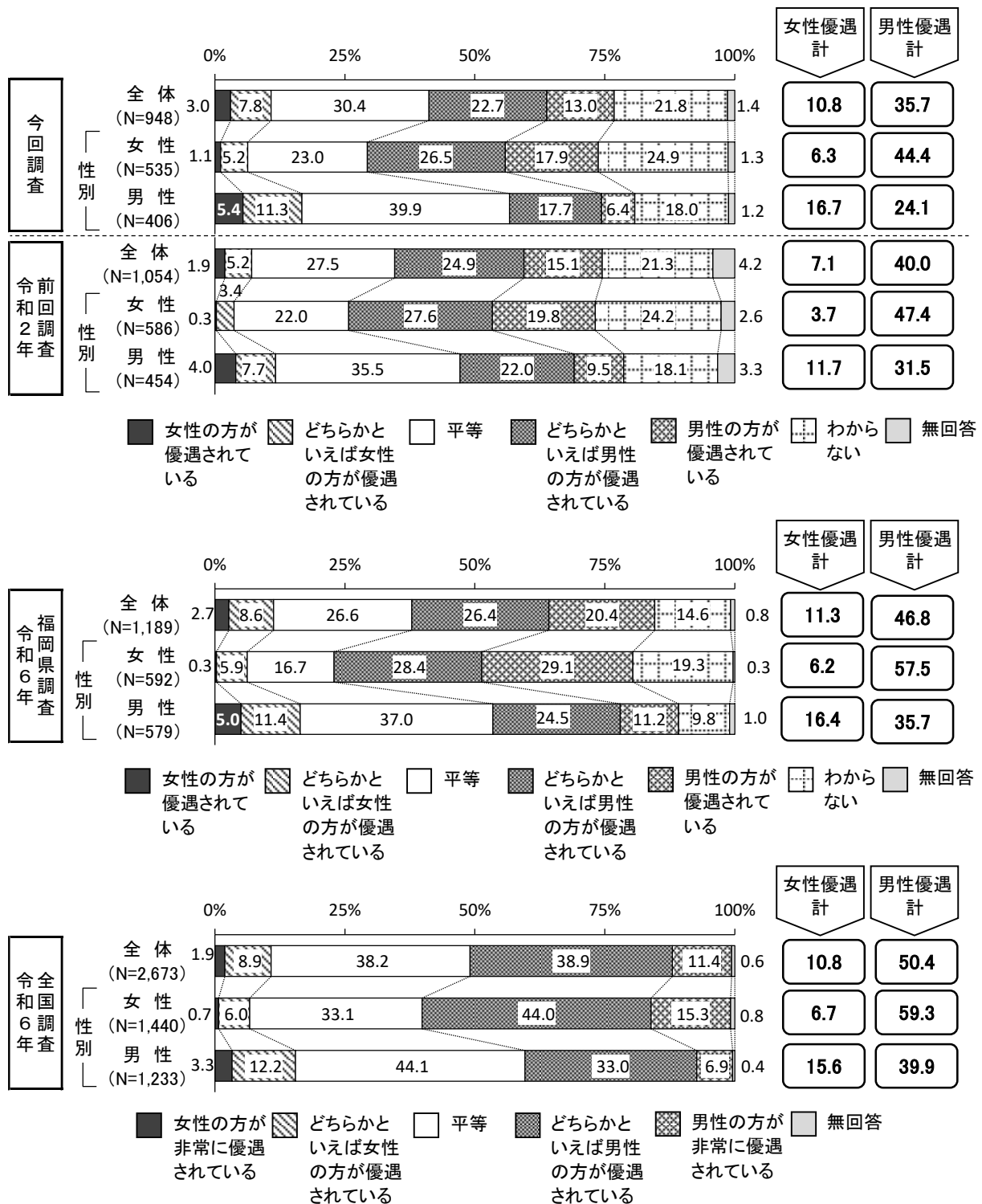
前回調査と比べると、女性はあまり大きな変化はみられないが、男性で『男性優遇』が8.9ポイント減り、「平等」が6.4ポイント増えている。

福岡県調査と比べると、今回調査の方が男女とも『男性優遇』の割合が9.9～12.9ポイント低く、男性は「平等」が5.5ポイント高い。

全国調査と比べると、男性の「平等」が今回調査の方が7.6ポイント高い。

(カ) 法律や制度のうえ

図表1-14 法律や制度のうえでの男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



法律や制度のうえでの「平等」は30.4%、『男性優遇』は35.7%である。

性別にみると、「平等」は男性が39.9%で、女性は23.0%と男性の方が16.9ポイント高く、『男性優遇』は女性が44.4%で、男性は24.1%と女性の方が20.3ポイント高いなど、男女の認識の差が大きい分野である。

前回調査と比べると、女性はあまり大きな変化はみられないが、男性は『男性優遇』が7.4ポイント減り、「平等」が4.4ポイント増えるなど、男性において『男性優遇』との認識はやや低くなっている。

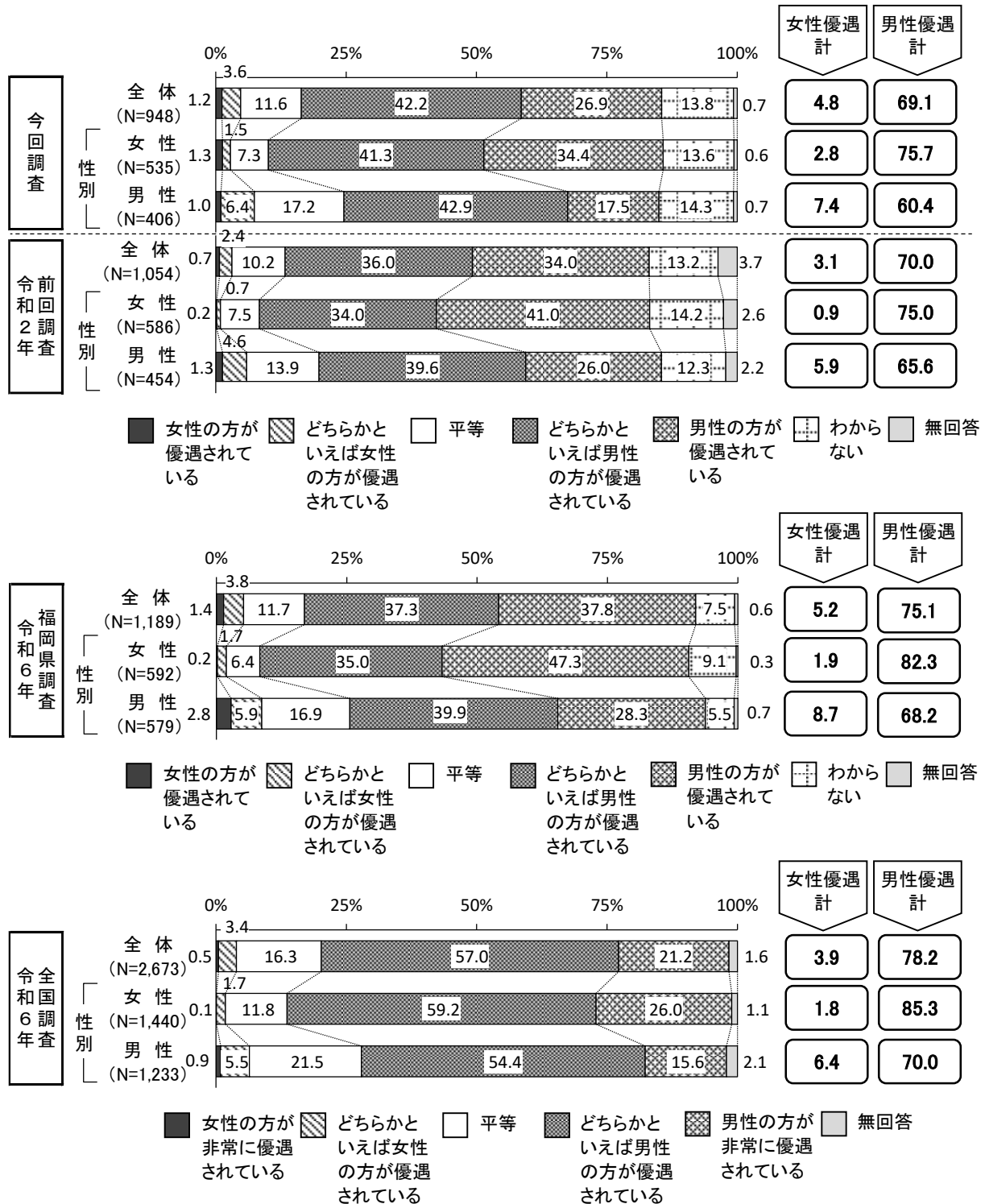
福岡県調査と比べると、男女とも『男性優遇』が11.6～13.1ポイントは今回調査の方が低く、「平等」は女性で6.3ポイント高い。

全国調査と比べると、今回調査の方が男女とも「平等」は4.2～10.1ポイント低くなっている。

II 調査結果の分析

(キ) 社会通念・慣習・しきたりなど

図表 1-15 社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感 [全体、性別]  
(前回・福岡県・全国調査比較)



社会通念・慣習・しきたりなどについて、『男性優遇』は 69.1%と 8 分野中最も高く、「平等」は 11.6%と最も低い。政治の場と同様に男性優遇の認識が強い分野となっている。

性別にみると、女性の『男性優遇』は75.7%、男性は60.4%と女性の方が15.3ポイント高く、「平等」は女性が7.3%、男性が17.2%と男性の方が9.9ポイント高い。

前回調査と比べると、女性はあまり変わらないが、男性は『男性優遇』が5.2ポイント減っている。

福岡県調査と比べると、今回調査の方が男女とも『男性優遇』の割合が6.6～7.8ポイント低く、「わからない」が4.5～8.8ポイント高い。

全国調査と比べると、今回調査の方が男女とも「平等」は4.3～4.5ポイント低い。

年齢別にみると、男女とも年齢の高い層で『男性優遇』の割合が高い傾向がみられ、特に女性の50代と60代では8割を超えている。男性は18～29歳で「平等」が28.9%、『女性優遇』が22.3%と他の年代に比べて高い。

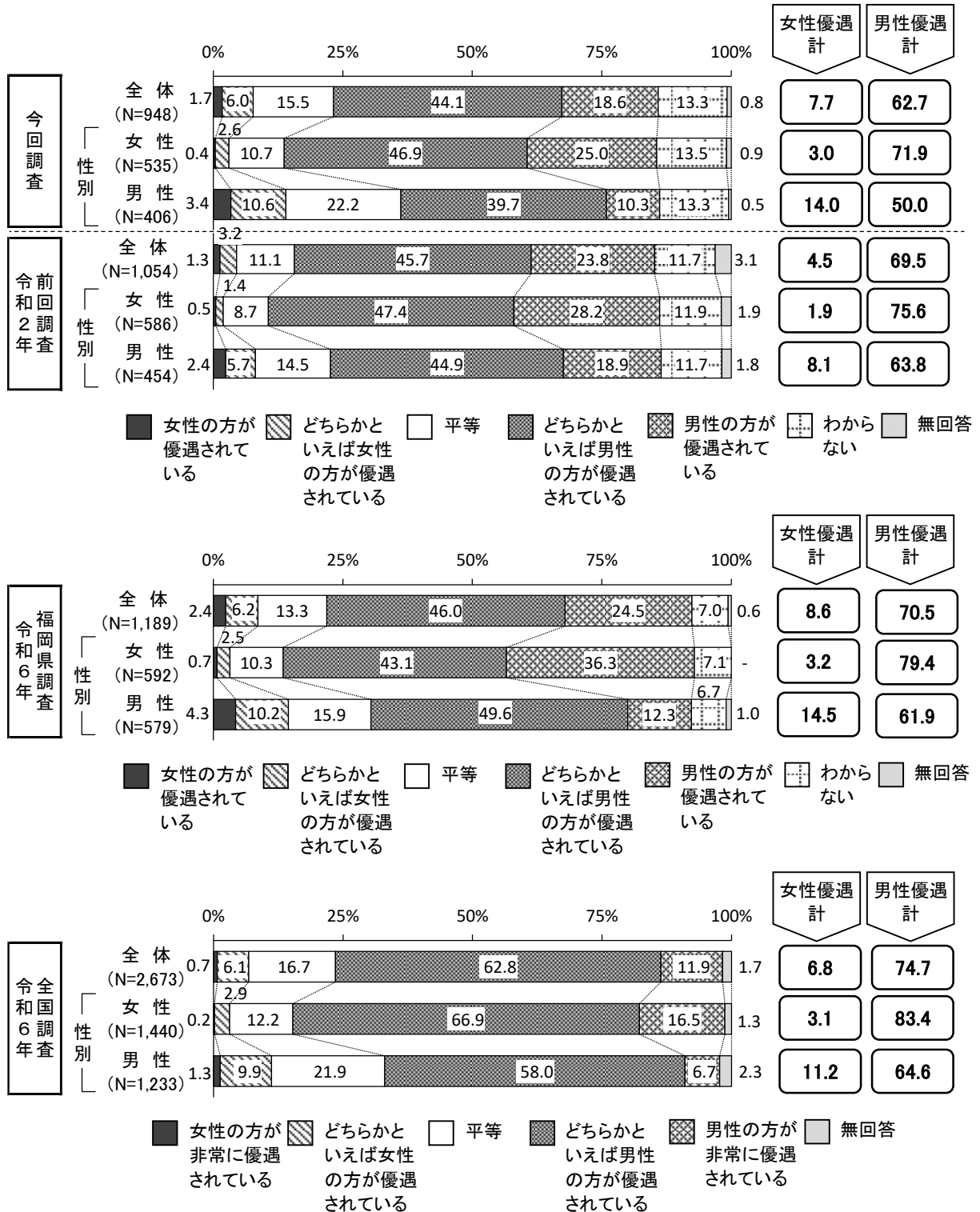
図表1-16 社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

		標本数	女性の方が優遇	どちらの方が優え	平等	どちらの方が優え	男性の方が優遇	わからない	無回答	女性優遇計	男性優遇計
全体		948 100.0	11 1.2	34 3.6	110 11.6	400 42.2	255 26.9	131 13.8	7 0.7	45 4.8	655 69.1
年齢別	女性:18～29歳	69	5.8	2.9	17.4	33.3	21.7	18.8	-	8.7	55.0
	女性:30～39歳	86	1.2	2.3	10.5	39.5	30.2	15.1	1.2	3.5	69.7
	女性:40～49歳	108	-	0.9	6.5	41.7	35.2	15.7	-	0.9	76.9
	女性:50～59歳	125	0.8	0.8	3.2	45.6	36.8	11.2	1.6	1.6	82.4
	女性:60～69歳	65	-	-	4.6	47.7	40.0	7.7	-	-	87.7
	女性:70歳以上	81	-	2.5	4.9	38.3	40.7	13.6	-	2.5	79.0
	男性:18～29歳	45	6.7	15.6	28.9	26.7	8.9	11.1	2.2	22.3	35.6
	男性:30～39歳	67	1.5	6.0	19.4	40.3	11.9	20.9	-	7.5	52.2
	男性:40～49歳	70	-	5.7	15.7	38.6	21.4	18.6	-	5.7	60.0
	男性:50～59歳	89	-	10.1	13.5	39.3	21.3	15.7	-	10.1	60.6
	男性:60～69歳	53	-	-	15.1	49.1	22.6	11.3	1.9	-	71.7
	男性:70歳以上	81	-	2.5	16.0	58.0	14.8	7.4	1.2	2.5	72.8
無回答	9	11.1	-	11.1	55.6	11.1	-	11.1	11.1	66.7	

II 調査結果の分析

(ク) 社会全体でみた場合

図表 1-17 社会全体でみた男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



社会全体でみた場合の「平等」は15.5%、『男性優遇』は62.7%と、男性が優遇されている社会ととらえられている。

性別にみると、『男性優遇』は女性では71.9%、男性は50.0%と女性の方が21.9ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』が減り、特に男性で 13.8 ポイント減り、「平等」は男性で 7.7 ポイント増えるなど、男性において男性優遇との認識が低くなっている。

福岡県調査と比べると、今回調査の方が『男性優遇』が男女とも 7.5～11.9 ポイント低い。

全国調査と比べると、「平等」は男女とも同程度である。

年齢別にみると、『男性優遇』は女性の年齢が高い層で割合が高い傾向がみられ、40 代以上では 7 割台半ばから約 8 割となっている。男性の 18～29 歳で『女性優遇』が 33.3%、「平等」が 35.6%と高いのが目立つ。また、男性は 40 代を除く年代と女性は 18～29 歳で「平等」が約 2 割から 2 割台半ばと平均の割合を超えている。

図表 1-18 社会全体での男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

(%)

		標本数	さ女性 れての いる方 が優 遇	遇ばど さ女性 らての か 方が い 優え	平 等	遇ばど さ男性 らての か 方が い 優え	さ男性 れての 方が 優 遇	わ から ない	無 回 答	女 性 優 遇 計	男 性 優 遇 計
全 体		948 100.0	16 1.7	57 6.0	147 15.5	418 44.1	176 18.6	126 13.3	8 0.8	73 7.7	594 62.7
年 齢 別	女性:18～29歳	69	1.4	8.7	23.2	36.2	17.4	13.0	-	10.1	53.6
	女性:30～39歳	86	1.2	3.5	11.6	47.7	18.6	16.3	1.2	4.7	66.3
	女性:40～49歳	108	-	1.9	12.0	50.9	23.1	12.0	-	1.9	74.0
	女性:50～59歳	125	-	0.8	8.0	52.0	27.2	10.4	1.6	0.8	79.2
	女性:60～69歳	65	-	-	6.2	44.6	33.8	15.4	-	-	78.4
	女性:70歳以上	81	-	1.2	4.9	44.4	30.9	16.0	2.5	1.2	75.3
	男性:18～29歳	45	11.1	22.2	35.6	20.0	-	8.9	2.2	33.3	20.0
	男性:30～39歳	67	9.0	10.4	23.9	29.9	6.0	20.9	-	19.4	35.9
	男性:40～49歳	70	1.4	10.0	14.3	45.7	14.3	14.3	-	11.4	60.0
	男性:50～59歳	89	2.2	14.6	20.2	40.4	10.1	12.4	-	16.8	50.5
	男性:60～69歳	53	-	1.9	24.5	41.5	15.1	15.1	1.9	1.9	56.6
	男性:70歳以上	81	-	6.2	19.8	51.9	13.6	8.6	-	6.2	65.5
	無回答	9	-	11.1	11.1	66.7	-	-	11.1	11.1	66.7

## 第2章 家庭生活について

### 1. 家庭内における性別役割分担の状況

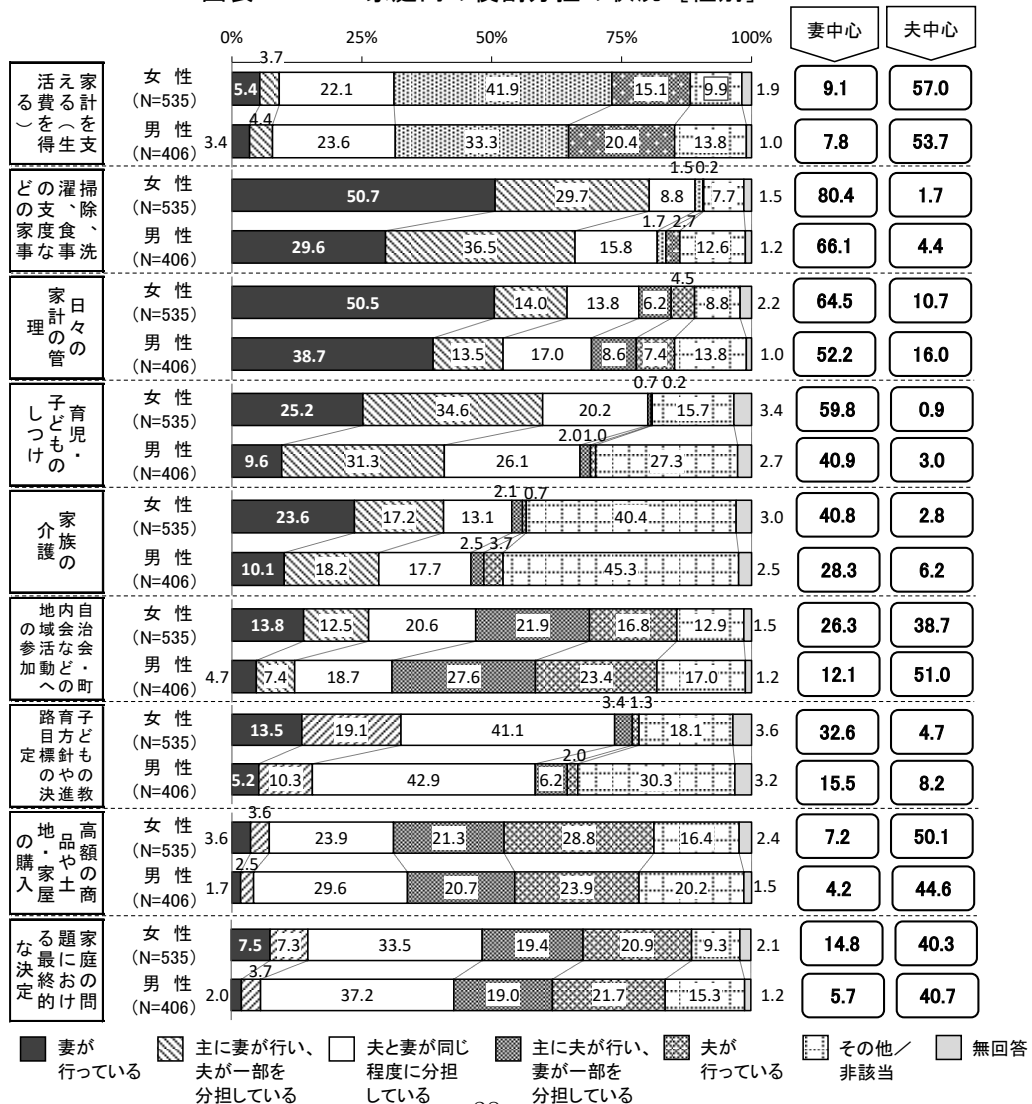
#### (1) 家庭内の役割分担の状況

- 家庭内の仕事で『夫中心』は「生活費を得る」「自治会・町内会などの地域活動」「高額の商品や土地・家屋の購入」「家庭の問題における最終的な決定」。
- 『妻中心』は「掃除、洗濯、食事の支度などの家事」「日々の家計の管理」「育児、子どものしつけ」「家族の介護」。
- 全体に女性は『妻中心』の割合が男性よりも高く、男性は「同じ程度に分担」の割合が女性よりも高い。

問4. あなたのご家庭では、次にあげるような事柄を、主にどなたがしていますか（されてい了吗か）（ア）から（ケ）のそれぞれについて、最もあてはまるものを選んでください。

配偶者・パートナーや子どものいない人も、一般的にどう思われるかお答えください。（○印は1ずつ）

図表2-1 家庭内の役割分担の状況 [性別]

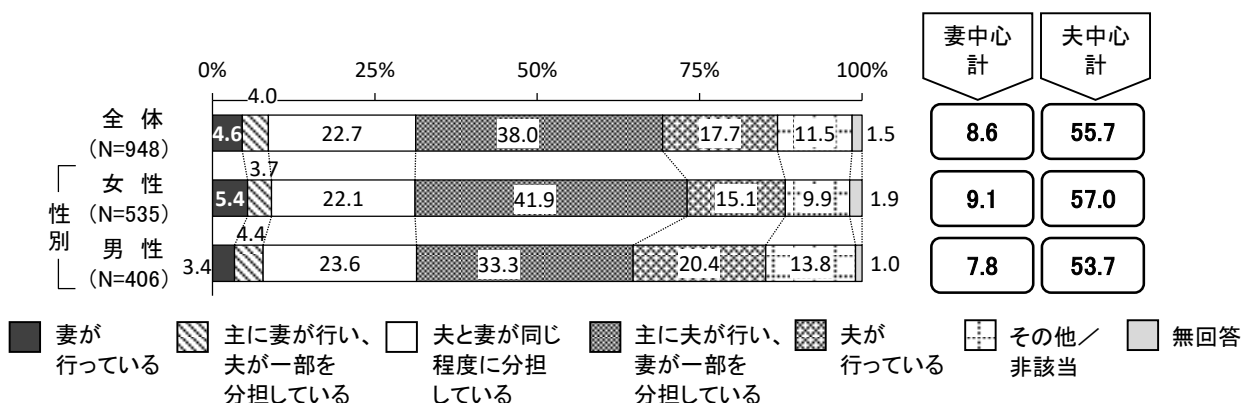


家庭内での男女の役割分担に関する9つの項目について、5段階でたずねた。「妻が行っている」と「主に妻が行い、夫が一部を分担している」との合計を『妻中心』、「夫が行っている」と「主に夫が行い、妻が一部を分担している」との合計を『夫中心』、「夫と妻が同じ程度に分担している」を「同じ程度に分担」とする。

前回調査比較の場合は前回調査では配偶者・パートナーのいる人にたずねているため、配偶者・パートナーのいる人と比べている。

(ア) 家計を支える（生活費を得る）

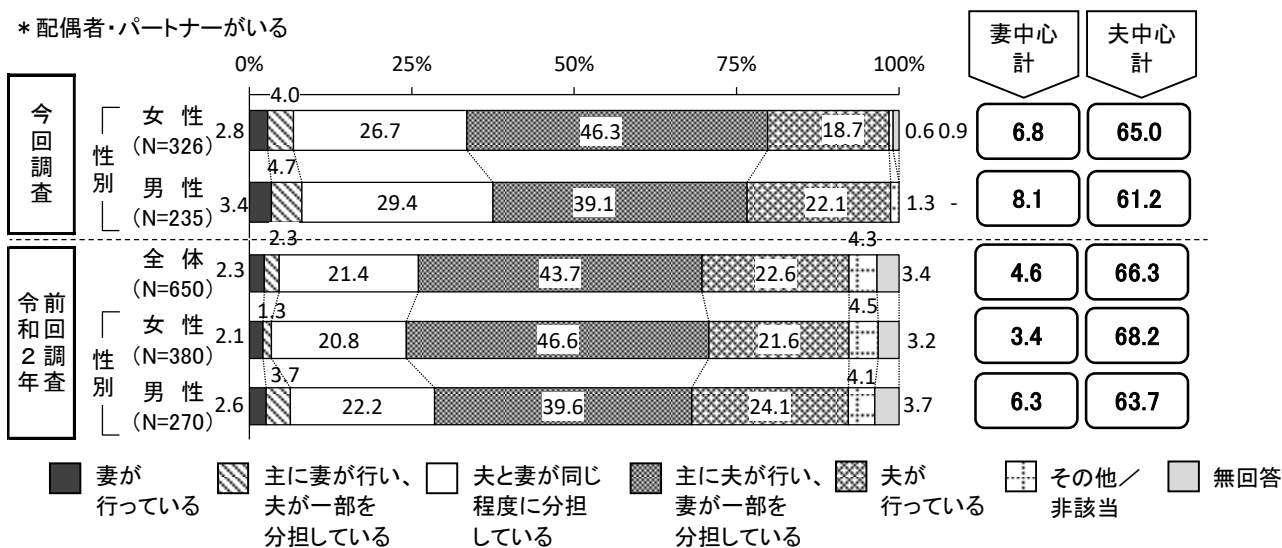
図表2-2 家計を支える（生活費を得る）[全体、性別]



家計を支える（生活費を得る）ことについては、『夫中心』は55.7%で、「同じ程度に分担」は22.7%、『妻中心』は8.6%となっており、生活費を得るのは、主に夫の役割とされていることがうかがえる。

性別にみると、『夫中心』のうち女性は「主に夫が行い、妻が一部を分担している」が41.9%と男性より8.6ポイント高く、男性は「夫が行っている」が20.4%と女性より5.3ポイント高い。

図表2-3 家計を支える（生活費を得る）[性別]（前回調査比較）



前回調査と比べると、男女とも『夫中心』がやや減り、「同じ程度に分担」が5.9~7.2ポイント増え、『妻中心』はやや増えている。

## II 調査結果の分析

年齢別にみると、男性の30代と60代で「同じ程度に分担」が3割台と高い。『夫中心』は女性の30代と60代以上と男性の40代で6割台と高い。

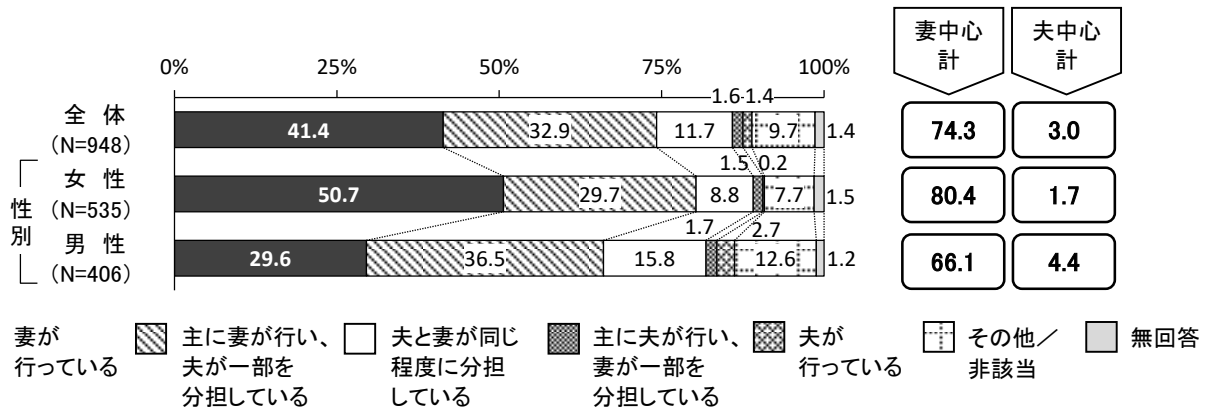
共働き別にみると、共働きでは「同じ程度に分担」（女性30.3%、男性35.4%）が3割台、『夫中心』は女性が61.7%、男性が60.8%と6割台である。女性が働いていても生活費を稼ぐのは夫の役割となっている。

図表2-4 家計を支える（生活費を得る）[全体、年齢別、共働き別]

		標本数	妻が行っている	一部に妻が負担している、夫が	夫と妻が同じ程度に	一部に夫が負担している、妻が	夫が行っている	その他／非該当	無回答	妻中心計	夫中心計
全体		948 100.0	44 4.6	38 4.0	215 22.7	360 38.0	168 17.7	109 11.5	14 1.5	82 8.6	528 55.7
年齢別	女性:18~29歳	69	10.1	5.8	20.3	34.8	8.7	18.8	1.4	15.9	43.5
	女性:30~39歳	86	2.3	4.7	22.1	47.7	14.0	8.1	1.2	7.0	61.7
	女性:40~49歳	108	7.4	2.8	26.9	43.5	9.3	8.3	1.9	10.2	52.8
	女性:50~59歳	125	5.6	3.2	20.8	36.8	21.6	11.2	0.8	8.8	58.4
	女性:60~69歳	65	4.6	1.5	23.1	43.1	20.0	6.2	1.5	6.1	63.1
	女性:70歳以上	81	2.5	4.9	18.5	45.7	16.0	7.4	4.9	7.4	61.7
	男性:18~29歳	45	4.4	8.9	24.4	31.1	13.3	13.3	4.4	13.3	44.4
	男性:30~39歳	67	3.0	4.5	32.8	26.9	16.4	16.4	-	7.5	43.3
	男性:40~49歳	70	2.9	-	15.7	37.1	25.7	18.6	-	2.9	62.8
	男性:50~59歳	89	3.4	3.4	15.7	38.2	19.1	20.2	-	6.8	57.3
	男性:60~69歳	53	-	3.8	34.0	35.8	17.0	7.5	1.9	3.8	52.8
	男性:70歳以上	81	6.2	7.4	23.5	29.6	27.2	4.9	1.2	13.6	56.8
	無回答	9	11.1	-	22.2	22.2	44.4	-	-	11.1	66.6
共働き別	女性:共働き	201	2.5	5.0	30.3	54.2	7.5	0.5	-	7.5	61.7
	女性:片働き	67	4.5	3.0	19.4	22.4	49.3	-	1.5	7.5	71.7
	女性:その他	23	4.3	-	13.0	73.9	8.7	-	-	4.3	82.6
	女性:二人とも働いていない	32	3.1	3.1	28.1	31.3	31.3	3.1	-	6.2	62.6
	男性:共働き	130	2.3	1.5	35.4	46.2	14.6	-	-	3.8	60.8
	男性:片働き	56	7.1	8.9	16.1	26.8	39.3	1.8	-	16.0	66.1
	男性:その他	15	6.7	-	40.0	20.0	26.7	6.7	-	6.7	46.7
	男性:二人とも働いていない	33	-	12.1	24.2	39.4	21.2	3.0	-	12.1	60.6
	無回答	391	6.6	3.6	15.3	30.2	14.3	26.6	3.3	10.2	44.5

(イ) 掃除、洗濯、食事の支度などの家事

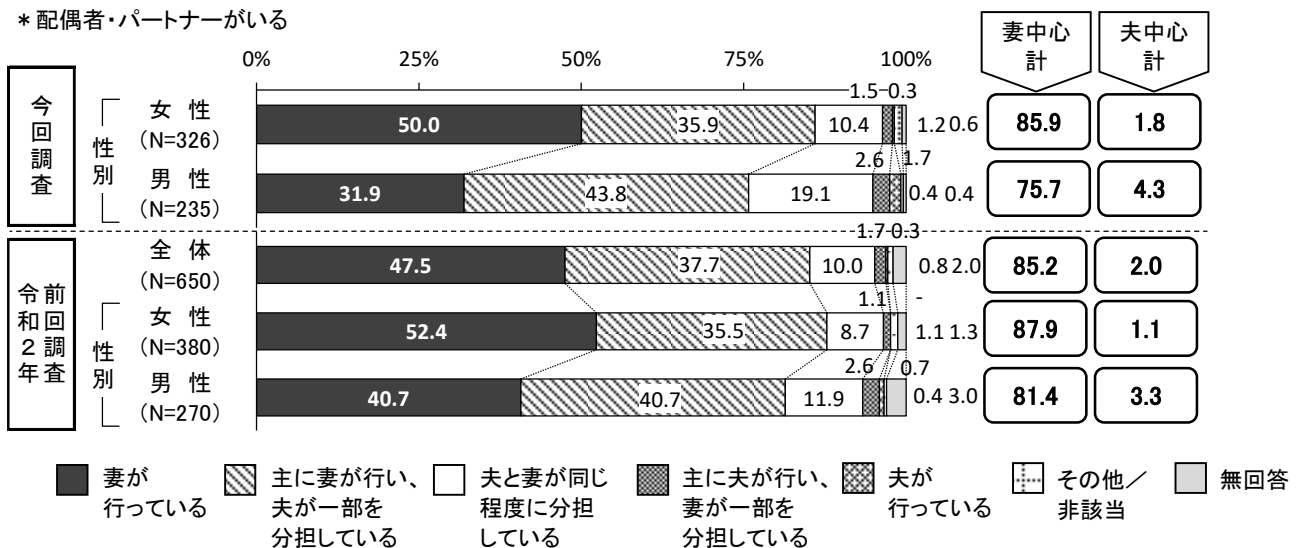
図表2-5 掃除、洗濯、食事の支度などの家事 [全体、性別]



掃除、洗濯、食事の支度などの家事をすることについては、『妻中心』は 74.3%と高く、次いで「同じ程度に分担」は 11.7%、『夫中心』は 3.0%である。生活費を得る役割が夫に偏っていたが、家事は妻に偏っている。

性別にみると、『妻中心』のうち「妻が行っている」は女性が 50.7%と、男性 (29.6%) より 21.1 ポイント高く、「主に妻が行い、夫が一部を分担している」は女性 29.7%、男性 36.5%と、男性が 6.8 ポイント高い。女性は自分が中心に家事を担い、男性は家事を一部分担していると認識している。

図表2-6 掃除、洗濯、食事の支度などの家事 [性別] (前回調査比較)



前回調査と比べると、女性はあまり変わらないが、男性は『妻中心』が 5.7 ポイント減り、「同じ程度に分担」が 7.2 ポイント増えている。

II 調査結果の分析

年齢別にみると、男女とも年齢が高い層で『妻中心』の割合が高い傾向がみられる。

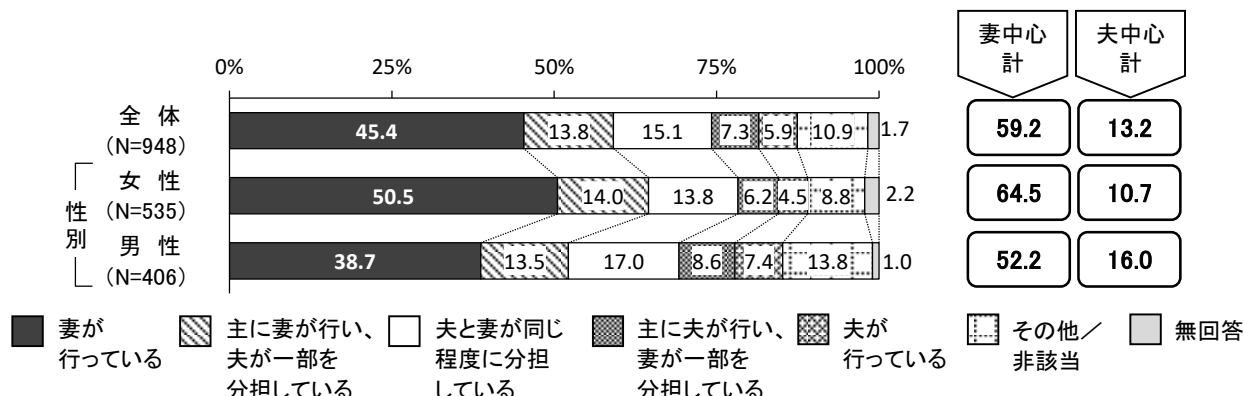
共働き別にみると、女性では『妻中心』の割合に共働き、片働きでの割合に大差はみられない。男性は共働きでは『妻中心』が 71.6%と片働きの 82.1%を 10.5 ポイント下回り、「同じ程度に分担」（共働き 23.8%、片働き 12.5%）は 11.3 ポイント上回っている。

図表 2-7 掃除、洗濯、食事の支度などの家事 [全体、年齢別、共働き別]

		標本数	妻が行っている	一主 部に を妻 が分 担行 して、 夫が	分 担し て同 じ程 度に	一主 部に 夫が 分 担行 して、 妻が	夫 が行 って いる	そ の 他 ／ 非 該 当	無 回 答	妻 中 心 計	夫 中 心 計
全体		948 100.0	392 41.4	312 32.9	111 11.7	15 1.6	13 1.4	92 9.7	13 1.4	704 74.3	28 3.0
年齢別	女性:18~29歳	69	47.8	23.2	10.1	4.3	-	13.0	1.4	71.0	4.3
	女性:30~39歳	86	36.0	38.4	16.3	1.2	-	7.0	1.2	74.4	1.2
	女性:40~49歳	108	50.0	27.8	11.1	1.9	-	6.5	2.8	77.8	1.9
	女性:50~59歳	125	46.4	36.0	4.8	1.6	0.8	9.6	0.8	82.4	2.4
	女性:60~69歳	65	58.5	29.2	6.2	-	-	4.6	1.5	87.7	-
	女性:70歳以上	81	69.1	19.8	4.9	-	-	4.9	1.2	88.9	-
	男性:18~29歳	45	22.2	35.6	20.0	-	4.4	11.1	6.7	57.8	4.4
	男性:30~39歳	67	17.9	41.8	23.9	-	-	16.4	-	59.7	-
	男性:40~49歳	70	31.4	38.6	7.1	4.3	1.4	17.1	-	70.0	5.7
	男性:50~59歳	89	22.5	38.2	13.5	3.4	2.2	20.2	-	60.7	5.6
	男性:60~69歳	53	30.2	32.1	22.6	1.9	3.8	7.5	1.9	62.3	5.7
	男性:70歳以上	81	49.4	30.9	12.3	-	4.9	1.2	1.2	80.3	4.9
無回答		9	22.2	66.7	-	-	11.1	-	-	88.9	11.1
共働き別	女性:共働き	201	40.8	43.8	12.9	1.5	-	0.5	0.5	84.6	1.5
	女性:片働き	67	56.7	26.9	10.4	3.0	1.5	1.5	-	83.6	4.5
	女性:その他	23	82.6	13.0	-	-	-	4.3	-	95.6	-
	女性:二人とも働いていない	32	62.5	31.3	3.1	-	-	3.1	-	93.8	-
	男性:共働き	130	23.1	48.5	23.8	3.1	0.8	0.8	-	71.6	3.9
	男性:片働き	56	33.9	48.2	12.5	3.6	-	-	1.8	82.1	3.6
	男性:その他	15	73.3	20.0	-	-	-	6.7	-	93.3	6.7
	男性:二人とも働いていない	33	42.4	30.3	21.2	-	-	6.1	-	72.7	6.1
	無回答		391	40.7	23.0	8.2	1.0	2.0	22.3	2.8	63.7

(ウ) 日々の家計の管理

図表2-8 日々の家計の管理 [全体、性別]

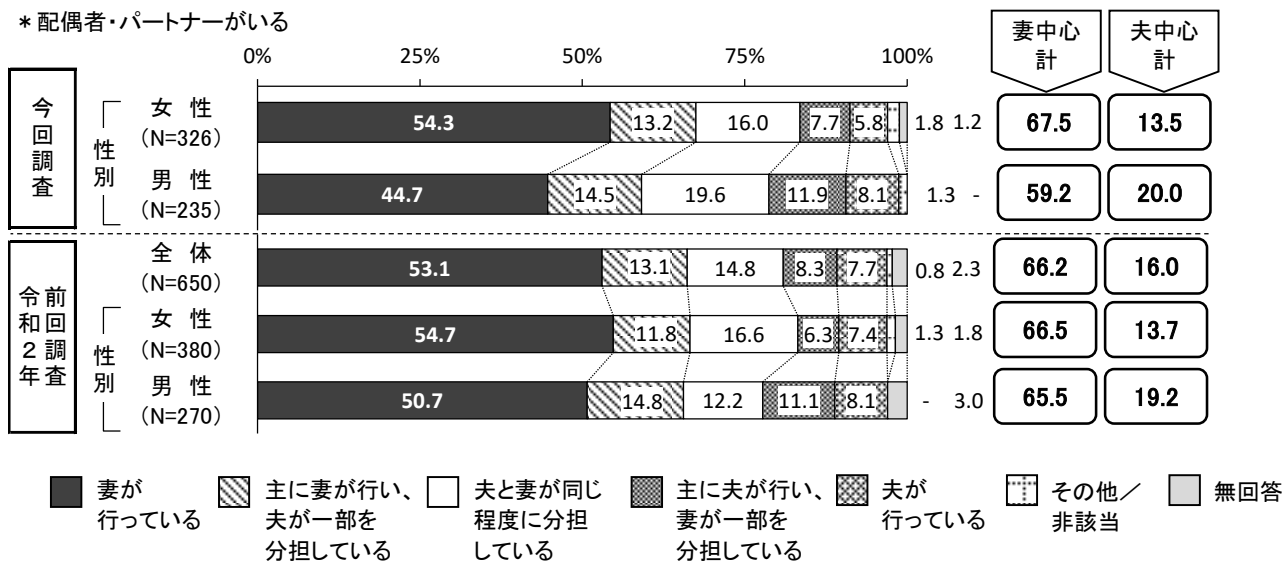


日々の家計の管理については、『妻中心』が59.2%と高く、『夫中心』は13.2%、「同じ程度に分担」は15.1%である。日々の家計支出の管理も妻が中心で行う割合が高い。

性別にみると、『妻中心』は女性で64.5%と男性(52.2%)を12.3ポイント上回っている。「同じ程度に分担」『夫中心』は男性の方が割合は高い。

図表2-9 日々の家計の管理 [性別] (前回調査比較)

\* 配偶者・パートナーがいる

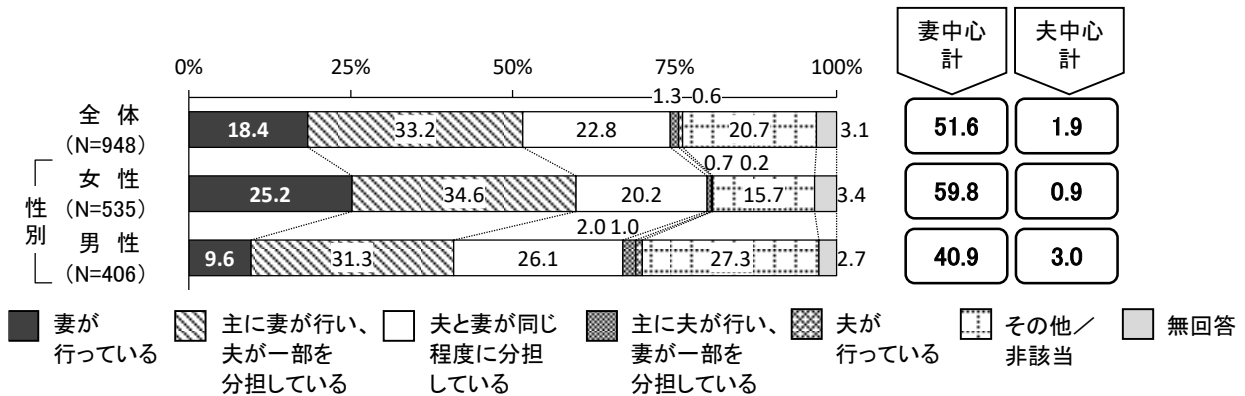


前回調査と比べると、女性はあまり変わらないが、男性は『妻中心』が6.3ポイント減り、そのうち「妻が行っている」は6.0ポイント減で、「同じ程度に分担」が7.4ポイント増えている。

II 調査結果の分析

(エ) 育児、子どものしつけ

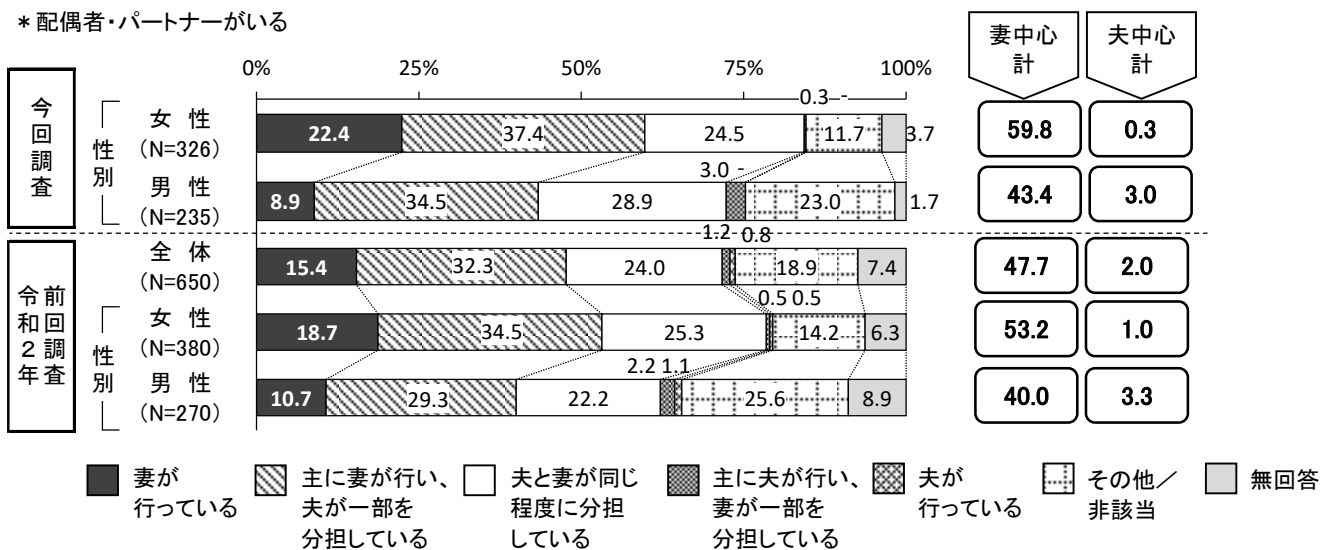
図表2-10 育児、子どものしつけ [全体、性別]



育児、子どものしつけをすることについては、『妻中心』が51.6%、「同じ程度に分担」は22.8%で、掃除、洗濯などの家事や家計の管理に比べると『妻中心』が低く、「同じ程度に分担」が高くなっている。

性別にみると、『妻中心』（女性59.8%、男性40.9%）は女性が18.9ポイント高く、「同じ程度に分担」（同20.2%、26.1%）は男性が5.9ポイント高い。

図表2-11 育児、子どものしつけ [性別] (前回調査比較)



前回調査と比べると、男女とも『妻中心』の割合が増えており、女性は6.6ポイントと男性の3.4ポイントより多い。「同じ程度に分担」は女性ではあまり変わらないが、男性は6.7ポイント増えている。

年齢別にみると、『妻中心』は女性の40代と70歳以上で6割台と高く、また18～29歳と50代で約6割、その他の年代でも5割を超えている。「同じ程度に分担」は女性の30代で29.1%と女性の中で最も高く、男性は年代が低い層で割合が高い傾向がみられ、18～29歳では37.8%、30代でも31.3%と3割を超えている。

同居家族別にみると、未就学児がいる場合『妻中心』は70.0%と高く、乳幼児や小・中学生では約6割となっている。乳幼児がいる場合「同じ程度に分担」は38.1%と他の同居家族に比べて高いが、未就学児など手のかかる子どもがいる場合は女性が担うという認識が強い。

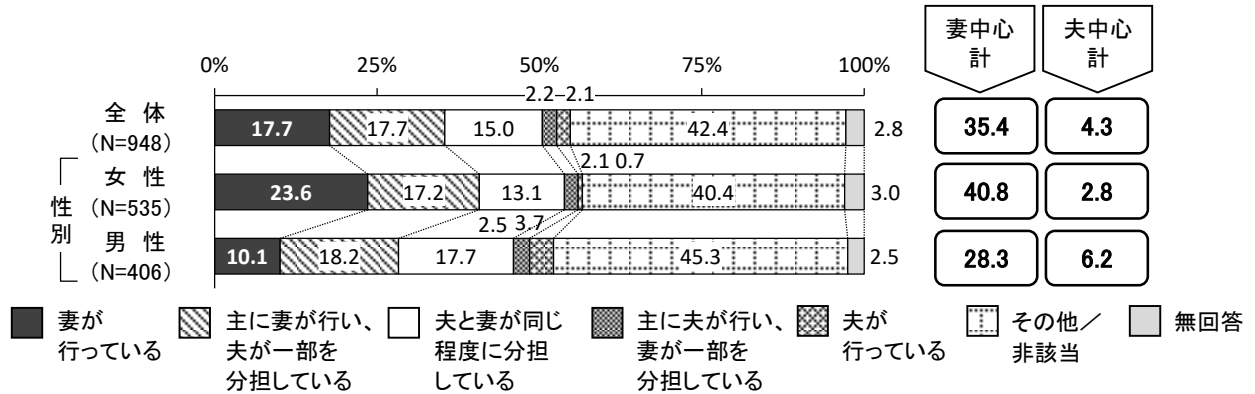
図表2-12 育児、子どものしつけ〔全体、年齢別、同居家族別〕

		標本数	妻が行っている	主に妻が分擔している、夫が一部を分擔している	夫と妻が同じ程度に分擔している	主に夫が分擔している、妻が一部を分擔している	夫が行っている	その他／非該当	無回答	妻中心計	夫中心計
全体		948 100.0	174 18.4	315 33.2	216 22.8	12 1.3	6 0.6	196 20.7	29 3.1	489 51.6	18 1.9
年齢別	女性:18～29歳	69	29.0	30.4	15.9	4.3	-	18.8	1.4	59.4	4.3
	女性:30～39歳	86	18.6	36.0	29.1	-	-	15.1	1.2	54.6	-
	女性:40～49歳	108	30.6	34.3	21.3	-	-	11.1	2.8	64.9	-
	女性:50～59歳	125	20.8	37.6	20.8	0.8	0.8	16.0	3.2	58.4	1.6
	女性:60～69歳	65	27.7	29.2	23.1	-	-	16.9	3.1	56.9	-
	女性:70歳以上	81	27.2	37.0	9.9	-	-	17.3	8.6	64.2	-
	男性:18～29歳	45	6.7	28.9	37.8	2.2	2.2	17.8	4.4	35.6	4.4
	男性:30～39歳	67	10.4	32.8	31.3	-	-	23.9	1.5	43.2	-
	男性:40～49歳	70	7.1	32.9	28.6	4.3	-	24.3	2.9	40.0	4.3
	男性:50～59歳	89	7.9	38.2	21.3	-	1.1	30.3	1.1	46.1	1.1
	男性:60～69歳	53	11.3	26.4	26.4	1.9	1.9	30.2	1.9	37.7	3.8
	男性:70歳以上	81	12.3	25.9	18.5	3.7	1.2	33.3	4.9	38.2	4.9
	無回答	9	11.1	33.3	22.2	-	11.1	22.2	-	44.4	11.1
同居家族別	乳幼児(3歳未満)	63	9.5	47.6	38.1	1.6	-	3.2	-	57.1	1.6
	未就学児	70	20.0	50.0	25.7	2.9	-	1.4	-	70.0	2.9
	小・中学生	178	23.6	39.9	33.7	1.1	-	1.7	-	63.5	1.1
	高校生	98	23.5	35.7	34.7	1.0	2.0	3.1	-	59.2	3.0
	専門学校生	26	19.2	42.3	26.9	-	-	7.7	3.8	61.5	-
	大学・短大生	48	20.8	50.0	27.1	2.1	-	-	-	70.8	2.1
	65歳以上の人	481	19.1	33.3	18.1	1.2	0.8	23.9	3.5	52.4	2.0
	1～7以外の人	783	18.0	34.1	24.0	1.3	0.6	19.5	2.4	52.1	1.9
	無回答	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-

II 調査結果の分析

(オ) 家族の介護

図表 2-13 家族の介護 [全体、性別]

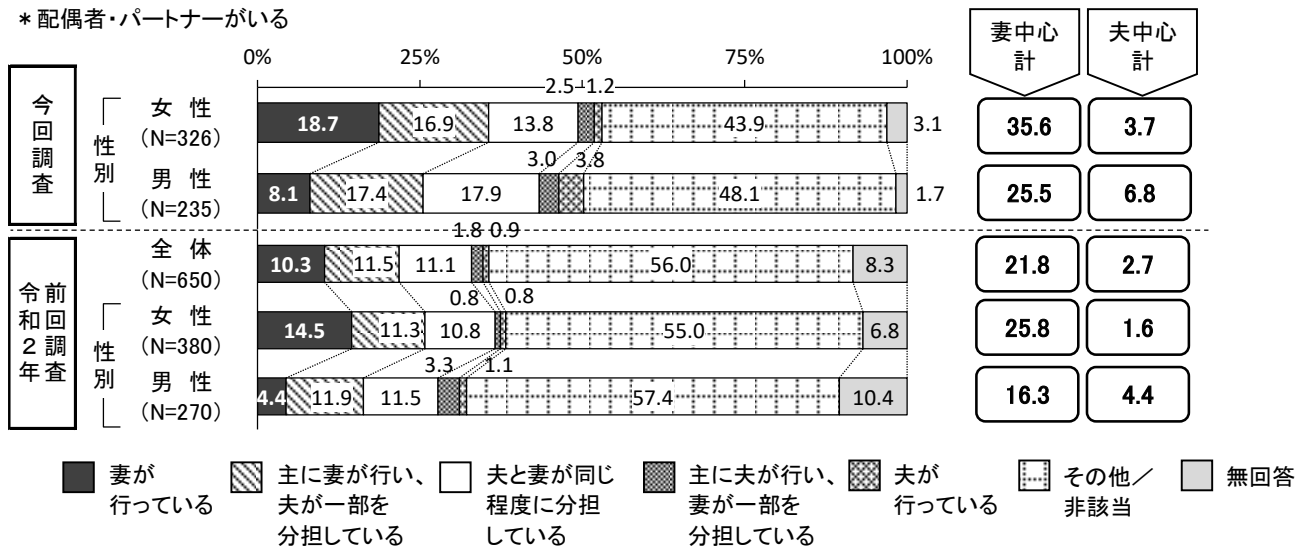


家族の介護については、『妻中心』が 35.4%で、「同じ程度に分担」は 15.0%、『夫中心』は 4.3%である。

性別にみると、『妻中心』(女性 40.8%、男性 28.3%) は女性の方が 12.5 ポイント高く、特に女性は「妻が行っている」(同 23.6%、10.1%) が男性よりも 13.5 ポイント高い。

図表 2-14 家族の介護 [性別] (前回調査比較)

\* 配偶者・パートナーがいる



前回調査と比べると、男女とも『妻中心』が 9.2~9.8 ポイント増え、「同じ程度に分担」も 3.0~6.4 ポイント増えている。

年齢別にみると、女性の60代以上で『妻中心』が5割を超えて高く、そのうち「妻が行っている」は60代で35.4%と他の年代に比べて高い。また、50代でも『妻中心』は4割台と高い。男性の50代以上で『妻中心』が3割台である。親の介護が必要な年代では、主に妻が担っている現状がうかがえる。

同居家族別にみると、65歳以上の人がいる場合『妻中心』は42.6%と最も高い。

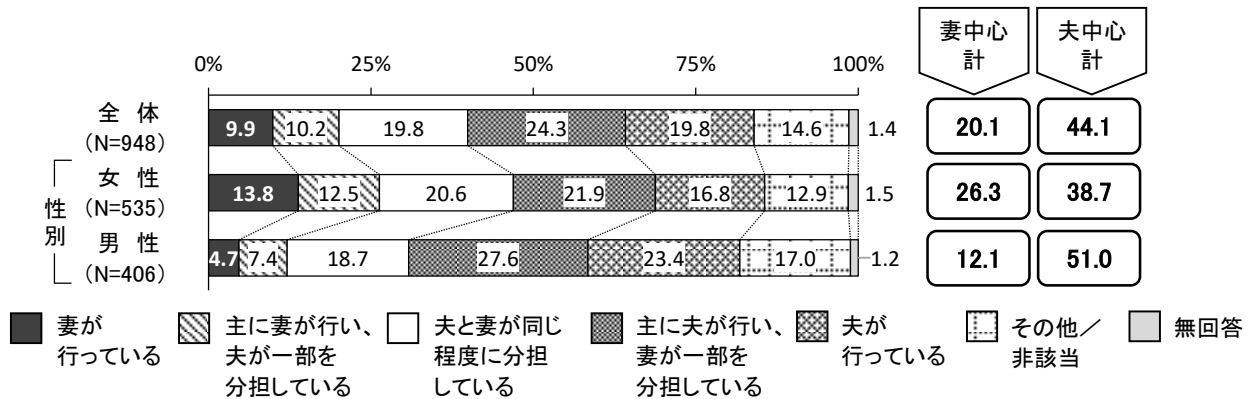
図表2-15 家族の介護〔全体、年齢別、同居家族別〕

		標本数	妻が行っている	一主に妻が担行しているが	分夫と妻が同じ程度に	一主に夫が担行している妻が	夫が行っている	その他／非該当	無回答	妻中心計	夫中心計
全体		948 100.0	168 17.7	168 17.7	142 15.0	21 2.2	20 2.1	402 42.4	27 2.8	336 35.4	41 4.3
年齢別	女性:18~29歳	69	21.7	14.5	23.2	2.9	-	36.2	1.4	36.2	2.9
	女性:30~39歳	86	10.5	14.0	14.0	-	-	60.5	1.2	24.5	-
	女性:40~49歳	108	21.3	11.1	10.2	0.9	0.9	52.8	2.8	32.4	1.8
	女性:50~59歳	125	24.8	18.4	9.6	5.6	1.6	38.4	1.6	43.2	7.2
	女性:60~69歳	65	35.4	20.0	16.9	-	1.5	20.0	6.2	55.4	1.5
	女性:70歳以上	81	30.9	27.2	9.9	1.2	-	24.7	6.2	58.1	1.2
	男性:18~29歳	45	8.9	13.3	24.4	4.4	6.7	37.8	4.4	22.2	11.1
	男性:30~39歳	67	7.5	20.9	19.4	-	-	50.7	1.5	28.4	-
	男性:40~49歳	70	8.6	12.9	20.0	1.4	-	57.1	-	21.5	1.4
	男性:50~59歳	89	7.9	22.5	12.4	2.2	4.5	49.4	1.1	30.4	6.7
	男性:60~69歳	53	13.2	20.8	17.0	7.5	7.5	28.3	5.7	34.0	15.0
男性:70歳以上	81	14.8	17.3	17.3	1.2	4.9	40.7	3.7	32.1	6.1	
	無回答	9	11.1	22.2	-	-	11.1	44.4	11.1	33.3	11.1
同居家族別	乳幼児(3歳未満)	63	6.3	7.9	20.6	-	1.6	61.9	1.6	14.2	1.6
	未就学児	70	10.0	11.4	12.9	2.9	-	61.4	1.4	21.4	2.9
	小・中学生	178	12.4	12.4	14.6	2.2	1.1	57.3	-	24.8	3.3
	高校生	98	12.2	17.3	13.3	6.1	4.1	46.9	-	29.5	10.2
	専門学校生	26	19.2	7.7	15.4	3.8	-	50.0	3.8	26.9	3.8
	大学・短大生	48	18.8	12.5	22.9	6.3	2.1	37.5	-	31.3	8.4
	65歳以上の人	481	21.6	21.0	14.1	2.3	2.9	35.1	2.9	42.6	5.2
	1~7以外の人	783	16.9	17.2	14.4	2.4	1.9	45.2	1.9	34.1	4.3
	無回答	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	

II 調査結果の分析

(カ) 自治会・町内会などの地域活動への参加

図表 2-16 自治会・町内会などの地域活動への参加 [全体、性別]

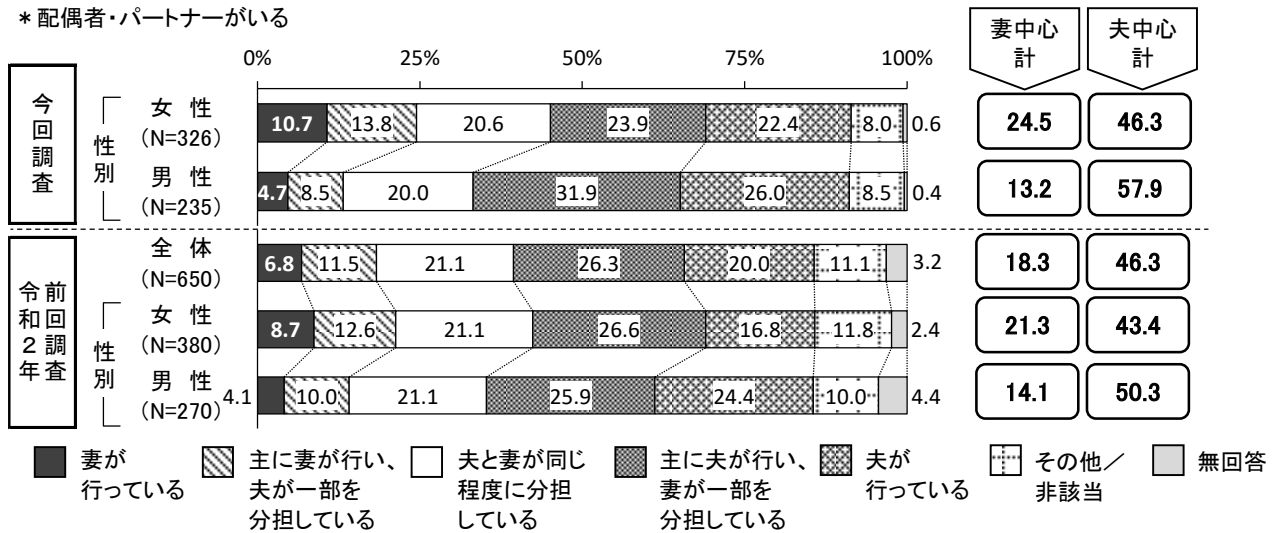


自治会・町内会などの地域活動への参加については、『夫中心』は 44.1%と最も高く、次いで『妻中心』が 20.1%、「同じ程度に分担」が 19.8%となっており、地域活動については男性が行っている場合が多い。

性別にみると、女性は『妻中心』（女性 26.3%、男性 12.1%）の割合が男性よりも 14.2 ポイント高く、男性は『夫中心』（同 38.7%、51.0%）の割合が女性よりも 12.3 ポイント高いなど、男女とも自分が行っているという認識が強い。

図表 2-17 自治会・町内会などの地域活動への参加 [性別] (前回調査比較)

\* 配偶者・パートナーがいる



前回調査と比べると、女性はあまり変わらないが、男性で『夫中心』が 7.6 ポイント増えている。

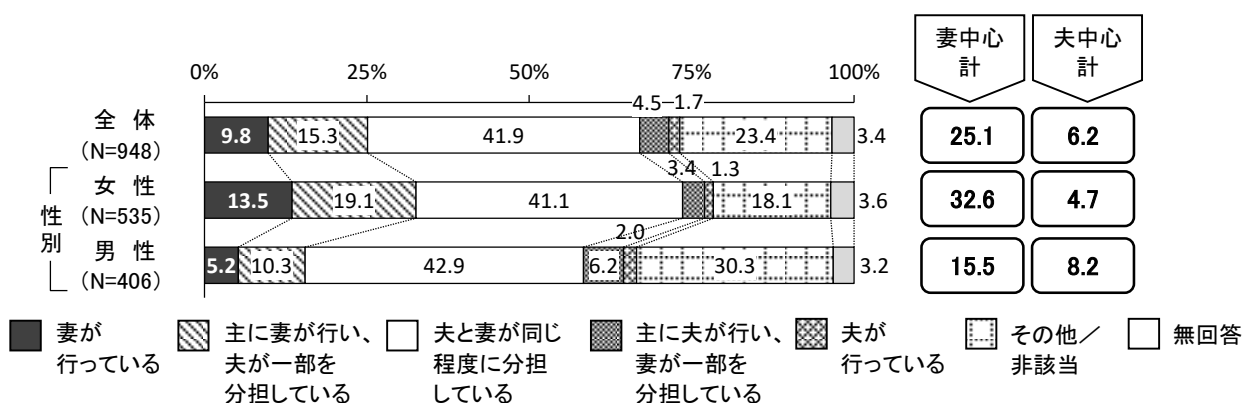
年齢別にみると、男女とも年齢が高い層で『夫中心』の割合が高く、男性の60代以上では約7割と高い。女性の40代では『妻中心』が37.0%と高い。

図表2-18 自治会・町内会などの地域活動への参加 [全体、年齢別]

		標本数	妻が行っている	一主に妻が分擔している、夫が	分夫と妻が同じ程度に	一主に夫が分擔している、妻が	夫が行っている	その他／非該当	無回答	妻中心計	夫中心計
全体		948	94	97	188	230	188	138	13	191	418
		100.0	9.9	10.2	19.8	24.3	19.8	14.6	1.4	20.1	44.1
年齢別	女性:18~29歳	69	11.6	13.0	26.1	14.5	8.7	24.6	1.4	24.6	23.2
	女性:30~39歳	86	12.8	8.1	24.4	20.9	14.0	18.6	1.2	20.9	34.9
	女性:40~49歳	108	19.4	17.6	19.4	15.7	13.9	11.1	2.8	37.0	29.6
	女性:50~59歳	125	12.0	16.0	15.2	29.6	15.2	11.2	0.8	28.0	44.8
	女性:60~69歳	65	13.8	7.7	24.6	29.2	20.0	3.1	1.5	21.5	49.2
	女性:70歳以上	81	12.3	8.6	18.5	19.8	30.9	8.6	1.2	20.9	50.7
	男性:18~29歳	45	-	6.7	24.4	28.9	15.6	20.0	4.4	6.7	44.5
	男性:30~39歳	67	4.5	10.4	23.9	23.9	11.9	23.9	1.5	14.9	35.8
	男性:40~49歳	70	4.3	10.0	20.0	24.3	20.0	21.4	-	14.3	44.3
	男性:50~59歳	89	5.6	10.1	21.3	25.8	15.7	21.3	-	15.7	41.5
	男性:60~69歳	53	5.7	1.9	15.1	37.7	32.1	5.7	1.9	7.6	69.8
	男性:70歳以上	81	6.2	3.7	9.9	28.4	42.0	8.6	1.2	9.9	70.4
無回答		9	11.1	-	22.2	11.1	44.4	11.1	-	11.1	55.5

(キ) 子どもの教育方針や進路目標の決定

図表2-19 子どもの教育方針や進路目標の決定 [全体、性別]



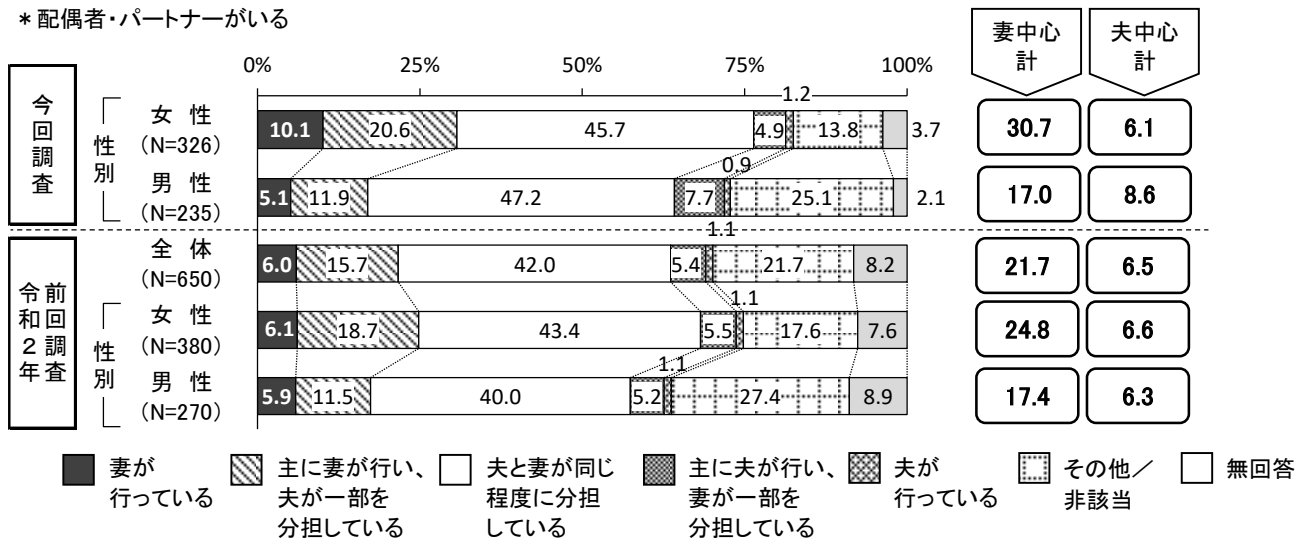
子どもの教育方針や進路目標を決めることについては、「同じ程度に分擔」が41.9%と最も高く、『妻中心』は25.1%、『夫中心』は6.2%である。なお、「その他/非該当」は23.4%である。育児、子どものしつけに比べて、子どもの将来に影響を与える重大な決定については夫と妻が同じ程度に関わっていることがわかる。

性別にみると、「同じ程度に分擔」(女性41.1%、男性42.9%)は男女とも同程度であるが、『妻中心』(同32.6%、15.5%)は女性が17.1ポイント男性を上回っている。

II 調査結果の分析

図表 2-20 子どもの教育方針や進路目標の決定 [性別] (前回調査比較)

\* 配偶者・パートナーがいる



前回調査と比べると、「同じ程度に分担」は女性ではあまり変わらないが、男性 7.2 ポイント増えている。『妻中心』は女性で 5.9 ポイント増えている。

年齢別にみると、女性の 18~29 歳で『妻中心』が 46.4%と最も高く、40 代でも 41.7%あり、「同じ程度に分担」の割合を上回っている。その他の年代と男性では「同じ程度に分担」の割合が『妻中心』の割合を上回っている。

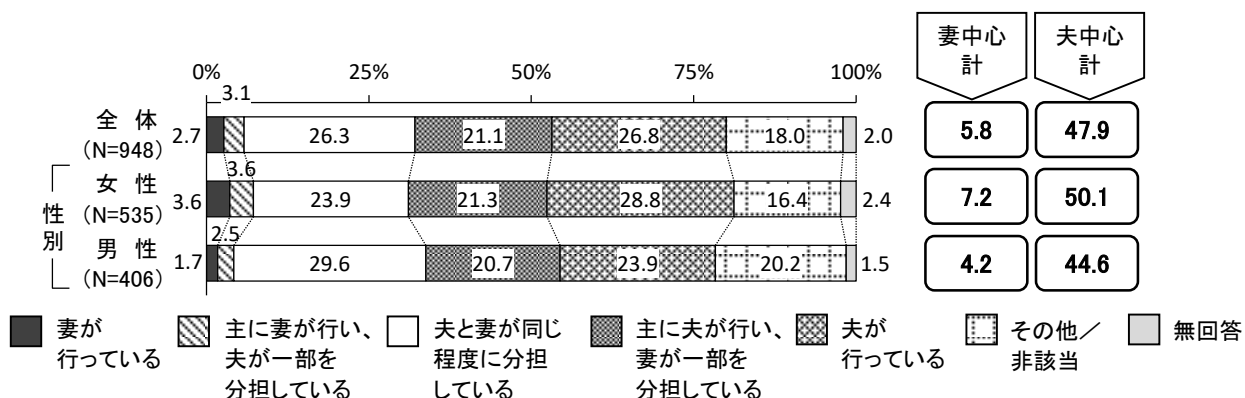
同居家族別にみると、専門学校生では「同じ程度に分担」(34.6%)より『妻中心』(38.4%)の割合が高いが、その他の乳幼児から大学・短大生までがいる場合は「同じ程度に分担」の割合が約 5 割から 7 割と高い。

図表 2-21 子どもの教育方針や進路目標の決定 [全体、年齢別、同居家族別]

		標本数	妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	夫と妻が同じ程度に分担している	主に夫が行い、妻が一部を分担している	夫が行っている	その他/非該当	無回答	妻中心計	夫中心計
全体		948	9.8	15.3	41.9	4.5	16.7	23.4	3.4	25.1	6.2
年齢別	女性:18~29歳	69	20.3	26.1	33.3	1.4	-	17.4	1.4	46.4	1.4
	女性:30~39歳	86	10.5	17.4	50.0	1.2	-	19.8	1.2	27.9	1.2
	女性:40~49歳	108	20.4	21.3	38.0	1.9	0.9	14.8	2.8	41.7	2.8
	女性:50~59歳	125	11.2	20.8	38.4	4.8	3.2	18.4	3.2	32.0	8.0
	女性:60~69歳	65	10.8	15.4	46.2	3.1	-	16.9	7.7	26.2	3.1
	女性:70歳以上	81	7.4	12.3	43.2	7.4	2.5	21.0	6.2	19.7	9.9
	男性:18~29歳	45	2.2	8.9	51.1	6.7	4.4	22.2	4.4	11.1	11.1
	男性:30~39歳	67	7.5	9.0	53.7	1.5	-	26.9	1.5	16.5	1.5
	男性:40~49歳	70	4.3	17.1	47.1	2.9	-	25.7	2.9	21.4	2.9
	男性:50~59歳	89	4.5	11.2	39.3	6.7	1.1	34.8	2.2	15.7	7.8
男性:60~69歳	53	5.7	7.5	41.5	9.4	-	34.0	1.9	13.2	9.4	
男性:70歳以上	81	6.2	7.4	29.6	9.9	6.2	34.6	6.2	13.6	16.1	
無回答	9	-	11.1	44.4	-	11.1	33.3	-	11.1	11.1	
同居家族別	乳幼児(3歳未満)	63	7.9	15.9	69.8	-	1.6	4.8	-	23.8	1.6
	未就学児	70	11.4	20.0	62.9	-	1.4	2.9	1.4	31.4	1.4
	小・中学生	178	14.0	24.2	53.4	4.5	1.1	2.2	0.6	38.2	5.6
	高校生	98	14.3	25.5	49.0	4.1	2.0	5.1	-	39.8	6.1
	専門学校生	26	11.5	26.9	34.6	15.4	-	7.7	3.8	38.4	15.4
	大学・短大生	48	14.6	22.9	54.2	6.3	-	2.1	-	37.5	6.3
	65歳以上の人	481	7.7	11.6	41.8	5.8	2.1	27.2	3.7	19.3	7.9
1~7以外の人	783	10.5	16.6	42.0	4.1	1.5	22.5	2.8	27.1	5.6	
無回答	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	

(ク) 高額の商品や土地・家屋の購入

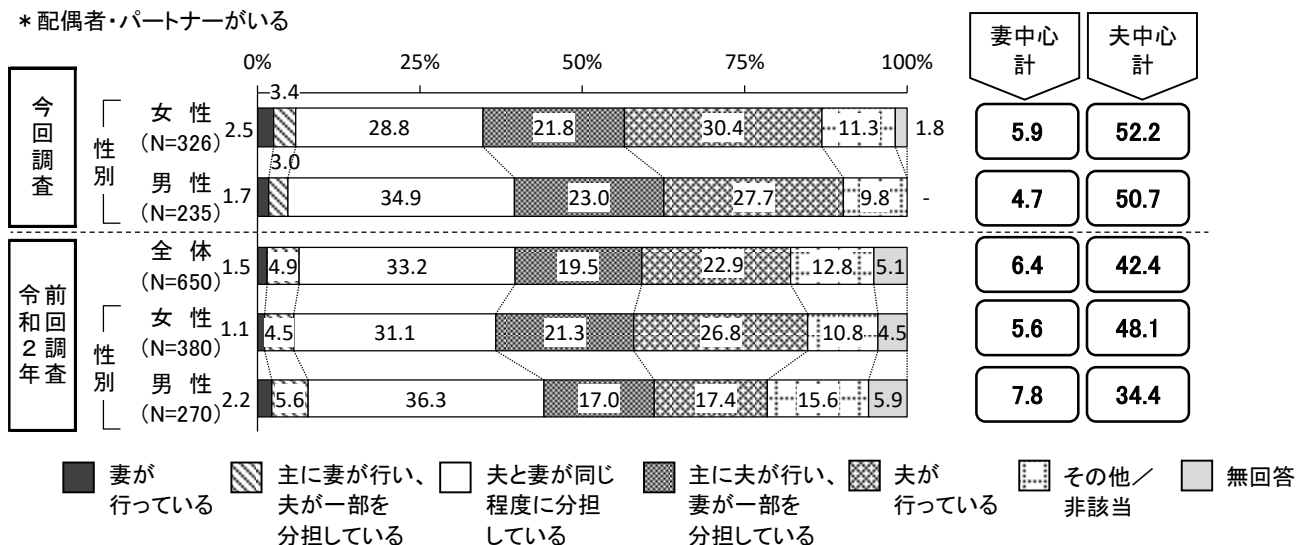
図表 2-22 高額の商品や土地・家屋の購入 [全体、性別]



高額の商品や土地・家屋の購入については、『夫中心』が47.9%、「同じ程度に分担」が26.3%、『妻中心』は5.8%である。家計支出の管理は妻中心であったが、重要な経済的決定は夫と妻が同じ程度に分担して行う場合がありながらも、主に夫が担う場合が多くみられる。

性別にみると、女性は『夫中心』（女性50.1%、男性44.6%）が男性よりも5.5ポイント高く、男性は「同じ程度に分担」（同23.9%、29.6%）が女性よりも5.7ポイント高い。

図表 2-23 高額の商品や土地・家屋の購入 [性別] (前回調査比較)



前回調査と比べると、男女とも『夫中心』が4.1~16.3ポイント増え、特に男性において主に夫が担うという認識が高くなっている。

II 調査結果の分析

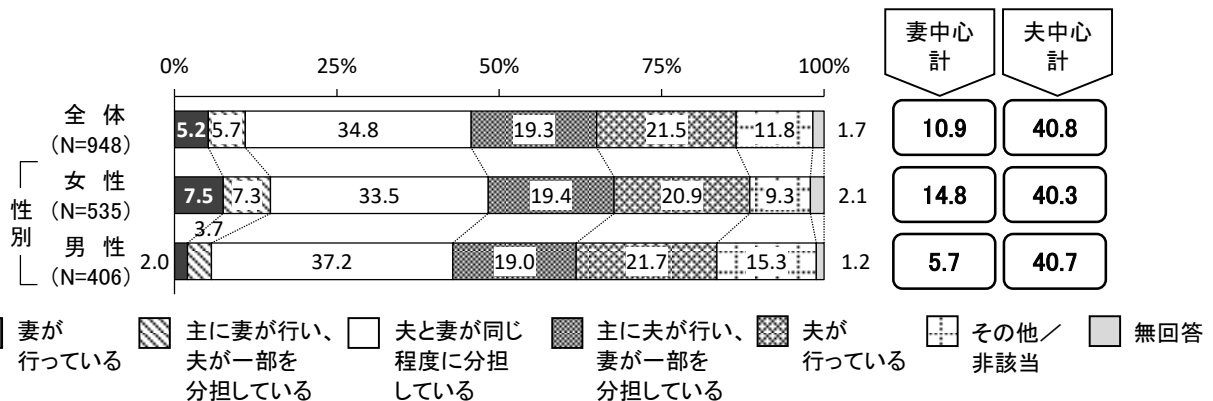
年齢別にみると、女性は年齢の高い層で『夫中心』の割合が高くなる傾向がみられ、60代で52.3%、70歳以上では56.8%と5割を超えている。男性は18～29歳で『夫中心』が51.1%と男性の中で最も高くなっている。

図表 2-24 高額の商品や土地・家屋の購入 [全体、年齢別]

		標本数	妻が行っている	主に妻が 一部を担 行してい る、夫が	夫と妻 が同じ 程度に	主に夫が 一部を担 行してい る、妻が	夫が行 っている	その他/ 非該当	無回答	妻中心計	夫中心計
全体		948 100.0	26 2.7	29 3.1	249 26.3	200 21.1	254 26.8	171 18.0	19 2.0	55 5.8	454 47.9
年齢別	女性:18～29歳	69	8.7	-	21.7	17.4	29.0	21.7	1.4	8.7	46.4
	女性:30～39歳	86	5.8	2.3	25.6	19.8	29.1	16.3	1.2	8.1	48.9
	女性:40～49歳	108	6.5	5.6	23.1	18.5	28.7	14.8	2.8	12.1	47.2
	女性:50～59歳	125	-	5.6	21.6	21.6	28.0	20.8	2.4	5.6	49.6
	女性:60～69歳	65	1.5	3.1	30.8	29.2	23.1	7.7	4.6	4.6	52.3
	女性:70歳以上	81	-	2.5	23.5	23.5	33.3	14.8	2.5	2.5	56.8
	男性:18～29歳	45	-	2.2	28.9	13.3	37.8	13.3	4.4	2.2	51.1
	男性:30～39歳	67	1.5	1.5	40.3	23.9	11.9	20.9	-	3.0	35.8
	男性:40～49歳	70	1.4	7.1	28.6	20.0	22.9	20.0	-	8.5	42.9
	男性:50～59歳	89	-	1.1	27.0	22.5	21.3	27.0	1.1	1.1	43.8
	男性:60～69歳	53	1.9	-	26.4	20.8	28.3	20.8	1.9	1.9	49.1
	男性:70歳以上	81	4.9	2.5	25.9	21.0	27.2	16.0	2.5	7.4	48.2
無回答	9	-	-	22.2	22.2	44.4	11.1	-	-	66.6	

(ケ) 家庭の問題における最終的な決定

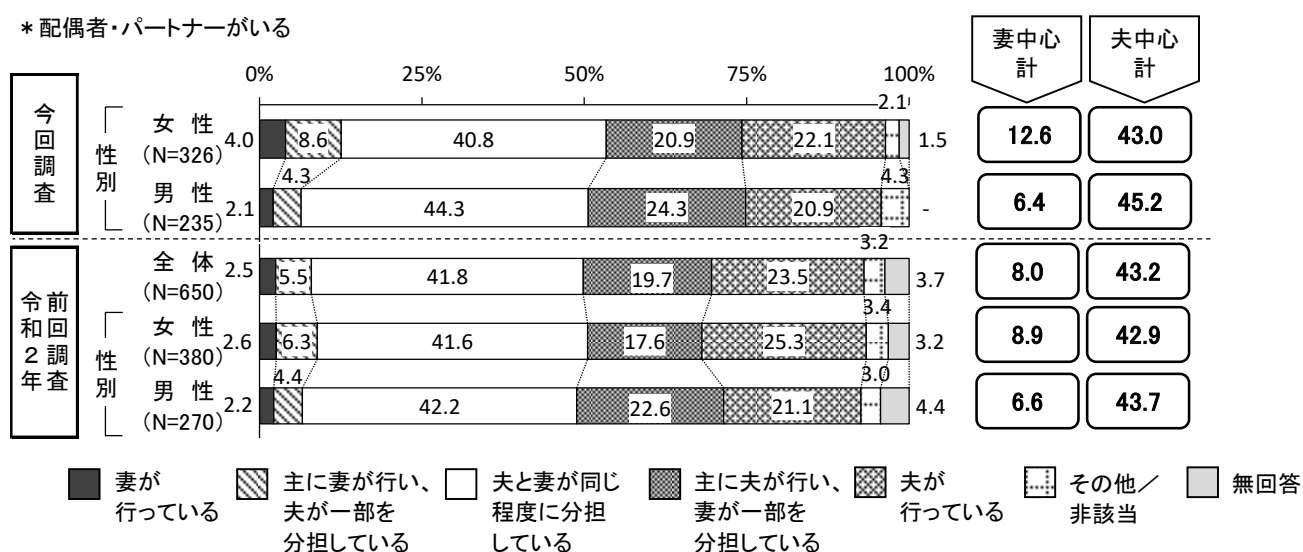
図表 2-25 家庭の問題における最終的な決定 [全体、性別]



家庭内の問題における最終決定権は『夫中心』が40.8%、「同じ程度に分担する」は34.8%、「妻中心」は10.9%である。

性別にみると、『妻中心』は女性が14.8%と男性(5.7%)より9.1ポイント、「同じ程度に分担」は男性が37.2%で女性(33.5%)より3.7ポイント高く、『夫中心』の割合は約4割と同程度である。

図表2-26 家庭の問題における最終的な決定〔性別〕（前回調査比較）



前回調査と比べると、あまり大きな差はみられないが、女性の『妻中心』の割合がやや増えている。家庭内の最終決定は夫中心でありながらも夫と妻が同じ程度に分担しているようである。

年齢別にみると、男女とも年齢の高い層で『夫中心』の割合が高い傾向がみられ、70歳以上で約6割と高い。「同じ程度に分担」は男性の30代で52.2%と最も高く、女性の30代、男性の60代でも4割台半ばと高い。

図表2-27 家庭の問題における最終的な決定〔全体、年齢別〕

		標本数	妻が行っている	主に妻が分担している、夫が	夫と妻が同じ程度に	主に夫が分担している、妻が	夫が行っている	その他/非該当	無回答	妻中心計	夫中心計
全体		948	49	54	330	183	204	112	16	103	387
		100.0	5.2	5.7	34.8	19.3	21.5	11.8	1.7	10.9	40.8
年齢別	女性:18~29歳	69	11.6	7.2	31.9	11.6	18.8	17.4	1.4	18.8	30.4
	女性:30~39歳	86	4.7	17.4	44.2	12.8	12.8	7.0	1.2	22.1	25.6
	女性:40~49歳	108	15.7	5.6	35.2	14.8	19.4	6.5	2.8	21.3	34.2
	女性:50~59歳	125	3.2	4.8	32.0	24.8	20.8	12.0	2.4	8.0	45.6
	女性:60~69歳	65	3.1	9.2	29.2	27.7	21.5	6.2	3.1	12.3	49.2
	女性:70歳以上	81	6.2	1.2	25.9	24.7	33.3	7.4	1.2	7.4	58.0
	男性:18~29歳	45	-	4.4	37.8	11.1	26.7	15.6	4.4	4.4	37.8
	男性:30~39歳	67	3.0	4.5	52.2	13.4	9.0	17.9	-	7.5	22.4
	男性:40~49歳	70	4.3	8.6	34.3	18.6	18.6	15.7	-	12.9	37.2
	男性:50~59歳	89	-	1.1	33.7	22.5	20.2	21.3	1.1	1.1	42.7
	男性:60~69歳	53	-	3.8	45.3	18.9	18.9	11.3	1.9	3.8	37.8
	男性:70歳以上	81	3.7	1.2	25.9	24.7	35.8	7.4	1.2	4.9	60.5
無回答		9	11.1	-	11.1	22.2	44.4	11.1	-	11.1	66.6

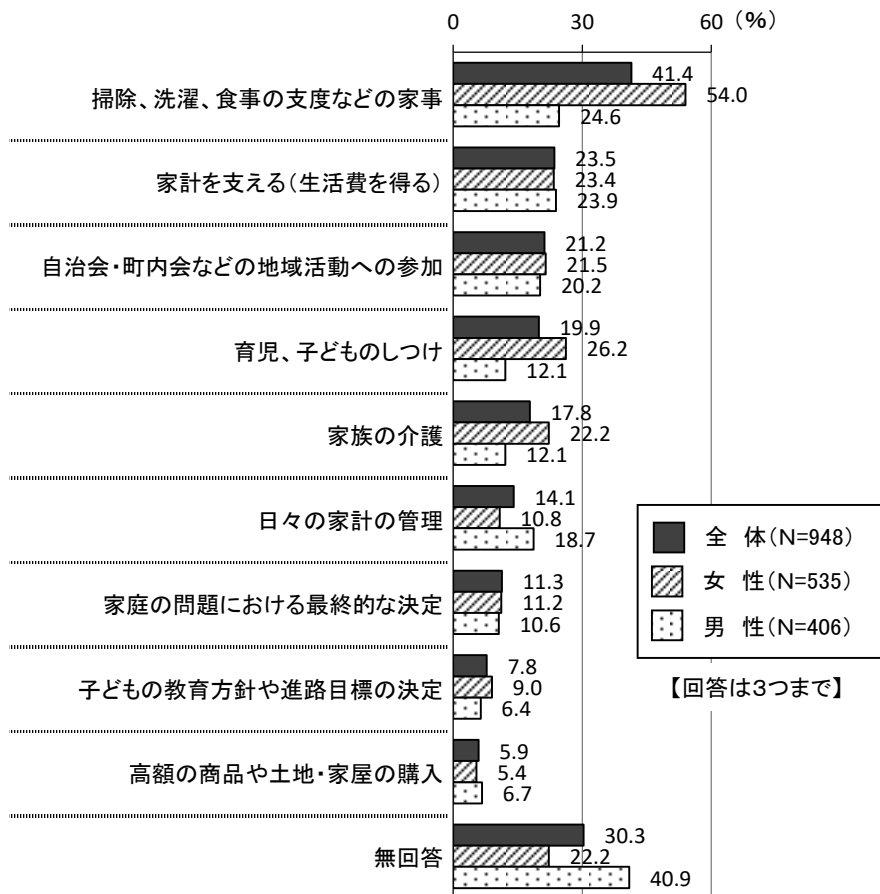
II 調査結果の分析

(2) 配偶者にしてほしいこと

- 女性「掃除、洗濯、食事の支度などの家事」「育児、子どものしつけ」「家族の介護」が男性よりも割合が高い。
- 男性は前回調査より「家計を支える（生活費を得る）」「日々の家計の管理」が約10ポイント増加。

また、あなたが、問4の(ア)から(ケ)までの家庭内の仕事について、配偶者(パートナー)の方にもっとしてほしいことはどれですか。主なものを3つまで選び、下の枠の中に(ア)から(ケ)までのカタカナを記入してください。

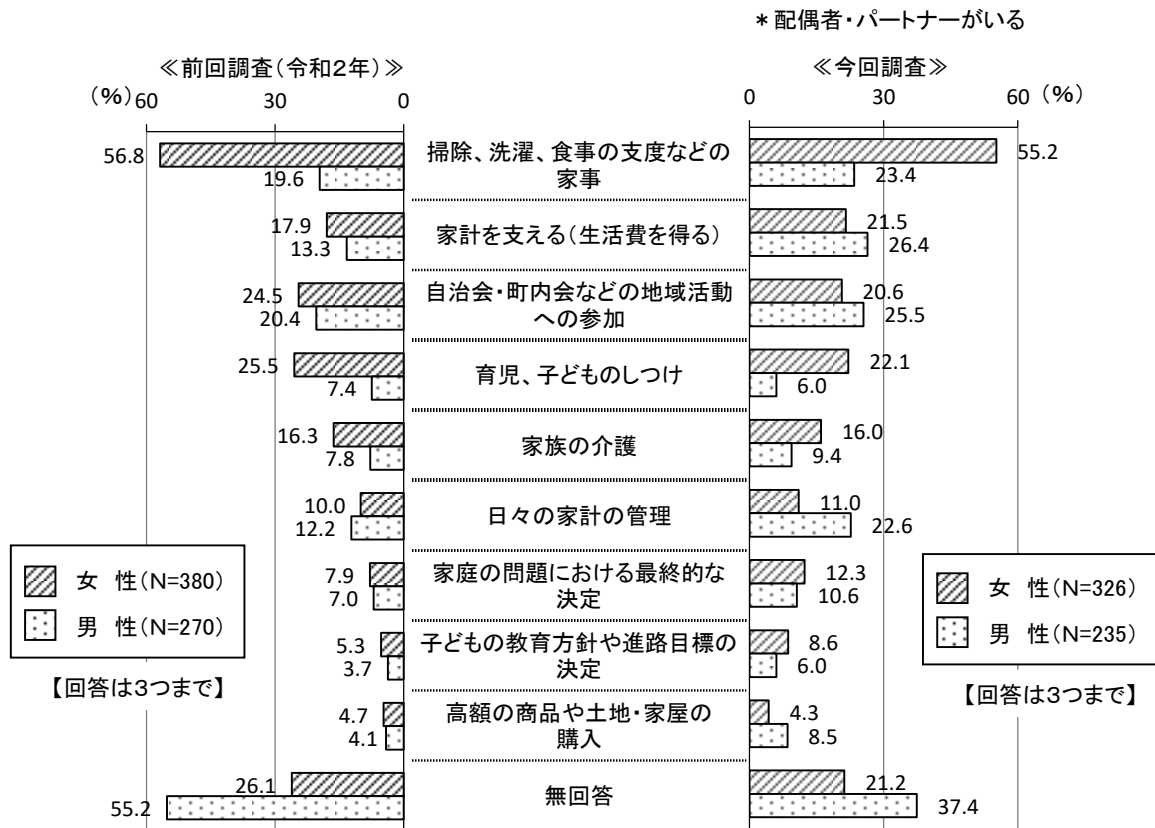
図表2-28 配偶者にしてほしいこと [全体、性別]



配偶者にしてほしいことは、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事」が41.4%で最も高く、次いで「家計を支える（生活費を得る）」が23.5%、「自治会・町内会などの地域活動への参加」が21.2%、「育児、子どものしつけ」が19.9%、「家族の介護」が17.8%となっている。また、無回答は30.3%あった。

性別にみると、女性は「掃除、洗濯、食事の支度などの家事」(54.0%)が男性(24.6%)より29.4ポイント高く、「育児、子どものしつけ」(26.2%)、「家族の介護」(22.2%)なども男性より10.1~14.1ポイント高い。男性は「日々の家計の管理」(18.7%)が女性より7.9ポイント高い。

図表2-29 配偶者にしてほしいこと〔性別〕(前回調査比較)



前回調査と比べると、男女とも「家計を支える(生活費を得る)」が増えており、特に男性で13.1ポイント増え、また、男性で「日々の家計の管理」も10.4ポイント増えているのが目立つ。

年齢別にみると、男女とも年齢が低い層では「家計を支える(生活費を得る)」「掃除、洗濯、食事の支度などの家事」「育児、子どものしつけ」などの割合が高い傾向がみられる。また女性の30代を除く年代では「家族の介護」、男性の70歳以上では「自治会・町内会などの地域活動への参加」の割合が他の年齢に比べて高い。

図表2-30 配偶者にしてほしいこと〔全体、年齢別〕

		標本数	家計を支える(生活費を得る)	掃除、洗濯、食事の支度などの家事	日々の家計の管理	育児、子どものしつけ	家族の介護	自治会・町内会などの地域活動への参加	子どもの教育方針や進路目標の決定	高額の商品や土地・家屋の購入	家庭の問題における最終的な決定	無回答
全体		948	22.3	41.4	14.1	19.9	17.8	21.2	7.8	5.9	11.3	30.3
年齢別	女性:18~29歳	69	40.6	55.1	14.5	40.6	21.7	17.4	11.6	10.1	11.6	11.6
	女性:30~39歳	86	26.7	54.7	8.1	37.2	9.3	20.9	11.6	10.5	16.3	19.8
	女性:40~49歳	108	24.1	57.4	8.3	31.5	20.4	24.1	9.3	2.8	5.6	22.2
	女性:50~59歳	125	20.0	59.2	8.0	17.6	28.0	25.6	7.2	2.4	12.0	22.4
	女性:60~69歳	65	15.4	46.2	16.9	12.3	27.7	18.5	4.6	9.2	10.8	26.2
	女性:70歳以上	81	16.0	45.7	13.6	18.5	25.9	18.5	8.6	1.2	12.3	30.9
	男性:18~29歳	45	33.3	35.6	15.6	31.1	11.1	11.1	6.7	4.4	11.1	33.3
	男性:30~39歳	67	28.4	22.4	22.4	13.4	9.0	14.9	9.0	6.0	6.0	38.8
	男性:40~49歳	70	30.0	30.0	22.9	14.3	10.0	17.1	2.9	5.7	14.3	32.9
	男性:50~59歳	89	22.5	22.5	14.6	13.5	18.0	19.1	4.5	4.5	7.9	42.7
	男性:60~69歳	53	11.3	22.6	17.0	3.8	15.1	18.9	7.5	5.7	13.2	50.9
男性:70歳以上	81	19.8	19.8	19.8	2.5	8.6	34.6	8.6	12.3	12.3	44.4	
無回答		9	11.1	44.4	-	11.1	11.1	44.4	11.1	-	44.4	33.3

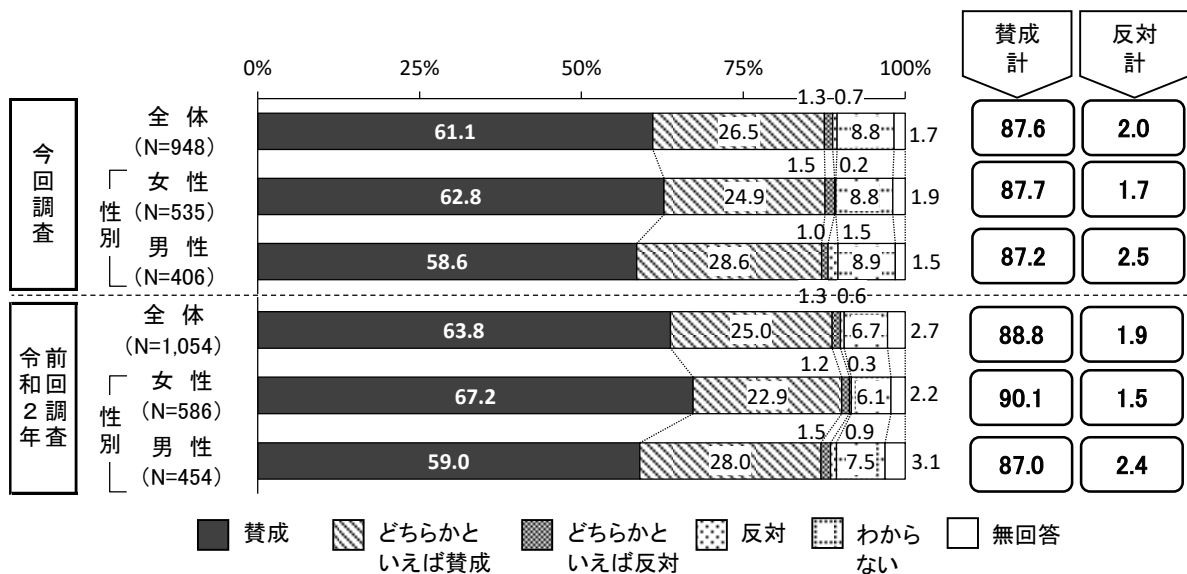
2. 子どものしつけや教育についての考え方

- 性別を問わず、経済的自立・生活自立できるような育て方への支持は約9割。女性の方が男性よりも積極的に支持する人の割合は高い。男女とも前回調査とあまり変わらない。
- 「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」という考え方に『賛成』の女性は前回調査より8.8ポイント減少し約2割、男性は約4割と男性に支持する人多い。
- 「男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方がよい」は支持しない人は女性で約7割、男性で約6割。男らしく、女らしく育てるよりも支持しない人は多い。

問5. あなたは、子どものしつけや教育について、どのような考え方をお持ちですか。  
 次の(ア)から(エ)のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを選んでください。子どものいない人も、一般的にどう思われるかお答えください。  
 (○印は1つずつ)

(ア) 性別を問わず、経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ

図表2-31 「性別を問わず、経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」  
 [全体、性別] (前回調査比較)



子どものしつけや教育についての考え方をたずねた。「性別を問わず、経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」については、「賛成」が61.1%、「どちらかといえば賛成」が26.5%とこれらを合計した『賛成』は87.6%である。「反対」(0.7%)と「どちらかといえば反対」(1.3%)を合計した『反対』は2.0%と圧倒的に『賛成』が多い。

性別にみると、『賛成』は男女とも約9割と高いが、そのうち積極的な「賛成」は女性62.8%に対し男性は58.6%と、女性の方が4.2ポイント高い。

前回調査と比べてもあまり大きな差はみられない。

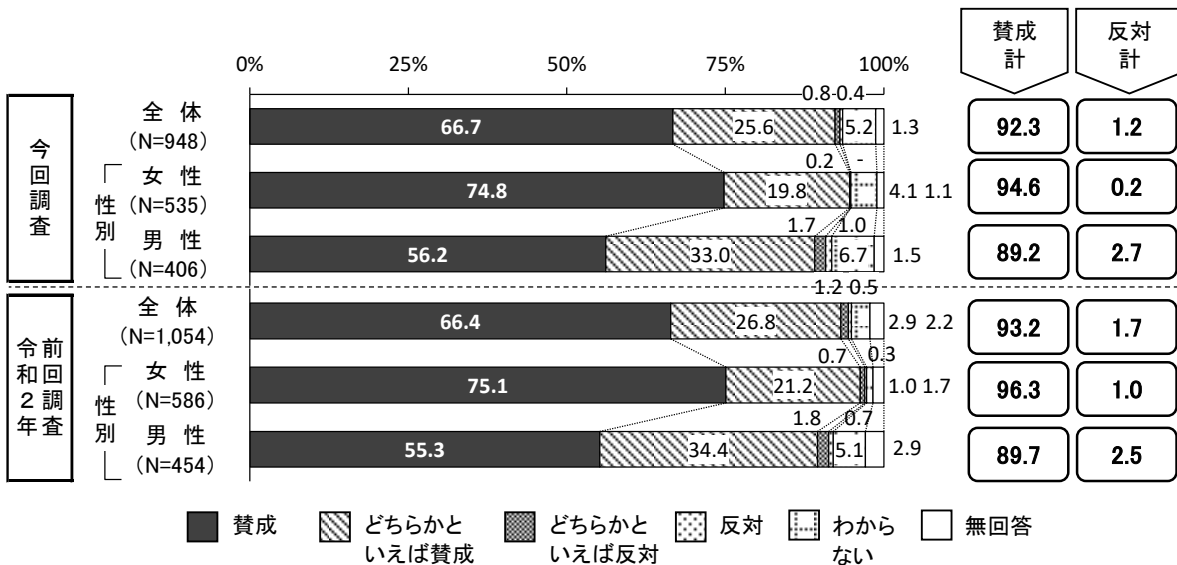
年齢別にみると、男性の30代と50代で「わからない」が1割台と他の年代に比べて高くなっている。女性の70歳以上と男性の60代で『賛成』が9割を超えて高い。

図表2-32 「性別を問わず、経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」[全体、年齢別]

		標本数	賛成	いど えち ばら 賛か 成と	いど えち ばら 反か 対と	反対	わ か ら な い	無 回 答	賛 成 計	反 対 計
全体		948	579	251	12	7	83	16	830	19
		100.0	61.1	26.5	1.3	0.7	8.8	1.7	87.6	2.0
年齢別	女性:18~29歳	69	62.3	23.2	2.9	1.4	8.7	1.4	85.5	4.3
	女性:30~39歳	86	57.0	30.2	3.5	-	9.3	-	87.2	3.5
	女性:40~49歳	108	61.1	26.9	1.9	-	9.3	0.9	88.0	1.9
	女性:50~59歳	125	63.2	24.8	-	-	9.6	2.4	88.0	-
	女性:60~69歳	65	66.2	20.0	1.5	-	9.2	3.1	86.2	1.5
	女性:70歳以上	81	69.1	21.0	-	-	6.2	3.7	90.1	-
	男性:18~29歳	45	62.2	26.7	-	-	6.7	4.4	88.9	-
	男性:30~39歳	67	53.7	25.4	-	4.5	16.4	-	79.1	4.5
	男性:40~49歳	70	52.9	34.3	2.9	1.4	8.6	-	87.2	4.3
	男性:50~59歳	89	56.2	31.5	-	1.1	10.1	1.1	87.7	1.1
	男性:60~69歳	53	66.0	26.4	1.9	1.9	1.9	1.9	92.4	3.8
	男性:70歳以上	81	63.0	25.9	1.2	-	7.4	2.5	88.9	1.2
無回答	9	66.7	33.3	-	-	-	-	100.0	-	

(イ) 性別を問わず、掃除・洗濯・食事の支度など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい

図表2-33 「性別を問わず、掃除・洗濯・食事の支度など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」[全体、性別] (前回調査比較)



「性別を問わず、掃除・洗濯・食事の支度など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」ことについては「賛成」が66.7%、「どちらかといえば賛成」が25.6%とこれらを合計した『賛成』は92.3%、「反対」(0.4%)と「どちらかといえば反対」(0.8%)を合計した『反対』は1.2%とわずかで、経済的自立同様に生活自立に対しても圧倒的に『賛成』が多い。

性別にみると、『賛成』は女性が94.6%で男性(89.2%)よりも5.4ポイント高い。特に積極的な「賛成」は女性の74.8%に対して男性は56.2%と、女性の方が18.6ポイント高く、生活自立に対しては女性の方が積極的に賛成している。

II 調査結果の分析

前回調査と比べてもあまり大きな差はみられない。

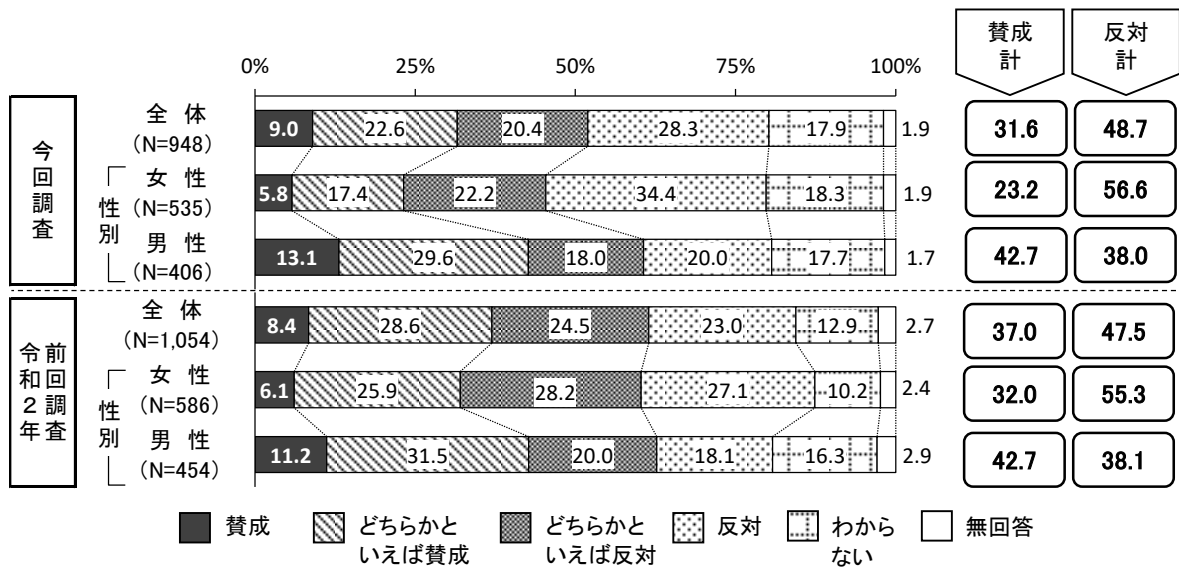
年齢別にみると、女性の18～29歳と30代で積極的な「賛成」が約8割と高く、同年代の男性は約6割と性別によって大きな差がみられる。

図表2-34 「性別を問わず、掃除・洗濯・食事の支度など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」[全体、年齢別]

		標本数	賛成	いど えち ばら 賛か 成と	いど えち ばら 反か 対と	反対	わ か ら な い	無 回 答	賛 成 計	反 対 計
全体		948	632	243	8	4	49	12	875	12
		100.0	66.7	25.6	0.8	0.4	5.2	1.3	92.3	1.2
年齢別	女性:18～29歳	69	79.7	11.6	-	-	7.2	1.4	91.3	-
	女性:30～39歳	86	80.2	16.3	1.2	-	2.3	-	96.5	1.2
	女性:40～49歳	108	76.9	20.4	-	-	1.9	0.9	97.3	-
	女性:50～59歳	125	74.4	20.0	-	-	4.0	1.6	94.4	-
	女性:60～69歳	65	67.7	26.2	-	-	6.2	-	93.9	-
	女性:70歳以上	81	69.1	23.5	-	-	4.9	2.5	92.6	-
	男性:18～29歳	45	60.0	28.9	-	-	6.7	4.4	88.9	-
	男性:30～39歳	67	59.7	29.9	-	-	10.4	-	89.6	-
	男性:40～49歳	70	68.6	24.3	-	1.4	5.7	-	92.9	1.4
	男性:50～59歳	89	52.8	34.8	1.1	1.1	9.0	1.1	87.6	2.2
	男性:60～69歳	53	66.0	28.3	1.9	-	1.9	1.9	94.3	1.9
	男性:70歳以上	81	37.0	46.9	6.2	2.5	4.9	2.5	83.9	8.7
	無回答	9	55.6	44.4	-	-	-	-	100.0	-

(ウ) 男女にはそれぞれの役割があるので、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい

図表2-35 「男女にはそれぞれの役割があるので、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい」[全体、性別] (前回調査比較)



「男女にはそれぞれの役割があるので、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい」ことについては、「賛成」が9.0%と「どちらかといえば賛成」が22.6%とこれらを合計した『賛成』は31.6%、「反対」(28.3%)と「どちらかといえば反対」(20.4%)を合計した『反対』は48.7%となっており、『賛成』を17.1ポイント上回っている。

性別にみると、『賛成』は女性が23.2%、男性は42.7%で男性の方が19.5ポイント上回り、『反対』は女性が56.6%、男性が38.0%と女性の方が18.6ポイント上回っている。

前回調査と比べると、女性は『賛成』が8.8ポイント減り、「わからない」が8.1ポイント増えている。『反対』の割合は同程度であるが、内訳をみると特に積極的な「反対」は7.3ポイント増えている。男性には大きな変化はみられない。

年齢別にみると、女性は年齢が低い層で『反対』の割合が高い傾向がみられ、18～29歳では62.3%と最も高い。同年代の男性の『反対』は28.9%、『賛成』は51.1%と性別で大きな差がある。

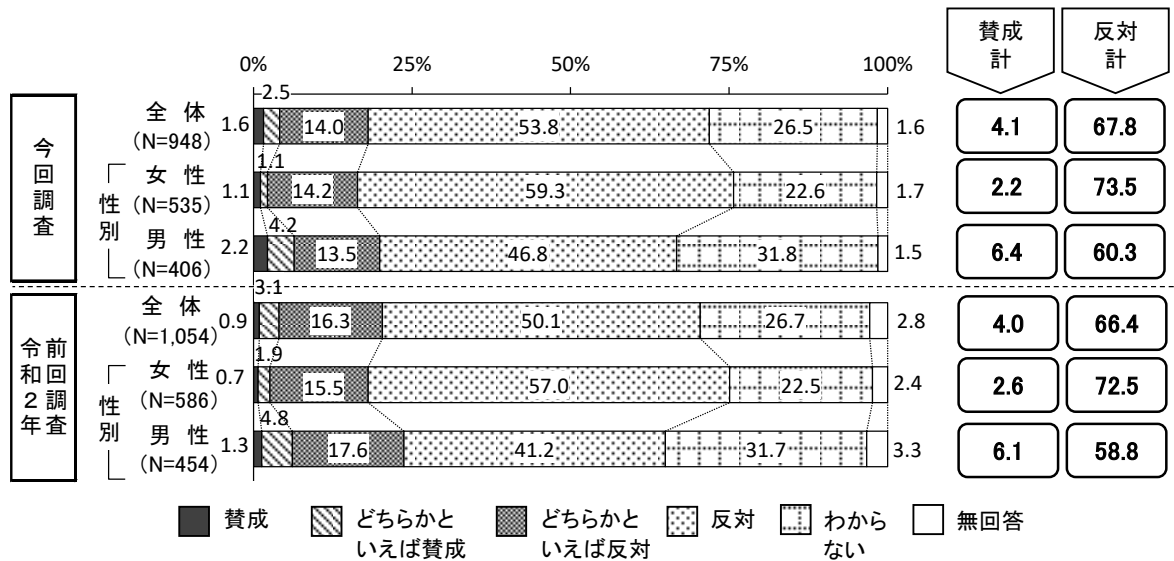
図表2-36 「男女にはそれぞれの役割があるので、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい」[全体、年齢別]

		標本数	賛成	いどえちばら賛か成と	いどえちばら反か対と	反対	わからない	無回答	賛成計	反対計
全体		948 100.0	85 9.0	214 22.6	193 20.4	268 28.3	170 17.9	18 1.9	299 31.6	461 48.7
年齢別	女性:18～29歳	69	4.3	11.6	21.7	40.6	20.3	1.4	15.9	62.3
	女性:30～39歳	86	7.0	20.9	17.4	41.9	11.6	1.2	27.9	59.3
	女性:40～49歳	108	5.6	15.7	22.2	34.3	21.3	0.9	21.3	56.5
	女性:50～59歳	125	5.6	18.4	20.0	37.6	16.0	2.4	24.0	57.6
	女性:60～69歳	65	3.1	15.4	30.8	24.6	23.1	3.1	18.5	55.4
	女性:70歳以上	81	8.6	19.8	24.7	24.7	19.8	2.5	28.4	49.4
	男性:18～29歳	45	17.8	33.3	13.3	15.6	15.6	4.4	51.1	28.9
	男性:30～39歳	67	6.0	29.9	11.9	23.9	26.9	1.5	35.9	35.8
	男性:40～49歳	70	2.9	17.1	21.4	32.9	25.7	-	20.0	54.3
	男性:50～59歳	89	14.6	29.2	20.2	18.0	16.9	1.1	43.8	38.2
	男性:60～69歳	53	13.2	37.7	18.9	20.8	7.5	1.9	50.9	39.7
	男性:70歳以上	81	23.5	32.1	19.8	9.9	12.3	2.5	55.6	29.7
無回答	9	11.1	33.3	11.1	33.3	-	11.1	44.4	44.4	

II 調査結果の分析

(エ) 男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方がよい

図表 2-37 「男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方がよい」[全体、性別] (前回調査比較)



「男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方がよい」ことについては、「賛成」が 1.6%と「どちらかといえば賛成」が 2.5%とこれらを合計した『賛成』は 4.1%、「反対」(53.8%)と「どちらかといえば反対」(14.0%)を合計した『反対』は 67.8%となっており、『賛成』を大きく上回っている。上記でみた男の子らしく、女の子らしくという育て方よりも反対する人は多い。

性別にみると、『反対』は女性が 73.5%、男性は 60.3%で女性の方が 13.2 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女ともあまり大きな差はみられないが、男性で積極的な「反対」が 5.6 ポイント増えている。

年齢別にみると、女性は 30 代で『反対』が 82.6%と最も高く、その他 70 歳以上を除く年代でも『反対』は 7 割を超えて高い。男性は 18~29 歳と 70 歳以上で『反対』が 5 割台半ばと他の年代に比べて低く、18~29 歳では『賛成』が 13.4%と 1 割を超えている。

図表 2-38 「男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方がよい」[全体、年齢別]

		標本数	賛成	いど えち ばら 賛か 成と	いど えち ばら 反か 対と	反対	わ か ら な い	無 回 答	賛 成 計	反 対 計
全体		948	1.6	2.5	14.0	53.8	26.5	1.6	4.1	67.8
年齢別	女性:18~29歳	69	2.9	1.4	13.0	63.8	17.4	1.4	4.3	76.8
	女性:30~39歳	86	1.2	-	18.6	64.0	15.1	1.2	1.2	82.6
	女性:40~49歳	108	-	1.9	15.7	55.6	25.9	0.9	1.9	71.3
	女性:50~59歳	125	0.8	-	10.4	66.4	20.0	2.4	0.8	76.8
	女性:60~69歳	65	1.5	-	18.5	53.8	24.6	1.5	1.5	72.3
	女性:70歳以上	81	1.2	3.7	11.1	49.4	32.1	2.5	4.9	60.5
	男性:18~29歳	45	6.7	6.7	8.9	44.4	28.9	4.4	13.4	53.3
	男性:30~39歳	67	-	1.5	11.9	53.7	32.8	-	1.5	65.6
	男性:40~49歳	70	1.4	4.3	7.1	54.3	32.9	-	5.7	61.4
	男性:50~59歳	89	3.4	1.1	19.1	41.6	33.7	1.1	4.5	60.7
	男性:60~69歳	53	1.9	5.7	11.3	54.7	24.5	1.9	7.6	66.0
	男性:70歳以上	81	1.2	7.4	18.5	35.8	34.6	2.5	8.6	54.3
	無回答	9	-	11.1	22.2	44.4	22.2	-	11.1	66.6

## 第3章 就労について

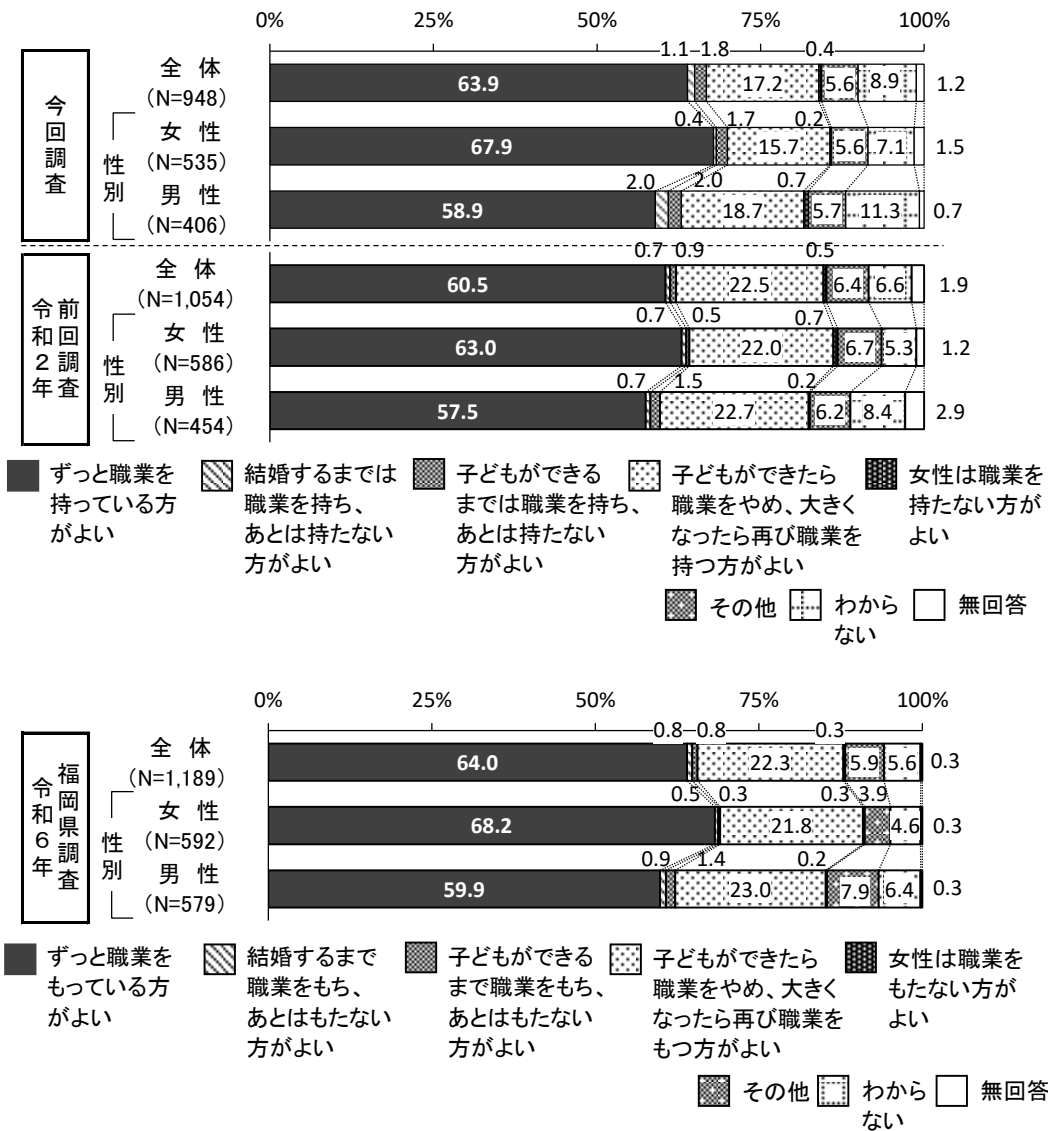
### 1. 女性が職業をもつことについて

#### (1) 女性が職業をもつことについての考え方

- 女性が職業を持つことについて、女性の約7割、男性の約6割が「就労継続」。
- 就労継続は女性の18~29歳、40代、50代で7割台と高い。

問6. 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどうお考えですか。  
(○印は1つ)

図表3-1 女性が職業をもつことについての考え方 [全体、性別] (前回・福岡県調査比較)



## II 調査結果の分析

女性が職業を持つことについて、「ずっと職業を持っている方がよい」という就労継続が63.9%で最も多い。次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」という子育て期に就労を中断する働き方が17.2%となっている。一方、「結婚するまでは職業を持ち、あとは持たない方がよい」(1.1%)、「子どもができるまでは職業を持ち、あとは持たない方がよい」(1.8%)、「女性は職業を持たない方がよい」(0.4%)の3つはいずれも専業主婦を志向する項目だが、これらの合計は3.3%と回答は少なく、女性が職業を持つことは肯定的に受け止められている。

性別にみると、女性は就労継続が67.9%で男性(58.9%)を9.0ポイント上回っている。

前回調査と比べると、女性の就労継続は4.9ポイント増えているが、男性は同程度である。子育て期に就労を中断する働き方は女性で6.3ポイント、男性で4.0ポイント減っている。

福岡県調査と比べると、男女とも就労継続の割合はあまり差はなく、子育て期に就労を中断する働き方は、今回調査の方が4.3~6.1ポイント低い。

年齢別にみると、就労継続は女性の18~29歳と40代、50代で7割台と高い。男性は18~29歳と40代、60代で6割台と高い。子育て期に就労を中断する働き方は男女とも60代以上で2割台と高い。

配偶関係別にみると、女性の未婚では就労継続が71.7%と最も高いが、男性の未婚では54.3%と最も低くなっている。

図表3-2 女性が職業をもつことについての考え方 [全体、年齢別、配偶関係別]

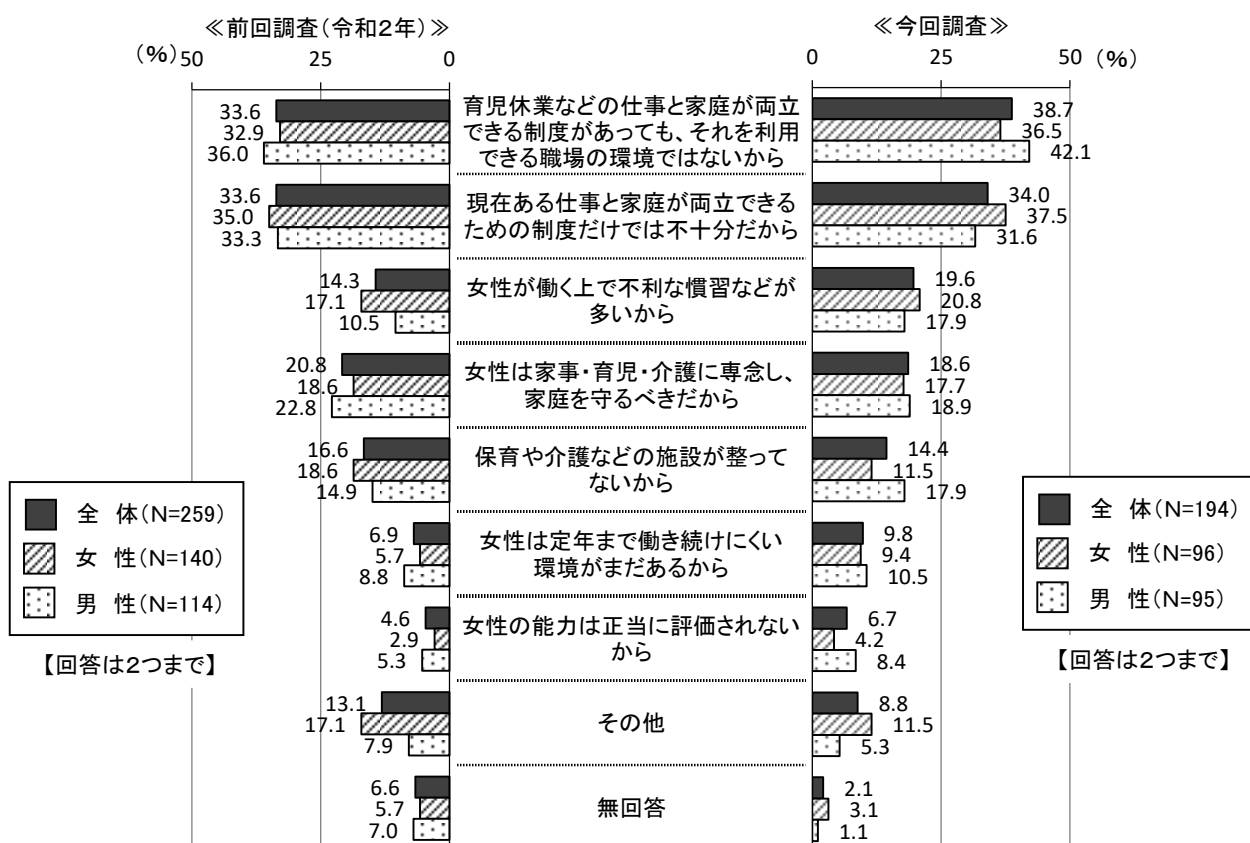
		標本数	方 が つ よ い 職 業 を 持 っ て い る	よ ち い 、 結 婚 あ す る と は ま 持 た な い 職 業 を 持 つ た い 方 が よ い	い 業 子 ど も が 持 ち が よ い 、 あ と は ま 持 た な い 職 業 を 持 つ た い 方 が よ い	子 ど も が 持 ち が よ い 、 あ と は ま 持 た な い 職 業 を 持 つ た い 方 が よ い	が 女 性 は 職 業 を 持 た な い 方 が よ い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体		948 100.0	606 63.9	10 1.1	17 1.8	163 17.2	4 0.4	53 5.6	84 8.9	11 1.2
年 齢 別	女性:18~29歳	69	73.9	-	1.4	14.5	-	4.3	5.8	-
	女性:30~39歳	86	59.3	1.2	2.3	14.0	1.2	12.8	9.3	-
	女性:40~49歳	108	72.2	-	0.9	13.9	-	2.8	8.3	1.9
	女性:50~59歳	125	74.4	-	1.6	8.8	-	7.2	6.4	1.6
	女性:60~69歳	65	64.6	-	-	20.0	-	3.1	7.7	4.6
	女性:70歳以上	81	59.3	1.2	3.7	27.2	-	2.5	4.9	1.2
	男性:18~29歳	45	62.2	2.2	-	15.6	-	8.9	11.1	-
	男性:30~39歳	67	55.2	1.5	3.0	13.4	1.5	3.0	19.4	3.0
	男性:40~49歳	70	62.9	2.9	2.9	17.1	-	11.4	2.9	-
	男性:50~59歳	89	59.6	2.2	3.4	16.9	-	6.7	11.2	-
男性:60~69歳	53	60.4	1.9	-	22.6	-	3.8	9.4	1.9	
男性:70歳以上	81	54.3	1.2	1.2	25.9	2.5	1.2	13.6	-	
	無回答	9	55.6	-	-	44.4	-	-	-	-
配 偶 関 係 別	女性:未婚	138	71.7	-	1.4	10.1	0.7	5.8	10.1	-
	女性:配偶者がいる	326	66.9	0.6	1.8	16.6	-	6.1	5.5	2.5
	女性:配偶者と離・死別した	64	67.2	-	1.6	18.8	-	3.1	9.4	-
	男性:未婚	138	54.3	1.4	4.3	16.7	-	5.1	16.7	1.4
	男性:配偶者がいる	235	60.4	2.6	0.4	20.4	1.3	6.8	8.1	-
	男性:配偶者と離・死別した	24	62.5	-	-	20.8	-	-	16.7	-
	無回答	23	60.9	-	4.3	30.4	-	-	-	4.3

(2) 女性が職業を続けない方がよいと思う理由

●女性が仕事を続けない方がよい理由は「両立支援制度があっても、それを利用できる職場の環境でないから」「現在ある仕事と家庭の両立支援制度では不十分だから」が上位。

問6. 付問1. [問6で2～5と答えた方におたずねします]  
 あなたがそう思われる理由は何ですか。(〇印は2つまで)

図表3-3 女性が職業を続けない方がよいと思う理由 [全体、性別] (前回調査比較)



子育て期に就労を中断する働き方や専業主婦志向の働き方を選んだ194人にその理由をたずねた。「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の環境ではないから」が38.7%、「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」が34.0%で上位2位にあげられている。次いで「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」が19.6%、「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」が18.6%とあげられている。

性別にみると、「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の環境ではないから」(女性36.5%、男性42.1%)は男性が5.6ポイント、「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」(同37.5%、31.6%)は女性が5.9ポイントそれぞれ高い。その他「保育や介護などの施設が整っていないから」(同11.5%、17.9%)は男性が6.4ポイント高い。

## II 調査結果の分析

前回調査と比べると、男女とも「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の環境ではないから」が3.6～6.1ポイント、「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」が3.7～7.4ポイント増え、特に男性の増え方が大きい。

年齢別にみると、「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の環境ではないから」は女性の30代で56.3%と最も高く、男性の50代と70歳以上でも5割台と高い。「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」は女性の60代で61.5%と最も高く、また30代でも56.3%と高い。「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」は女性の60代で30.8%、「保育や介護などの施設が整ってないから」は男性の40代と60代で約3割と他の年代に比べて高くなっている。

配偶関係別にみると、男女とも未婚で「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の環境ではないから」（女性41.2%、男性41.9%）や「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」（女性47.1%、38.7%）の割合が配偶者がいる人よりも高い。男女とも配偶者がいる人では「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」（女性24.2%、男性19.0%）、女性の配偶者がいる人では「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」（22.6%）などの割合が未婚よりも高くなっている。

図表3-4 女性が職業を続けられない方がよいと思う理由〔全体、年齢別、配偶関係別〕

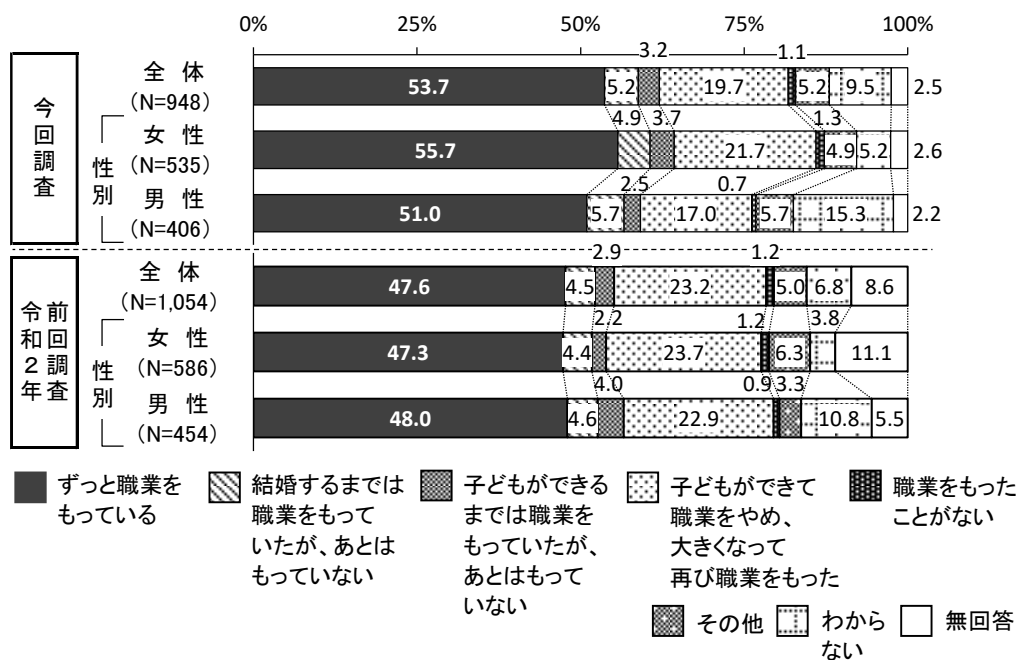
		標本数	きだ専念は家事・育児を介するべからし	らに女性は定年まで働か	さ女性能力は正当に評価	習女性が多から不利な慣	の環境ではないから	育児休業などの仕事と家庭	で立現は不十分だから	整保つてないから	その他	無回答
全体		194 100.0	36 18.6	19 9.8	13 6.7	38 19.6	75 38.7	66 34.0	28 14.4	17 8.8	4 2.1	
年齢別	女性:18～29歳	11	18.2	9.1	-	27.3	27.3	36.4	9.1	9.1	-	
	女性:30～39歳	16	18.8	6.3	6.3	25.0	56.3	56.3	-	-	6.3	
	女性:40～49歳	16	25.0	6.3	-	18.8	25.0	43.8	12.5	25.0	-	
	女性:50～59歳	13	23.1	-	15.4	15.4	15.4	38.5	15.4	7.7	-	
	女性:60～69歳	13	-	15.4	-	30.8	30.8	61.5	23.1	7.7	7.7	
	女性:70歳以上	26	15.4	15.4	3.8	15.4	46.2	11.5	11.5	15.4	3.8	
	男性:18～29歳	8	25.0	12.5	-	-	12.5	37.5	-	25.0	-	
	男性:30～39歳	13	15.4	7.7	7.7	23.1	38.5	30.8	15.4	7.7	-	
	男性:40～49歳	16	18.8	-	12.5	12.5	25.0	37.5	31.3	6.3	-	
	男性:50～59歳	20	25.0	20.0	5.0	20.0	50.0	35.0	5.0	-	-	
男性:60～69歳	13	15.4	-	7.7	15.4	46.2	38.5	30.8	7.7	-		
男性:70歳以上	25	16.0	16.0	12.0	24.0	56.0	20.0	20.0	-	4.0		
	無回答	4	50.0	-	25.0	25.0	25.0	-	-	25.0	-	
配偶関係別	女性:未婚	17	11.8	5.9	-	17.6	41.2	47.1	11.8	11.8	-	
	女性:配偶者がいる	62	22.6	9.7	6.5	24.2	33.9	38.7	9.7	11.3	-	
	女性:配偶者と離・死別した	13	7.7	15.4	-	7.7	53.8	23.1	15.4	15.4	7.7	
	男性:未婚	31	19.4	12.9	6.5	16.1	41.9	38.7	3.2	6.5	-	
	男性:配偶者がいる	58	20.7	10.3	8.6	19.0	37.9	29.3	22.4	5.2	1.7	
	男性:配偶者と離・死別した	5	-	-	20.0	20.0	80.0	20.0	60.0	-	-	
	無回答	8	12.5	-	12.5	25.0	12.5	12.5	12.5	12.5	25.0	

2. 女性の実際の働き方

●女性の実際の働き方は「ずっと職業をもっている」が約5割。男女とも考え方の就労継続より約8～12ポイント低い。

問7. あなた（女性の方はあなた自身が、男性の方は、あなたの配偶者・パートナー）は、どのような働き方ですか（どのような働き方になりそうですか）。独身の方も、一般的にどう考えるかをお答えください。（○印は1つ）

図表3-5 女性の実際の働き方〔全体、性別〕（前回調査比較）



実際、女性はどのような働き方をしているか、独身の人は結婚した場合を想定してたずねたところ、「ずっと職業をもっている」が 53.7%と最も多く、次いで「子どもができて職業をやめ、大きくなって再び職業をもった」が 19.7%、「結婚するまでは職業をもっていたが、あとはもっていない」が 5.2%、「子どもができるまでは職業をもっていたが、あとはもっていない」が 3.2%、「職業をもったことがない」が 1.1%となっている。

性別にみると、女性は就労継続（女性 55.7%、男性 51.0%）と子育て期に就労を中断する働き方（同 21.7%、17.0%）が男性より各々4.7ポイント高い。考え方では就労継続は約6割から7割であったが実際には7.9～12.2ポイント低く、子育て期に就労を中断する働き方は女性で6.0ポイント、専業主婦の割合は4.2～7.6ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、女性で就労継続が8.4ポイント増え、男性で子育て期に就労を中断する働き方が5.9ポイント減っている。

II 調査結果の分析

年齢別にみると、就労継続は女性の40代で66.7%と最も高く、18～29歳や30代、50代でも約6割ある。男性は30代で59.7%、18～29歳で53.3%、40代で50.0%となっている。子育て期に就労を中断する働き方は、女性の60代で36.9%と高い。

配偶関係別にみると、女性の未婚者は就労継続が68.8%と配偶者がいる人(50.6%)よりも18.2ポイント高い。配偶者がいる女性では子育てに期に就労を中断する働き方(27.3%)や専業主婦(12.3%)の割合がその他の配偶関係者よりも多い。

図表3-6 女性の実際の働き方 [全体、性別、配偶関係別]

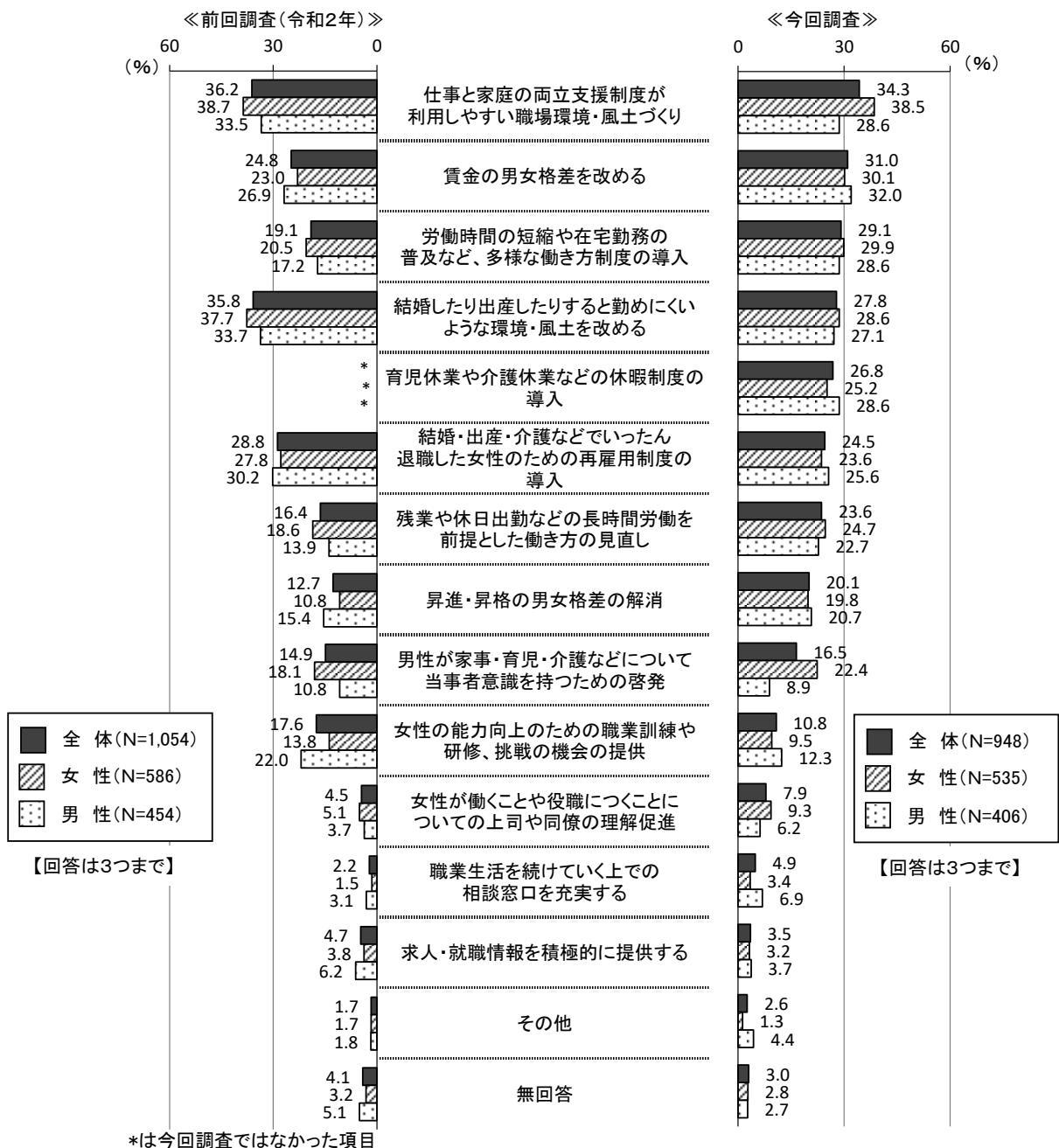
		標本数	ずっと職業をもっていない	もつていていいが、あとは職業を	結婚するまではいいが、あとは職業を	職業をもつていいが、あとは職業を	子どもができて職業を再開するまで	子どもができて職業を再開するまで	職業をもつたことがない	その他	わからない	無回答
全体		948 100.0	509 53.7	49 5.2	30 3.2	187 19.7	10 1.1	49 5.2	90 9.5	24 2.5		
年齢別	女性:18～29歳	69	60.9	4.3	1.4	13.0	4.3	-	13.0	2.9		
	女性:30～39歳	86	59.3	4.7	4.7	19.8	2.3	1.2	7.0	1.2		
	女性:40～49歳	108	66.7	0.9	4.6	18.5	-	1.9	5.6	1.9		
	女性:50～59歳	125	58.4	4.0	5.6	23.2	0.8	5.6	1.6	0.8		
	女性:60～69歳	65	36.9	6.2	3.1	36.9	-	7.7	6.2	3.1		
	女性:70歳以上	81	43.2	11.1	1.2	21.0	1.2	13.6	1.2	7.4		
	男性:18～29歳	45	53.3	4.4	2.2	15.6	-	4.4	17.8	2.2		
	男性:30～39歳	67	59.7	7.5	3.0	7.5	-	1.5	19.4	1.5		
	男性:40～49歳	70	50.0	4.3	2.9	22.9	1.4	5.7	12.9	-		
	男性:50～59歳	89	48.3	4.5	1.1	20.2	1.1	4.5	16.9	3.4		
	男性:60～69歳	53	47.2	1.9	5.7	15.1	1.9	11.3	15.1	1.9		
男性:70歳以上	81	48.1	9.9	1.2	18.5	-	7.4	11.1	3.7			
無回答	9	66.7	-	-	22.2	-	-	-	-	11.1		
配偶関係別	女性:未婚	138	68.8	2.2	1.4	8.0	4.3	2.2	10.9	2.2		
	女性:配偶者がいる	326	50.6	7.1	4.9	27.3	0.3	6.4	2.1	1.2		
	女性:配偶者と離・死別した	64	54.7	-	3.1	21.9	-	3.1	9.4	7.8		
	男性:未婚	138	44.2	3.6	3.6	13.8	-	2.2	29.7	2.9		
	男性:配偶者がいる	235	54.5	7.2	1.7	20.9	1.3	7.7	5.5	1.3		
男性:配偶者と離・死別した	24	45.8	4.2	4.2	-	-	4.2	33.3	8.3			
無回答	23	60.9	-	-	21.7	-	4.3	-	13.0			

3. 女性が働き続けるために必要なこと

●女性が働き続けるために必要なことは「仕事と家庭の両立支援制度が利用しやすい職場環境・風土づくり」「賃金の男女格差を改める」「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、多様な働き方制度の導入」が上位3位。

問8. 女性が職業をもち、働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(○印は3つまで)

図表3-7 女性が働き続けるために必要なこと [全体、性別] (前回調査比較)



## II 調査結果の分析

---

女性が働き続けるために必要なことをたずねたところ、「仕事と家庭の両立支援制度が利用しやすい職場環境・風土づくり」が 34.3%、「賃金の男女格差を改める」が 31.0%、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、多様な働き方制度の導入」が 29.1%で上位3位にあげられている。

性別にみると、「仕事と家庭の両立支援制度が利用しやすい職場環境・風土づくり」は女性が 38.5%で男性（28.6%）より 9.9 ポイント高く、「男性が家事・育児・介護などについて当事者意識を持つための啓発」（女性 22.4%、男性 8.9%）も 13.5 ポイント女性の方が高い。その他の項目は男女であまり大きな差はみられない。

前回調査と比べると、男女とも「賃金の男女格差を改める」や「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、多様な働き方制度の導入」「残業や休日出勤などの長時間労働を前提とした働き方の見直し」「昇進・昇格の男女格差の解消」などが 5.1～11.4 ポイント増えている。反対に「結婚したり出産したりすると勤めにくいような環境・風土を改める」や「結婚・出産・介護などでいったん退職した女性のための再雇用制度の導入」「女性の能力向上のための職業訓練や研修、挑戦の機会の提供」などは 4.2～9.7 ポイント減っている。

年齢別にみると、女性の30代から60代では「仕事と家庭の両立支援制度が利用しやすい職場環境・風土づくり」が約4割、「賃金の男女格差を改める」は男性の40代で40.0%、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、多様な働き方制度の導入」は女性の40代と50代、男性の60代で3割台半ばと他の年代に比べて割合が高い。その他「昇進・昇格の男女格差の解消」は女性の18～29歳で34.8%、「男性が家事・育児・介護などについて当事者意識を持つための啓発」は女性の30代で26.7%と高いのが目立つ。

配偶関係別にみると、女性の未婚では「賃金の男女格差を改める」(38.4%)、「昇進・昇格の男女格差の解消」(33.3%)、「男性が家事・育児・介護などについて当事者意識を持つための啓発」(26.1%)などが配偶者がいる女性よりも割合が高い。配偶者がいる女性は「仕事と家庭の両立支援制度が利用しやすい職場環境・風土づくり」(43.6%)、また配偶者がいる男性とともに「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、多様な働き方制度の導入」が約3割と高い。

図表3-8 女性が働き続けるために必要なこと [全体、年齢別、配偶関係別]

		標本数	賃金の男女格差を改める	昇進・昇格の男女格差の解消	女性の能力向上のための職業訓練や研修、挑戦の機会の提供	残業や休日出勤などの長時間労働を前提とした働き方の見直し	多様な働き方制度の導入	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、	育児休業や介護休業などの休暇制度の導入	結婚したり出産したりすると勤めにくいような環境・風土を改める	仕事と家庭の両立支援制度が利用しやすい職場環境・風土づくり	女性が働くことや役職につくことについて上司や同僚の理解促進	男性が家事・育児・介護などについて当事者意識を持つための啓発	結婚・出産・介護などでいったん退職した女性のための再雇用制度の導入	求人・就職情報を積極的に提供する	職業生活を続けていく上での相談窓口を充実する	その他	無回答
全体		948 100.0	294 31.0	191 20.1	102 10.8	224 23.6	276 29.1	254 26.8	264 27.8	325 34.3	75 7.9	156 16.5	232 24.5	33 3.5	46 4.9	25 2.6	28 3.0	
年齢別	女性:18～29歳	69	36.2	34.8	10.1	24.6	24.6	29.0	31.9	29.0	14.5	21.7	11.6	4.3	1.4	-	1.4	
	女性:30～39歳	86	29.1	24.4	8.1	29.1	26.7	24.4	29.1	41.9	11.6	26.7	15.1	4.7	1.2	1.2	2.3	
	女性:40～49歳	108	33.3	20.4	9.3	25.9	35.2	19.4	28.7	38.9	4.6	21.3	21.3	1.9	3.7	2.8	2.8	
	女性:50～59歳	125	24.8	18.4	7.2	21.6	36.8	21.6	31.2	44.0	14.4	20.8	28.0	2.4	5.6	1.6	1.6	
	女性:60～69歳	65	24.6	15.4	10.8	15.4	29.2	36.9	18.5	41.5	4.6	24.6	33.8	3.1	4.6	-	3.1	
	女性:70歳以上	81	34.6	7.4	13.6	30.9	21.0	25.9	29.6	30.9	4.9	21.0	29.6	3.7	2.5	1.2	6.2	
	男性:18～29歳	45	31.1	26.7	15.6	20.0	22.2	22.2	28.9	24.4	-	8.9	24.4	2.2	11.1	6.7	-	
	男性:30～39歳	67	20.9	16.4	13.4	26.9	20.9	32.8	31.3	26.9	7.5	10.4	26.9	6.0	3.0	3.0	6.0	
	男性:40～49歳	70	40.0	25.7	11.4	28.6	31.4	30.0	20.0	28.6	5.7	11.4	18.6	-	2.9	7.1	-	
	男性:50～59歳	89	32.6	22.5	6.7	22.5	30.3	28.1	31.5	30.3	6.7	5.6	27.0	3.4	5.6	4.5	2.2	
男性:60～69歳	53	34.0	11.3	9.4	17.0	35.8	32.1	26.4	32.1	3.8	11.3	26.4	5.7	11.3	5.7	1.9		
男性:70歳以上	81	32.1	19.8	18.5	19.8	29.6	25.9	24.7	28.4	9.9	7.4	29.6	4.9	9.9	1.2	4.9		
無回答	9	44.4	22.2	11.1	-	-	44.4	11.1	44.4	-	-	33.3	11.1	-	-	22.2		
配偶関係別	女性:未婚	138	38.4	33.3	9.4	21.7	29.0	21.0	23.9	28.3	14.5	26.1	21.7	5.8	2.2	1.4	2.9	
	女性:配偶者がいる	326	27.6	13.8	9.5	25.8	32.5	25.5	29.4	43.6	7.1	20.6	25.2	2.5	3.7	1.5	2.5	
	女性:配偶者と離・死別した	64	23.4	23.4	10.9	26.6	17.2	32.8	35.9	34.4	10.9	25.0	15.6	1.6	4.7	-	4.7	
	男性:未婚	138	28.3	23.2	10.9	21.7	23.2	26.8	29.7	26.1	4.3	7.2	25.4	3.6	8.0	6.5	3.6	
	男性:配偶者がいる	235	33.2	18.7	14.0	23.8	31.5	30.6	26.4	30.2	7.2	10.2	24.7	3.8	6.8	3.4	1.3	
	男性:配偶者と離・死別した	24	41.7	20.8	8.3	20.8	25.0	20.8	16.7	25.0	8.3	4.2	29.2	4.2	4.2	4.2	8.3	
無回答	23	39.1	17.4	4.3	8.7	30.4	30.4	21.7	39.1	-	8.7	43.5	4.3	-	-	13.0		

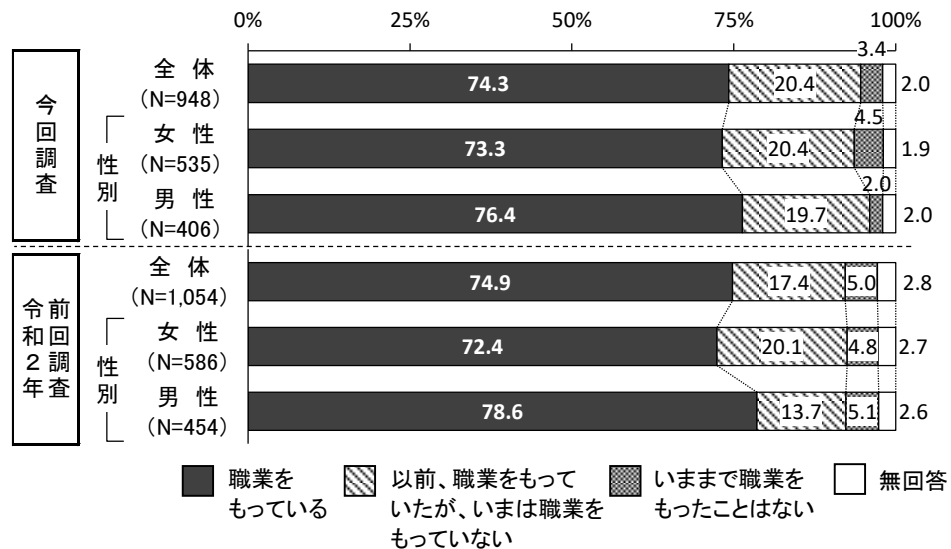
4. 就労状況について

(1) 現在の就業状況

- 現在、「職業をもっている」女性は約7割で前回調査と変わらない。女性の30代から50代では8割を超えている。
- 女性の未婚、配偶者がいる人に関わらず「職業をもっている」は7割台半ばで同程度。

問9. あなたは現在、職業（収入のある仕事）をもっていますか（育児や介護休業中などの人も働いているものとみなします）。（○印は1つ）

図表3-9 現在の就業状況〔全体、性別〕（前回調査比較）



現在の職業（収入のある仕事）の有無について、「職業をもっている」が74.3%で最も高く、「以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない」は20.4%、「いままで職業をもったことはない」は3.4%となっている。

性別にみると、女性で「職業をもっている」が73.3%、「以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない」が20.4%、「いままで職業をもったことはない」が4.5%となっている。男性は「職業をもっている」が76.4%、「以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない」が19.7%、「いままで職業をもったことはない」が2.0%である。

前回調査と比べると、男女ともあまり大きな差はみられない。

年齢別にみると、女性の「職業をもっている」は40代で90.7%と最も高く、30代と50代でも約8割と高い。「以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない」は女性の60代以上で3割台半ばから約5割と高い。

配偶関係別にみると、女性の未婚と配偶者がいる人は「職業をもっている」が7割台半ばと同程度である。

図表3-10 現在の就業状況〔全体、年齢別、配偶関係別〕

		(%)				
		標本数	職業をもっている	をい以前、たいま もたが、こま もって、い職業 ないいまをも 職業はも 業職つて	たいま こま はな い 職業 をも つ	無回答
全体		948 100.0	704 74.3	193 20.4	32 3.4	19 2.0
年齢別	女性:18~29歳	69	68.1	5.8	26.1	-
	女性:30~39歳	86	81.4	16.3	1.2	1.2
	女性:40~49歳	108	90.7	5.6	1.9	1.9
	女性:50~59歳	125	81.6	16.0	0.8	1.6
	女性:60~69歳	65	61.5	36.9	-	1.5
	女性:70歳以上	81	42.0	50.6	2.5	4.9
	男性:18~29歳	45	82.2	8.9	6.7	2.2
	男性:30~39歳	67	86.6	9.0	3.0	1.5
	男性:40~49歳	70	90.0	8.6	1.4	-
	男性:50~59歳	89	89.9	7.9	1.1	1.1
	男性:60~69歳	53	67.9	30.2	-	1.9
	男性:70歳以上	81	43.2	50.6	1.2	4.9
	無回答	9	44.4	44.4	-	11.1
配偶関係別	女性:未婚	138	74.6	10.1	14.5	0.7
	女性:配偶者がいる	326	74.2	22.7	1.2	1.8
	女性:配偶者と離・死別した	64	65.6	29.7	-	4.7
	男性:未婚	138	76.8	15.9	5.1	2.2
	男性:配偶者がいる	235	78.3	19.6	0.4	1.7
	男性:配偶者と離・死別した	24	54.2	41.7	-	4.2
	無回答	23	60.9	34.8	-	4.3

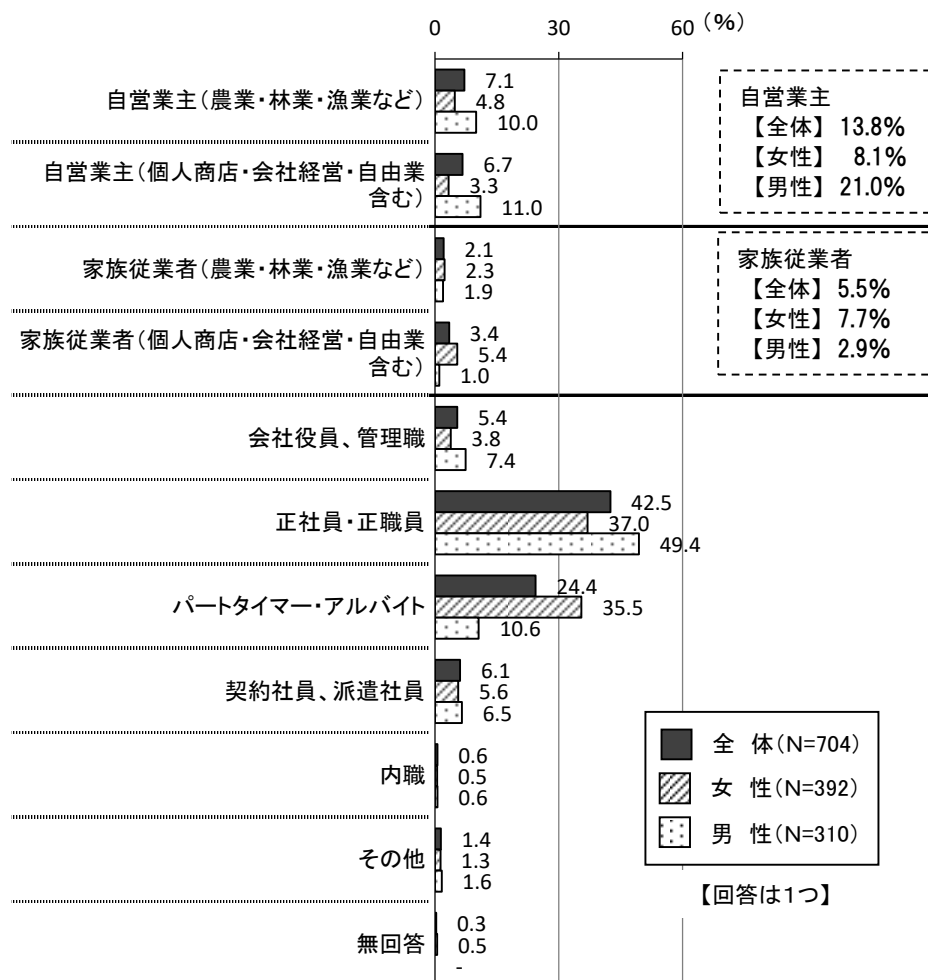
II 調査結果の分析

(2) 就業形態

- 就業形態は『自営業主』が13.8%、『家族従業者』は5.5%、「正社員・正職員」は42.5%、「パートタイマー・アルバイト」は24.4%。
- 『自営業主』は男性、『家族従業者』は女性が多い。「正社員・正職員」は男性、「パートタイマー・アルバイト」は女性が多い。

問9付問1. [問9で1.「職業をもっている」と答えた方に]  
あなたの職業は次のどれにあたりますか。(○印は1つ)

図表3-11 就業形態 [全体、性別]



「職業をもっている」と答えた704人に、就業形態をたずねた。

「自営業主(農業・林業・漁業など)」と「自営業主(個人商店・会社経営・自由業含む)」をあわせた『自営業主』は13.8%、「家族従業者(農業・林業・漁業など)」と「家族従業者(個人商店・会社経営・自由業含む)」をあわせた『家族従業者』は5.5%である。「会社役員、管理職」は5.4%、「正社員・正職員」は42.5%、「パートタイマー・アルバイト」は24.4%、「契約社員、派遣社員」は6.1%である。

性別にみると、『自営業主』は（女性 8.1%、男性 21.0%）は男性が 12.9 ポイント多く、『家族従業者』（同 7.7%、2.9%）は女性が 4.8 ポイント多い。また、「正社員・正職員」（同 37.0%、49.4%）は男性が 12.4 ポイント、「パートタイマー・アルバイト」（同 35.5%、10.6%）は女性が 24.9 ポイント多い。

年齢別にみると、『自営業主』は男女とも年齢が高い層で割合が高い傾向がみられる。「正社員・正職員」は男女とも 50 代以下に多いが、男性の割合の方が高く、特に 40 代では 26.3 ポイント差がある。「パートタイマー・アルバイト」は女性の 60 代で 47.5%と最も高い。

図表 3-12 就業形態 [全体、年齢別]

		(%)											
		標本数	自営業主 （農業・林業・漁業 など）	自営業主 （個人商店・会社経 営・自由業含む）	家族従業者 （農業・林業・漁 業など）	家族従業者 （個人商店・会社 経営・自由業含む）	会社役員、管理職	正社員・正職員	パートタイマー・アルバイト	契約社員、派遣社員	内職	その他	無回答
全体		704 100.0	50 7.1	47 6.7	15 2.1	24 3.4	38 5.4	299 42.5	172 24.4	43 6.1	4 0.6	10 1.4	2 0.3
年齢別	女性:18～29歳	47	2.1	-	2.1	8.5	2.1	46.8	27.7	10.6	-	-	-
	女性:30～39歳	70	1.4	1.4	1.4	7.1	2.9	47.1	34.3	2.9	1.4	-	-
	女性:40～49歳	98	4.1	3.1	-	4.1	4.1	38.8	34.7	10.2	-	1.0	-
	女性:50～59歳	102	1.0	4.9	-	3.9	3.9	46.1	34.3	3.9	-	2.0	-
	女性:60～69歳	40	10.0	-	12.5	10.0	5.0	7.5	47.5	2.5	-	2.5	2.5
	女性:70歳以上	34	23.5	11.8	5.9	-	5.9	5.9	38.2	-	2.9	2.9	2.9
	男性:18～29歳	37	5.4	-	2.7	-	2.7	59.5	16.2	13.5	-	-	-
	男性:30～39歳	58	5.2	8.6	3.4	1.7	6.9	60.3	6.9	3.4	3.4	-	-
	男性:40～49歳	63	6.3	11.1	1.6	1.6	4.8	65.1	4.8	1.6	-	3.2	-
	男性:50～59歳	80	7.5	16.3	-	1.3	10.0	50.0	6.3	7.5	-	1.3	-
	男性:60～69歳	36	13.9	8.3	2.8	-	11.1	33.3	13.9	11.1	-	5.6	-
	男性:70歳以上	35	31.4	17.1	2.9	-	5.7	8.6	28.6	5.7	-	-	-
無回答		4	-	-	-	-	25.0	25.0	25.0	25.0	-	-	-

II 調査結果の分析

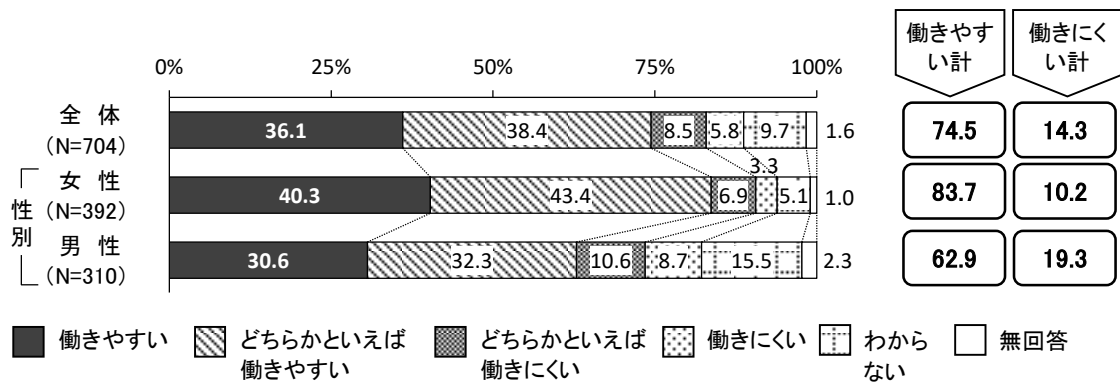
(3) 職場における女性の就労環境

- 職場は女性にとって『働きやすい』は、女性は約8割、男性は約6割。
- 女性では50代以下で『働きにくい』の割合が比較的高い。職業別では、女性の家族従業者と正社員・正職員、非正規で『働きにくい』との回答がみられる。

問9付問2. [問9で1.「職業をもっている」と答えた方に]

あなたの職場は、女性にとって働きやすいと思いますか。(〇印は1つ)

図表3-13 職場における女性の就労環境 [全体、性別]



職業をもっている704人に、職場が女性にとって働きやすいと思うかたずねた。「働きやすい」が36.1%、「どちらかといえば働きやすい」が38.4%でこれらをあわせた『働きやすい』は74.5%である。「働きにくい」(5.8%)と「どちらかといえば働きにくい」(8.5%)をあわせた『働きにくい』は14.3%である。

性別にみると、女性の『働きやすい』は83.7%で男性(62.9%)より20.8ポイント高い。

年齢別にみると、女性の18～29歳から50代で『働きにくい』が1割台と比較的高い。  
職業別にみると、女性の家族従業者と正社員・正職員、非正規で『働きにくい』との回答がみられる。

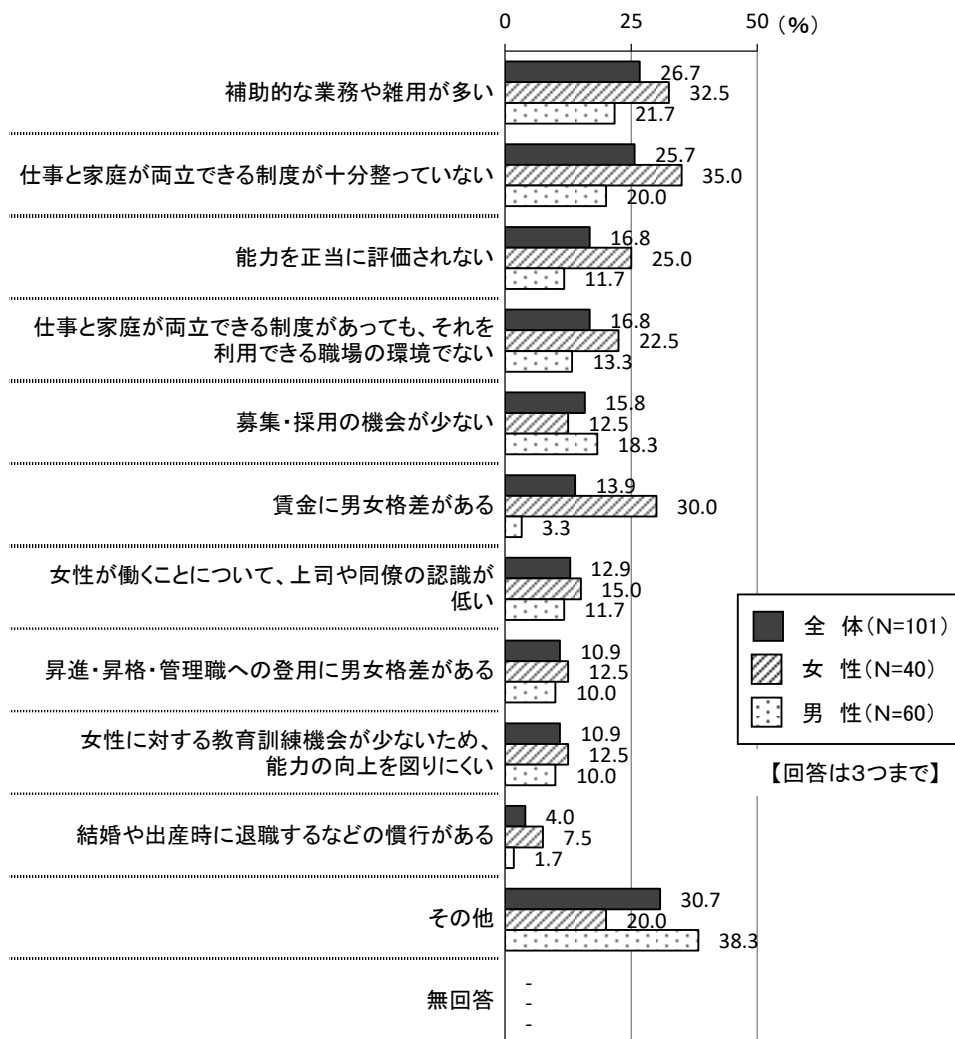
図表3-14 職場における女性の就労環境〔全体、年齢別、職業別〕

		標本数	働きやすい	働きやすい どちらかといえば	働きにくい どちらかといえば	働きにくい	わからない	無回答	働きやすい計	働きにくい計
全体		704 100.0	254 36.1	270 38.4	60 8.5	41 5.8	68 9.7	11 1.6	524 74.5	101 14.3
年齢別	女性:18～29歳	47	48.9	36.2	8.5	4.3	2.1	-	85.1	12.8
	女性:30～39歳	70	30.0	55.7	5.7	5.7	2.9	-	85.7	11.4
	女性:40～49歳	98	35.7	44.9	8.2	2.0	8.2	1.0	80.6	10.2
	女性:50～59歳	102	44.1	38.2	6.9	4.9	5.9	-	82.3	11.8
	女性:60～69歳	40	50.0	40.0	2.5	-	7.5	-	90.0	2.5
	女性:70歳以上	34	41.2	41.2	8.8	-	-	8.8	82.4	8.8
	男性:18～29歳	37	27.0	18.9	13.5	10.8	27.0	2.7	45.9	24.3
	男性:30～39歳	58	27.6	41.4	6.9	8.6	15.5	-	69.0	15.5
	男性:40～49歳	63	38.1	31.7	14.3	6.3	9.5	-	69.8	20.6
	男性:50～59歳	80	27.5	38.8	7.5	10.0	13.8	2.5	66.3	17.5
男性:60～69歳	36	16.7	30.6	13.9	11.1	22.2	5.6	47.3	25.0	
男性:70歳以上	35	45.7	20.0	11.4	5.7	11.4	5.7	65.7	17.1	
	無回答	4	50.0	25.0	-	25.0	-	-	75.0	25.0
職業別	女性:自営業主	32	53.1	34.4	-	-	6.3	6.3	87.5	-
	女性:家族従業者	30	40.0	36.7	3.3	6.7	13.3	-	76.7	10.0
	女性:会社役員、管理職	15	73.3	20.0	-	-	6.7	-	93.3	-
	女性:正社員・正規職員	145	32.4	51.7	8.3	6.2	1.4	-	84.1	14.5
	女性:非正規	161	40.4	42.2	8.7	1.2	6.8	0.6	82.6	9.9
	女性:内職、その他	7	85.7	14.3	-	-	-	-	100.0	-
	男性:自営業主	65	30.8	29.2	10.8	4.6	20.0	4.6	60.0	15.4
	男性:家族従業者	9	22.2	33.3	11.1	11.1	22.2	-	55.5	22.2
	男性:会社役員、管理職	23	34.8	26.1	13.0	8.7	13.0	4.3	60.9	21.7
	男性:正社員・正規職員	153	30.1	34.0	11.8	10.5	13.1	0.7	64.1	22.3
男性:非正規	53	34.0	34.0	7.5	7.5	17.0	-	68.0	15.0	
男性:内職、その他	7	14.3	28.6	-	14.3	14.3	28.6	42.9	14.3	
	無回答	4	25.0	25.0	-	25.0	-	25.0	50.0	25.0

●女性が働きにくい点で、女性の割合が高いものは「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」「補助的な業務や雑用が多い」「賃金に男女格差がある」「能力を正當に評価されない」「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の環境でない」が上位を占めている。

付問2-1. [付問2で3.「どちらかといえば働きにくい」4.「働きにくい」と答えた方に] どんな点が女性にとって働きにくいと思いますか。(○印は3つまで)

図表3-15 女性が働きにくい点 [全体、性別]



職場が女性にとって『働きにくい』と答えた 101 人に、働きにくい点をたずねた。「補助的な業務や雑用が多い」が 26.7%、「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」が 25.7%、「能力を正當に評価されない」「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の環境でない」が同率の 16.8%である。

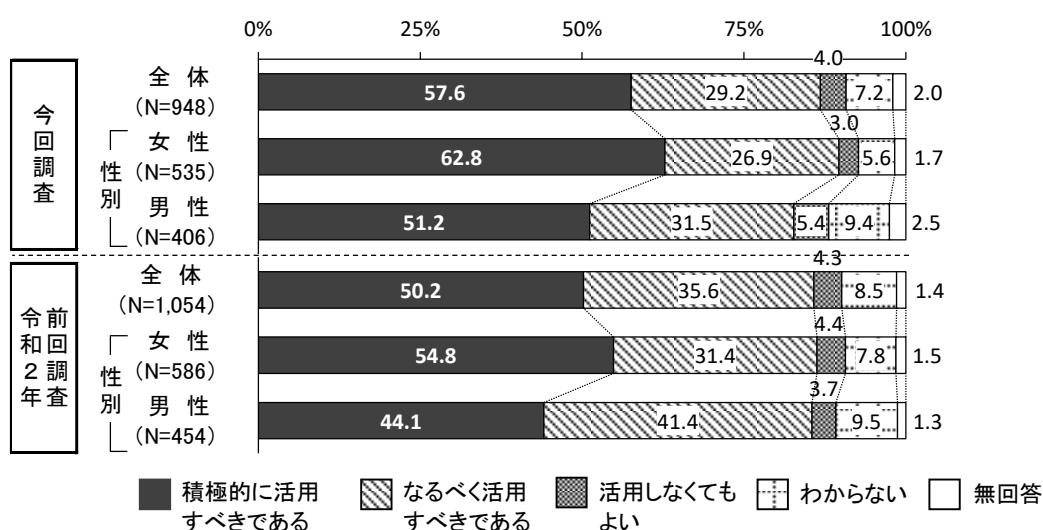
性別にみると、ほとんどの項目で女性の方が割合は高く、特に「賃金に男女格差がある」は 26.7 ポイント、「補助的な業務や雑用が多い」「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」「能力を正當に評価されない」などは 10.8~15.0 ポイント高い。また、「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の環境でない」も 9.2 ポイント高い。

5. 男性が育児休業・介護休業・子の看護休暇を活用することについて

●男性が育児休業、介護休業、子の看護休暇制度を活用することについて「積極的に活用すべきである」が約6割。男性の方が女性よりも約10ポイント低い。

問 10. 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得できる制度があります。あなたは、男性がこの制度を活用することについて、どう思いますか。

図表3-16 男性が育児休業・介護休業・子の看護休暇制度を活用することについて  
[全体、性別] (前回調査比較)



男性が育児休業、介護休業、子の看護休暇制度を活用することについてたずねた。

「積極的に活用すべきである」が57.6%で最も高く、次いで「なるべく活用すべきである」が29.2%、「活用しなくてもよい」は4.0%である。

性別にみると、女性は「積極的に活用すべきである」が62.8%で男性(51.2%)よりも11.6ポイント高く、男性は「なるべく活用すべきである」が31.5%で女性(26.9%)よりも4.6ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、男女とも「積極的に活用すべきである」が7.1~8.0ポイント増えている。

## II 調査結果の分析

年齢別にみると、女性の18～29歳で「積極的に活用すべきである」が73.9%と最も高く、同年代の男性は51.1%と大きな差がある。「なるべく活用すべきである」は男性の年齢が高い層で割合が高い傾向がみられる。

配偶関係別にみると、女性の未婚で「積極的に活用すべきである」は67.4%であるが、男性の未婚では43.5%と大きな差がある。

図表3-17 男性が育児休業・介護休業・子の看護休暇制度を活用することについて  
[全体、年齢別、配偶関係別]

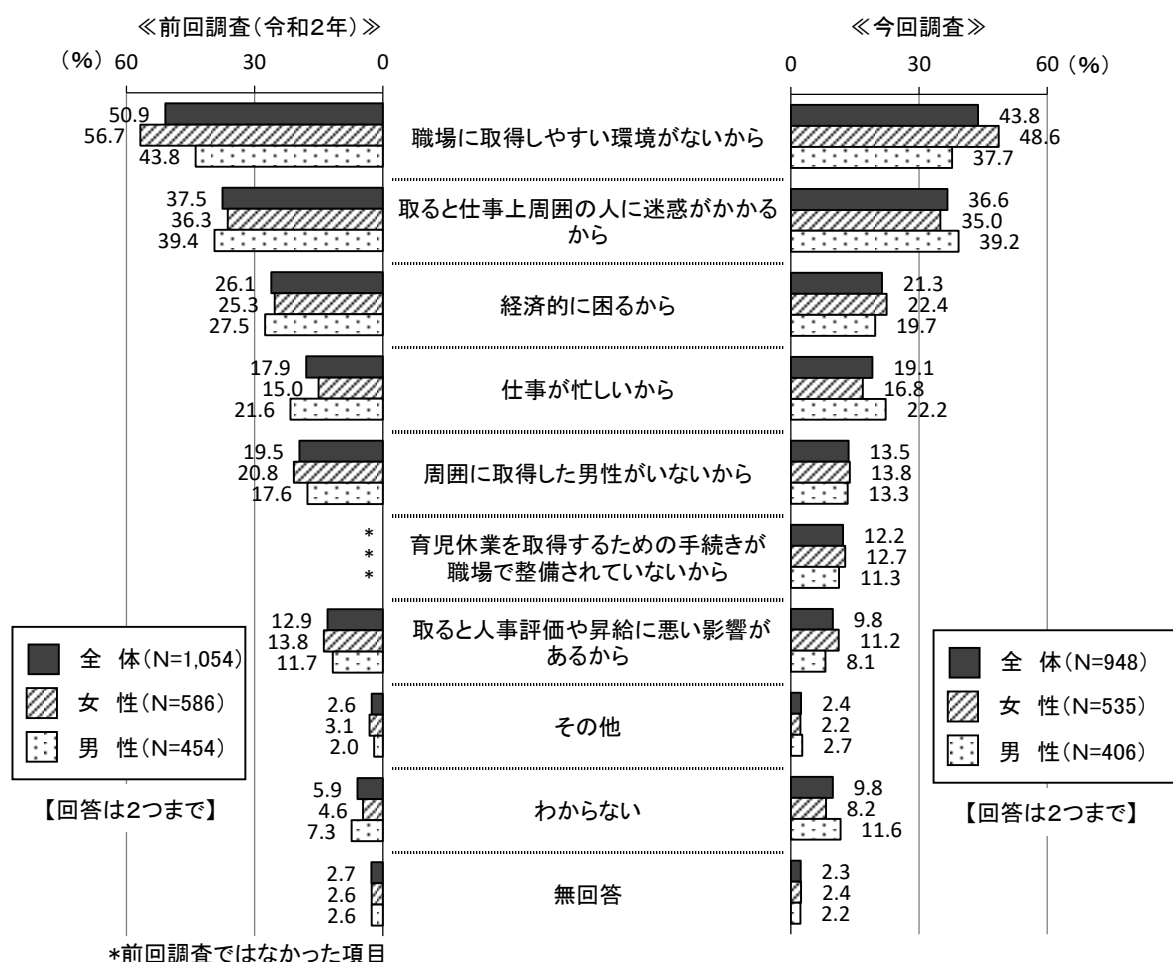
			(%)				
		標本数	積極的に活用する	なるべく活用する	活用しなくてもよい	わからない	無回答
全体		948 100.0	546 57.6	277 29.2	38 4.0	68 7.2	19 2.0
年齢別	女性:18～29歳	948	73.9	11.6	7.2	7.2	-
	女性:30～39歳	100	64.0	24.4	7.0	3.5	1.2
	女性:40～49歳	69	58.3	33.3	-	4.6	3.7
	女性:50～59歳	86	61.6	28.0	2.4	6.4	1.6
	女性:60～69歳	108	63.1	30.8	1.5	3.1	1.5
	女性:70歳以上	125	59.3	29.6	1.2	8.6	1.2
	男性:18～29歳	65	51.1	26.7	6.7	13.3	2.2
	男性:30～39歳	81	52.2	28.4	3.0	16.4	-
	男性:40～49歳	45	62.9	25.7	2.9	8.6	-
	男性:50～59歳	67	50.6	31.5	9.0	7.9	1.1
	男性:60～69歳	70	47.2	37.7	3.8	3.8	7.5
男性:70歳以上	89	43.2	38.3	6.2	7.4	4.9	
	無回答	53	44.4	55.6	-	-	-
配偶関係別	女性:未婚	138	67.4	22.5	2.9	6.5	0.7
	女性:配偶者がいる	326	61.3	28.5	3.1	4.9	2.1
	女性:配偶者と離・死別した	64	57.8	31.3	3.1	7.8	-
	男性:未婚	138	43.5	34.1	5.1	15.2	2.2
	男性:配偶者がいる	235	55.7	31.1	6.0	5.1	2.1
	男性:配偶者と離・死別した	24	45.8	25.0	4.2	20.8	4.2
		無回答	23	60.9	30.4	-	-

6. 男性が育児休業を取得しない（できない）理由

●男性が育児休業等を取得しない（できない）理由は、女性は「職場に取得しやすい環境がないから」が約5割、男性は「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから」が約4割。

問 11. 女性の育児休業取得率は 86.6%であるのに対し、男性の育児休業取得率は 40.5%（厚生労働省：令和6年度雇用均等基本調査（全国））となっています。前回調査時（令和2年）（女性が 82.2%、男性 6.16%）より改善はされていますが、男性の6割が育児休業などを取得しない（できない）理由は何だと思えますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。（○印は2つまで）

図表3-18 男性が育児休業を取得しない（できない）理由 [全体、性別]（前回調査比較）



男性の6割が育児休業などを取得しない（できない）理由をたずねたところ、「職場に取得しやすい環境がないから」が43.8%と最も高く、次いで「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから」が36.6%、「経済的に困るから」が21.3%などとなっている。

性別にみると、女性は「職場に取得しやすい環境がないから」が48.6%で最も高く、男性(37.7%)よりも10.9ポイント高い。男性は「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから」（女性35.0%、男性39.2%）が最も高く、女性より4.2ポイント高い。また、「仕事が忙しいから」（同16.8%、22.2%）も5.4ポイント高くなっている。

## II 調査結果の分析

年齢別にみると、「職場に取得しやすい環境がないから」は女性の50代と60代で5割台と高い。「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」は女性の60代で44.6%、男性の50代で42.7%、70歳以上で46.9%と年齢の高い層で割合が高い。「経済的に困るから」は女性の18～29歳と男性の40代で約3割、「仕事が忙しいから」は女性の60代と男性の18～29歳から50代で2割台半ば、「周囲に取得した男性がいないから」は男女の18～29歳で2割台と他の年代に比べて高い。

図表3-19 男性が育児休業を取得しない（できない）理由〔全体、年齢別〕

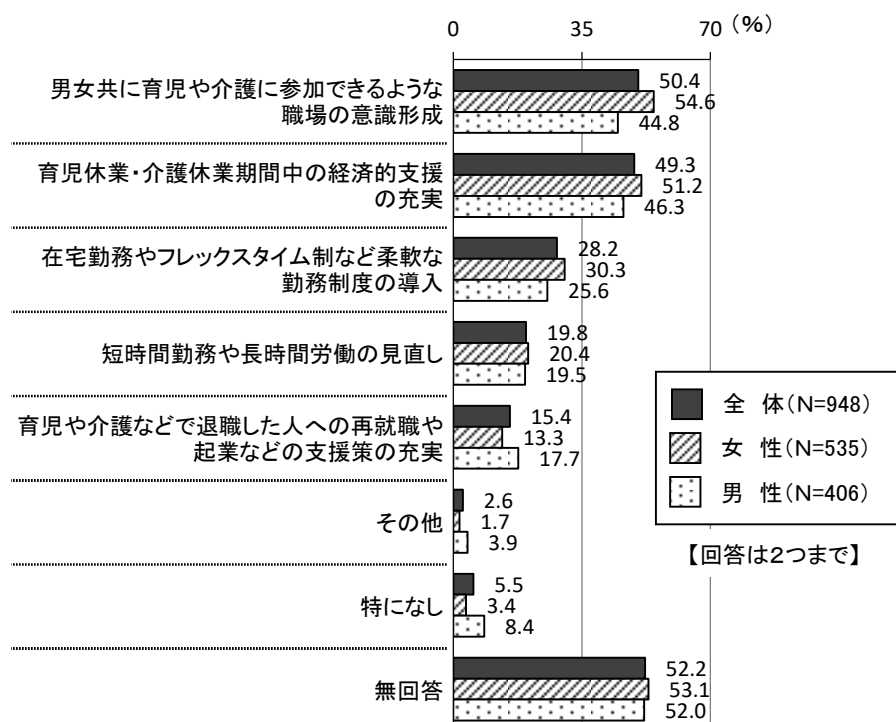
		標本数	い周囲から取得した男性がいない	な職場に取得しやすい環境がない	仕事忙しいから	惑取がかかると仕事上周囲の人に迷惑がかかる	い取ると人事評価や昇給に悪影響があるから	経済的に困るから	い手続が取得するまで整えられていないから	育他	わからぬ	無回答
全体		948 100.0	128 13.5	415 43.8	181 19.1	347 36.6	93 9.8	202 21.3	116 12.2	23 2.4	93 9.8	22 2.3
年齢別	女性:18～29歳	69	21.7	40.6	15.9	26.1	11.6	29.0	14.5	-	8.7	1.4
	女性:30～39歳	86	14.0	47.7	16.3	32.6	12.8	26.7	10.5	4.7	5.8	1.2
	女性:40～49歳	108	16.7	45.4	13.9	38.9	12.0	20.4	12.0	3.7	7.4	2.8
	女性:50～59歳	125	9.6	56.0	21.6	35.2	11.2	21.6	9.6	1.6	8.0	2.4
	女性:60～69歳	65	12.3	52.3	24.6	44.6	12.3	18.5	15.4	-	4.6	1.5
	女性:70歳以上	81	11.1	45.7	8.6	32.1	7.4	18.5	17.3	2.5	14.8	4.9
	男性:18～29歳	45	22.2	28.9	24.4	37.8	11.1	11.1	4.4	4.4	17.8	-
	男性:30～39歳	67	11.9	32.8	25.4	35.8	10.4	22.4	10.4	1.5	14.9	-
	男性:40～49歳	70	14.3	38.6	25.7	32.9	10.0	28.6	11.4	2.9	5.7	-
	男性:50～59歳	89	15.7	40.4	24.7	42.7	6.7	19.1	6.7	2.2	10.1	2.2
	男性:60～69歳	53	9.4	41.5	15.1	35.8	3.8	15.1	15.1	7.5	9.4	7.5
男性:70歳以上	81	8.6	39.5	16.0	46.9	7.4	18.5	18.5	-	13.6	3.7	
無回答		9	-	44.4	22.2	11.1	-	33.3	22.2	-	22.2	-

7. 男女がともに介護と仕事を両立させていく環境を作るために必要なこと

●男女がともに働き、介護と仕事を両立させていく環境を作るために必要なことは「男女共に育児や介護に参加できるような職場の意識形成」「育児休業・介護休業期間中の経済的支援の充実」が上位。

問 12. 男女がともに仕事と育児や介護などを両立させていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇印は2つまで)

図表3-20 男女がともに介護と仕事を両立させていく環境を作るために必要なこと [全体、性別]



男女がともに働き、介護と仕事を両立させていく環境を作るために必要なことをたずねたところ、「男女共に育児や介護に参加できるような職場の意識形成」(50.4%)、「育児休業・介護休業期間中の経済的支援の充実」(49.3%)が約5割で上位2位にあげられている。

性別にみると、「男女共に育児や介護に参加できるような職場の意識形成」「育児休業・介護休業期間中の経済的支援の充実」「在宅勤務やフレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入」など上位3位の項目は女性の方が4.7~9.8ポイント高い。

## II 調査結果の分析

年齢別にみると、「男女共に育児や介護に参加できるような職場の意識形成」は女性の18～29歳と70歳以上で6割台、「育児休業・介護休業期間中の経済的支援の充実」は女性の30代と60代、男性の50代で約6割、「在宅勤務やフレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入」は女性の30代と50代で3割台と高い。

図表3-21 男女がともに介護と仕事を両立させていく環境を作るために必要なこと  
[全体、年齢別]

		標本数	の参加意識形成	男女共に育児や介護に	実間育中児の経済的支援の充実	働短の時間勤務や長時間労働	業した人への支援策の充実	育児や介護など再就職や退職	務制度の導入	在宅勤務やフレックスタイム制など柔軟な勤務	その他	特になし	無回答
			(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体		948 100.0	478 50.4	467 49.3	188 19.8	146 15.4	267 28.2	25 2.6	52 5.5	495 52.2			
年齢別	女性:18～29歳	69	60.9	52.2	23.2	5.8	26.1	-	4.3	94.2			
	女性:30～39歳	86	47.7	59.3	22.1	9.3	33.7	2.3	2.3	76.7			
	女性:40～49歳	108	54.6	49.1	22.2	13.9	26.9	3.7	2.8	67.6			
	女性:50～59歳	125	52.8	43.2	19.2	16.0	38.4	1.6	3.2	48.0			
	女性:60～69歳	65	49.2	60.0	21.5	10.8	29.2	1.5	4.6	18.5			
	女性:70歳以上	81	63.0	50.6	14.8	19.8	23.5	-	3.7	9.9			
	男性:18～29歳	45	42.2	31.1	24.4	17.8	28.9	4.4	11.1	82.2			
	男性:30～39歳	67	38.8	38.8	17.9	19.4	29.9	1.5	14.9	73.1			
	男性:40～49歳	70	54.3	44.3	22.9	11.4	22.9	10.0	5.7	68.6			
	男性:50～59歳	89	41.6	59.6	24.7	15.7	24.7	2.2	4.5	61.8			
	男性:60～69歳	53	47.2	45.3	13.2	11.3	28.3	5.7	7.5	32.1			
	男性:70歳以上	81	44.4	49.4	13.6	28.4	22.2	1.2	8.6	6.2			
無回答		9	66.7	55.6	-	44.4	11.1	-	-	-			

## 第4章 地域活動について

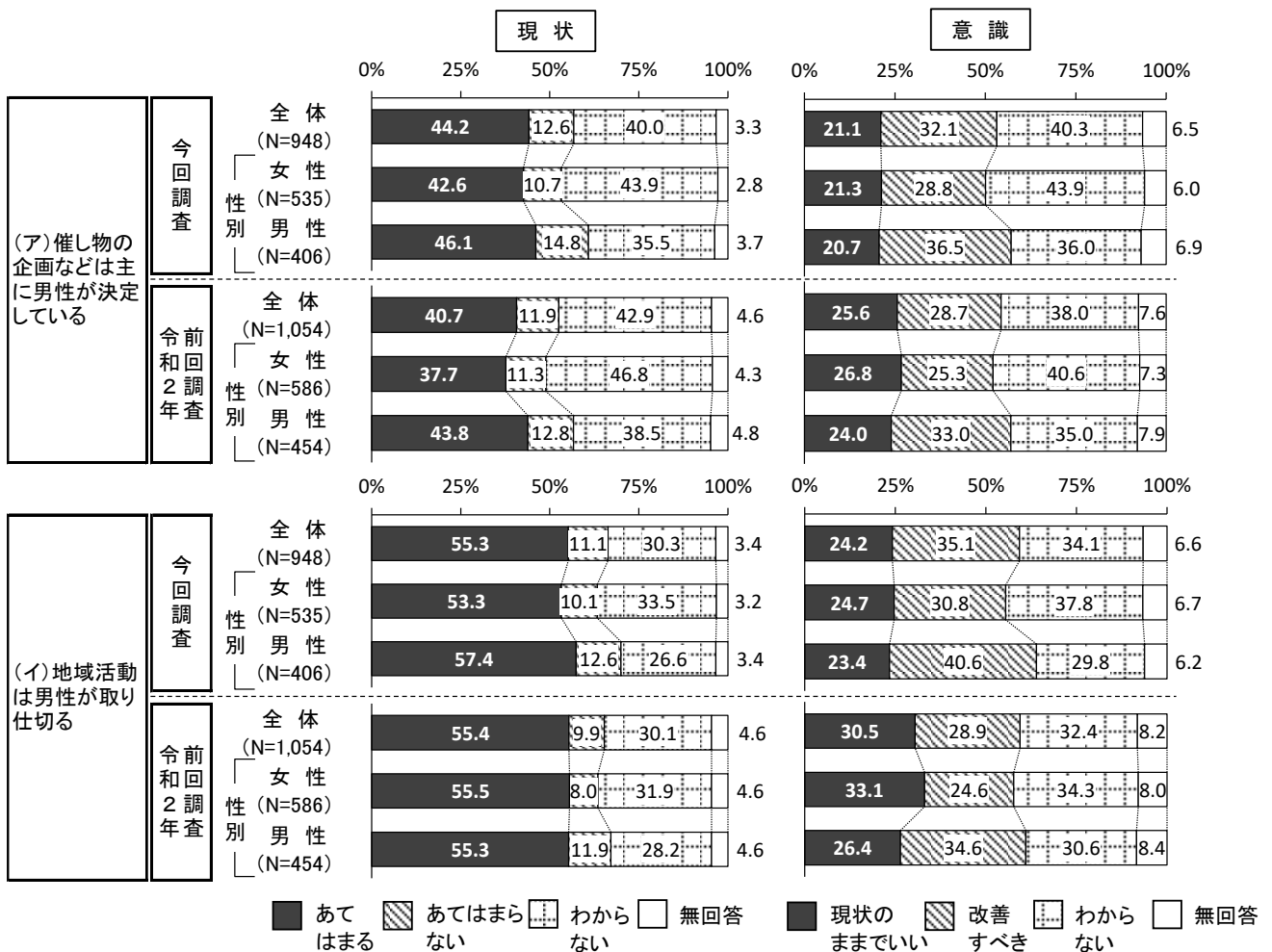
### 1. 地域活動での男女の役割分担

- 地域活動の現状は「地域活動は男性が取り仕切る」「地域の役員はほとんど男性になっている」などで5割台半ばが「そうしている」と回答。
- 地域活動で男女の役割分担がある場合、「改善すべき」との回答が最も多い。

問 13. 地域活動での男女の役割分担についておうかがいします。

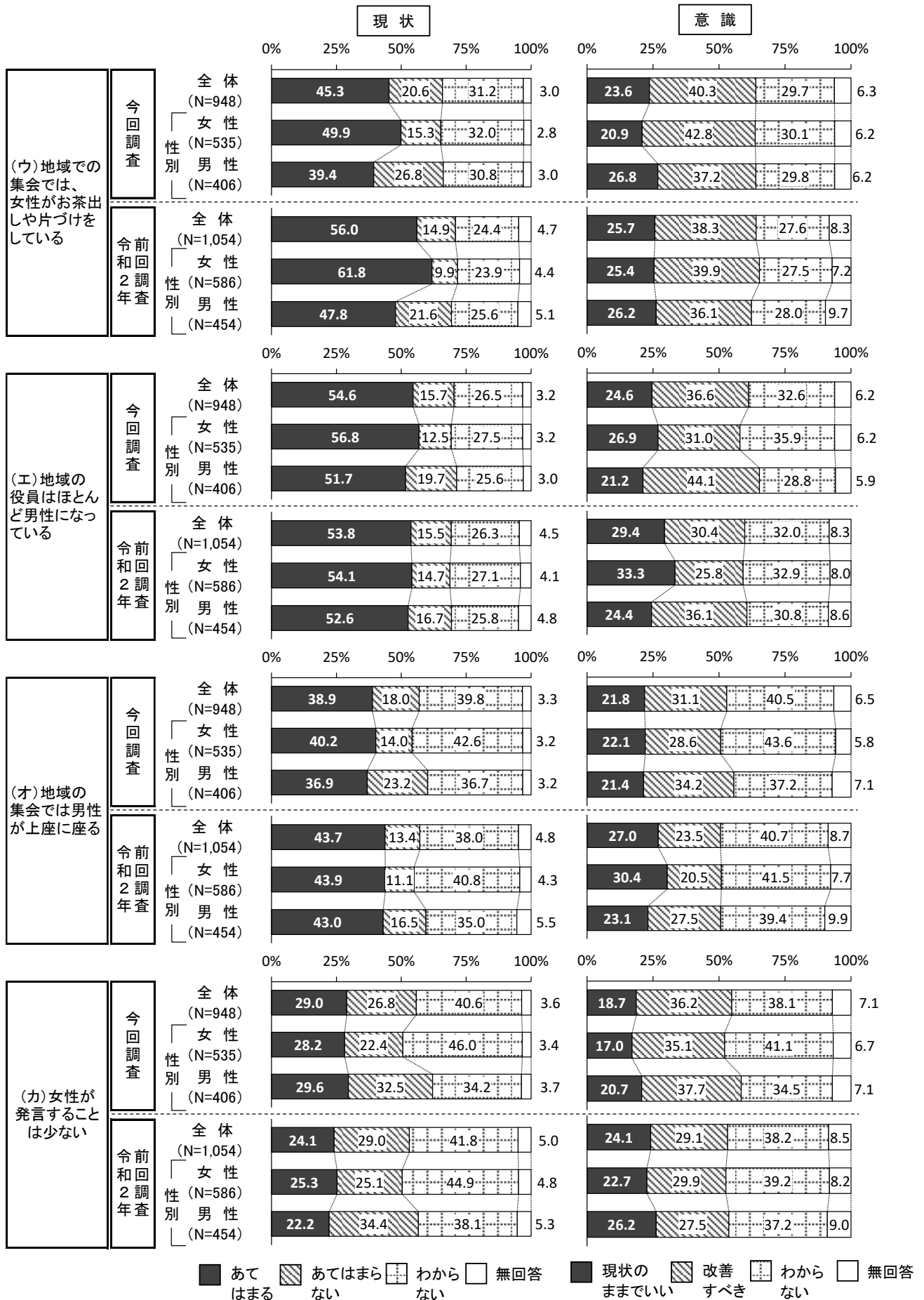
- (1) 現状：あなたが参加している地域活動の現状について (ア) から (ク) のそれぞれにあてはまるものを選んでください。(○印は1つずつ)
- (2) 意識：では、今後はどうすべきだと思いますか。(ア) から (ク) のそれぞれにあてはまるものを選んでください。(○印は1つずつ)

図表 4-1 (1) 地域活動での男女の役割分担 [全体、性別] (前回調査比較)

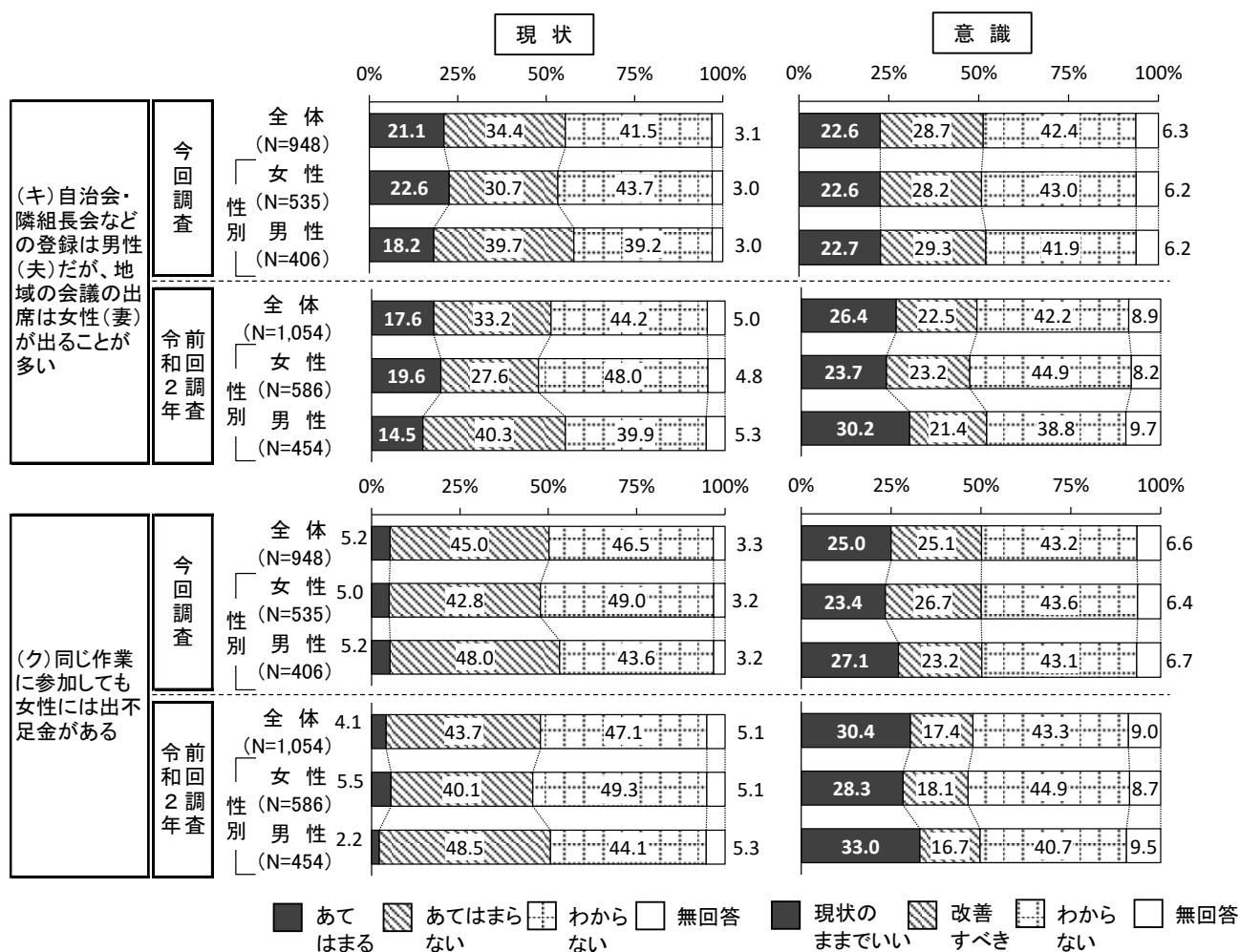


II 調査結果の分析

図表4-1(2) 地域活動での男女の役割分担〔全体、性別〕(前回調査比較)



図表4-1(3) 地域活動での男女の役割分担〔全体、性別〕(前回調査比較)



地域活動での男女の役割分担の状況について現状と意識をたずねた。現状で「あてはまる」の割合が高かったものは、「地域活動は男性が取り仕切る」(55.3%)、「地域の役員はほとんど男性になっている」(54.6%)で5割台半ば、「地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」(45.3%)、「催し物の企画などは主に男性が決定している」(44.2%)で4割台半ば、「地域の集会では男性が上座に座る」(38.9%)が約4割と高い。

性別にみると、「地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」は女性の「あてはまる」が49.9%と男性(39.4%)を10.5ポイント上回っている。また「地域の役員はほとんど男性になっている」(女性56.8%、男性51.7%)、「地域の集会では男性が上座に座る」(同40.2%、36.9%)、「自治会・隣組長会などの登録は男性(夫)だが、地域の会議の出席は女性(妻)が出ることが多い」(同22.6%、18.2%)などの「あてはまる」の割合が男性よりも3.3~5.1ポイント高い。反対に男性は「催し物の企画などは主に男性が決定している」(同42.6%、46.1%)、「地域活動は男性が取り仕切る」(同53.3%、57.4%)などが3.5~4.1ポイント上回っている。

前回調査と比べると、「地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」と「地域の集会では男性が上座に座る」の「あてはまる」(前回調査は「そうしている」)の割合は前回調査よりも減少している。その他項目は「あてはまる」の割合が同程度かやや高くなっている。

II 調査結果の分析

年齢別にみると、各分野とも年齢の低い層では「わからない」の割合が高い。「あてはまる」の割合が高い年代は、女性では50代以上、男性では40代以上で、実際に地域活動を行っていると思われる年代では、「あてはまる」の割合が高い。

居住地域別にみると、朝倉地域で「地域活動は男性が取り仕切る」「地域の役員はほとんど男になっている」は「あてはまる」が6割台、「女性が発言することは少ない」は37.8%と他の地域に比べて高くなっている。

図表4-2 地域活動での男女の役割分担の現状 [全体、年齢別、居住地域別]

(%)

	標本数	【現状】(ア)催し物の企画などは主に男性が決定している				【現状】(イ)地域活動は男性が取り仕切る				【現状】(ウ)地域での集会で、女性がお茶出しや片づけをしている				【現状】(エ)地域の役員はほとんど男性になっている				
		あてはまる	なあてはまら	わからない	無回答	あてはまる	なあてはまら	わからない	無回答	あてはまる	なあてはまら	わからない	無回答	あてはまる	なあてはまら	わからない	無回答	
全体	948 100.0	419	119	379	31	524	105	287	32	429	195	296	28	518	149	251	30	
年齢別	女性:18~29歳	69	34.8	7.2	56.5	1.4	36.2	11.6	50.7	1.4	53.6	4.3	40.6	1.4	40.6	5.8	52.2	1.4
	女性:30~39歳	86	33.7	7.0	58.1	1.2	38.4	9.3	51.2	1.2	32.6	17.4	48.8	1.2	43.0	11.6	43.0	2.3
	女性:40~49歳	108	30.6	13.0	52.8	3.7	50.9	11.1	33.3	4.6	58.3	10.2	26.9	4.6	54.6	12.0	28.7	4.6
	女性:50~59歳	125	46.4	9.6	40.8	3.2	60.0	9.6	27.2	3.2	54.4	13.6	29.6	2.4	64.8	14.4	18.4	2.4
	女性:60~69歳	65	58.5	13.8	27.7	-	63.1	12.3	24.6	-	41.5	27.7	30.8	-	69.2	16.9	13.8	-
	女性:70歳以上	81	56.8	13.6	23.5	6.2	69.1	7.4	16.0	7.4	54.3	22.2	17.3	6.2	66.7	13.6	12.3	7.4
	男性:18~29歳	45	35.6	13.3	46.7	4.4	46.7	11.1	37.8	4.4	46.7	8.9	40.0	4.4	42.2	11.1	42.2	4.4
	男性:30~39歳	67	34.3	13.4	52.2	-	47.8	10.4	41.8	-	34.3	11.9	53.7	-	40.3	14.9	44.8	-
	男性:40~49歳	70	48.6	14.3	34.3	2.9	58.6	12.9	27.1	1.4	38.6	24.3	35.7	1.4	50.0	24.3	24.3	1.4
	男性:50~59歳	89	49.4	13.5	36.0	1.1	65.2	6.7	27.0	1.1	46.1	24.7	28.1	1.1	57.3	14.6	27.0	1.1
男性:60~69歳	53	49.1	15.1	28.3	7.5	50.9	20.8	20.8	7.5	28.3	41.5	22.6	7.5	47.2	26.4	18.9	7.5	
男性:70歳以上	81	54.3	18.5	19.8	7.4	65.4	16.0	11.1	7.4	39.5	44.4	11.1	4.9	64.2	25.9	4.9	4.9	
無回答	9	44.4	22.2	22.2	11.1	77.8	-	11.1	11.1	33.3	44.4	11.1	11.1	55.6	22.2	11.1	11.1	
居住地	甘木地域	603	42.6	13.6	40.5	3.3	53.2	11.6	31.8	3.3	43.9	20.1	32.8	3.2	51.9	17.1	27.7	3.3
	朝倉地域	238	49.6	9.7	37.4	3.4	61.8	8.4	26.1	3.8	49.6	20.6	27.3	2.5	63.0	12.2	22.3	2.5
	杷木地域	102	41.2	13.7	44.1	1.0	52.9	14.7	31.4	1.0	44.1	23.5	31.4	1.0	52.0	16.7	29.4	2.0
	無回答	5	40.0	-	20.0	40.0	40.0	-	20.0	40.0	20.0	20.0	40.0	40.0	40.0	-	20.0	40.0
	標本数	【現状】(オ)地域の集会では男性が上座に座る				【現状】(カ)女性が発言することは少ない				【現状】(キ)自治会・隣組長会などの登録は男性(夫)だが、地域の会議の出席は女性(妻)が出ることが多い				【現状】(ク)同じ作業に参加しても女性には出不足金がある				
		あてはまる	なあてはまら	わからない	無回答	あてはまる	なあてはまら	わからない	無回答	あてはまる	なあてはまら	わからない	無回答	あてはまる	なあてはまら	わからない	無回答	
全体	948 100.0	369	171	377	31	275	254	385	34	200	326	393	29	49	427	441	31	
年齢別	女性:18~29歳	69	33.3	7.2	58.0	1.4	27.5	11.6	59.4	1.4	20.3	17.4	60.9	1.4	10.1	17.4	71.0	1.4
	女性:30~39歳	86	24.4	10.5	64.0	1.2	19.8	16.3	62.8	1.2	20.9	18.6	59.3	1.2	7.0	24.4	67.4	1.2
	女性:40~49歳	108	33.3	13.9	48.1	4.6	24.1	26.9	44.4	4.6	24.1	23.1	48.1	4.6	2.8	37.0	55.6	4.6
	女性:50~59歳	125	48.0	12.8	36.0	3.2	31.2	24.8	41.6	2.4	20.8	36.8	40.0	2.4	2.4	56.0	39.2	2.4
	女性:60~69歳	65	52.3	16.9	30.8	-	30.8	29.2	40.0	-	16.9	49.2	33.8	-	6.2	61.5	32.3	-
	女性:70歳以上	81	50.6	23.5	18.5	7.4	37.0	23.5	29.6	9.9	32.1	40.7	19.8	7.4	4.9	56.8	29.6	8.6
	男性:18~29歳	45	28.9	11.1	55.6	4.4	22.2	15.6	57.8	4.4	15.6	15.6	64.4	4.4	11.1	20.0	64.4	4.4
	男性:30~39歳	67	19.4	19.4	61.2	-	19.4	22.4	58.2	-	17.9	20.9	61.2	-	1.5	35.8	62.7	-
	男性:40~49歳	70	35.7	20.0	42.9	1.4	21.4	42.9	34.3	1.4	8.6	48.6	41.4	1.4	5.7	42.9	50.0	1.4
	男性:50~59歳	89	41.6	19.1	38.2	1.1	30.3	38.2	30.3	1.1	21.3	39.3	38.2	1.1	3.4	51.7	43.8	1.1
男性:60~69歳	53	37.7	32.1	22.6	7.5	24.5	39.6	26.4	9.4	15.1	50.9	26.4	7.5	1.9	62.3	28.3	7.5	
男性:70歳以上	81	51.9	33.3	8.6	6.2	51.9	29.6	11.1	7.4	27.2	53.1	14.8	4.9	8.6	64.2	21.0	6.2	
無回答	9	44.4	33.3	11.1	11.1	44.4	33.3	11.1	11.1	55.6	22.2	11.1	11.1	11.1	44.4	33.3	11.1	
居住地	甘木地域	603	36.3	18.1	42.3	3.3	25.5	28.2	42.5	3.8	21.7	31.0	43.8	3.5	4.5	45.9	45.9	3.6
	朝倉地域	238	45.0	18.1	34.0	2.9	37.8	22.7	36.6	2.9	21.4	39.9	36.1	2.5	5.9	41.6	50.0	2.5
	杷木地域	102	40.2	18.6	39.2	2.0	28.4	29.4	40.2	2.0	16.7	42.2	41.2	-	6.9	49.0	43.1	1.0
	無回答	5	40.0	-	20.0	40.0	40.0	-	20.0	40.0	20.0	20.0	40.0	40.0	20.0	20.0	20.0	40.0

各分野の意識を現状別にみると、すべての分野で「あてはまる」場合、「改善すべき」の割合が最も高くなっている。特に「女性が発言することは少ない」は72.0%と最も高くなっている。

図表4-3 地域活動での男女の役割分担の意識 [全体、現状別]

(%)

		標本数	【意識】(ア)催し物の企画などは主に男性が決定している						標本数	【意識】(イ)地域活動は男性が取り仕切る			
			ま現 で状 いの いま	き改 善 す べ	いわ から な	無 回 答				ま現 で状 いの いま	き改 善 す べ	いわ から な	無 回 答
全体		948 100.0	200 21.1	304 32.1	382 40.3	62 6.5	全体		948 100.0	229 24.2	333 35.1	323 34.1	63 6.6
【現状】 (ア)催し物の 企画などは主 に男性が決定 している	あてはまる	419	28.6	48.7	18.1	4.5	【現状】 (イ)地域活動 は男性が取り 仕切る	あてはまる	524	33.0	46.4	16.6	4.0
	あてはまらない	119	50.4	27.7	18.5	3.4		あてはまらない	105	41.0	41.0	15.2	2.9
	わからない	379	5.3	17.7	74.7	2.4		わからない	287	4.2	16.0	76.3	3.5
	無回答	31	-	-	3.2	96.8		無回答	32	3.1	3.1	3.1	90.6
		標本数	【意識】(ウ)地域での集會では、女性がお茶出しや片づけをしている						標本数	【意識】(エ)地域の役員はほとんど男性になっている			
			ま現 で状 いの いま	き改 善 す べ	いわ から な	無 回 答				ま現 で状 いの いま	き改 善 す べ	いわ から な	無 回 答
全体		948 100.0	224 23.6	382 40.3	282 29.7	60 6.3	全体		948 100.0	233 24.6	347 36.6	309 32.6	59 6.2
【現状】 (ウ)地域での 集會では、女 性がお茶出し や片づけをし ている	あてはまる	429	21.2	63.4	11.7	3.7	【現状】 (エ)地域の役 員はほとんど 男性になって いる	あてはまる	518	29.2	49.4	18.0	3.5
	あてはまらない	195	61.0	22.6	10.8	5.6		あてはまらない	149	50.3	32.2	12.8	4.7
	わからない	296	4.4	22.0	71.3	2.4		わからない	251	2.0	16.7	78.5	2.8
	無回答	28	3.6	3.6	-	92.9		無回答	30	6.7	3.3	-	90.0
		標本数	【意識】(オ)地域の集會では男性が上座に座る						標本数	【意識】(カ)女性が発言することは少ない			
			ま現 で状 いの いま	き改 善 す べ	いわ から な	無 回 答				ま現 で状 いの いま	き改 善 す べ	いわ から な	無 回 答
全体		948 100.0	207 21.8	295 31.1	384 40.5	62 6.5	全体		948 100.0	177 18.7	343 36.2	361 38.1	67 7.1
【現状】 (オ)地域の集 會では男性が 上座に座る	あてはまる	369	27.6	50.4	17.6	4.3	【現状】 (カ)女性が発 言することは 少ない	あてはまる	275	9.1	72.0	13.1	5.8
	あてはまらない	171	53.2	26.9	13.5	6.4		あてはまらない	254	54.7	26.4	14.6	4.3
	わからない	377	2.9	16.4	78.5	2.1		わからない	385	3.1	19.7	74.5	2.6
	無回答	31	9.7	3.2	-	87.1		無回答	34	2.9	5.9	2.9	88.2
		標本数	【意識】(キ)自治会・隣組長会などの登録は男性(夫)だが、地域の会議の出席は女性(妻)が出ることが多い						標本数	【意識】(ク)同じ作業に参加しても女性には出不足金がある			
			ま現 で状 いの いま	き改 善 す べ	いわ から な	無 回 答				ま現 で状 いの いま	き改 善 す べ	いわ から な	無 回 答
全体		948 100.0	214 22.6	272 28.7	402 42.4	60 6.3	全体		948 100.0	237 25.0	238 25.1	410 43.2	63 6.6
【現状】 (キ)自治会・隣 組長会などの 登録は男性(夫) だが、地域の 会議の出席は 女性(妻)が出 ることが多い	あてはまる	200	21.0	54.0	17.5	7.5	【現状】 (ク)同じ作業 に参加しても 女性には出不 足金がある	あてはまる	49	26.5	55.1	8.2	10.2
	あてはまらない	326	49.4	31.9	16.3	2.5		あてはまらない	427	51.5	30.4	13.8	4.2
	わからない	393	2.5	15.3	79.6	2.5		わからない	441	0.9	18.1	78.7	2.3
	無回答	29	3.4	-	3.4	93.1		無回答	31	-	3.2	-	96.8

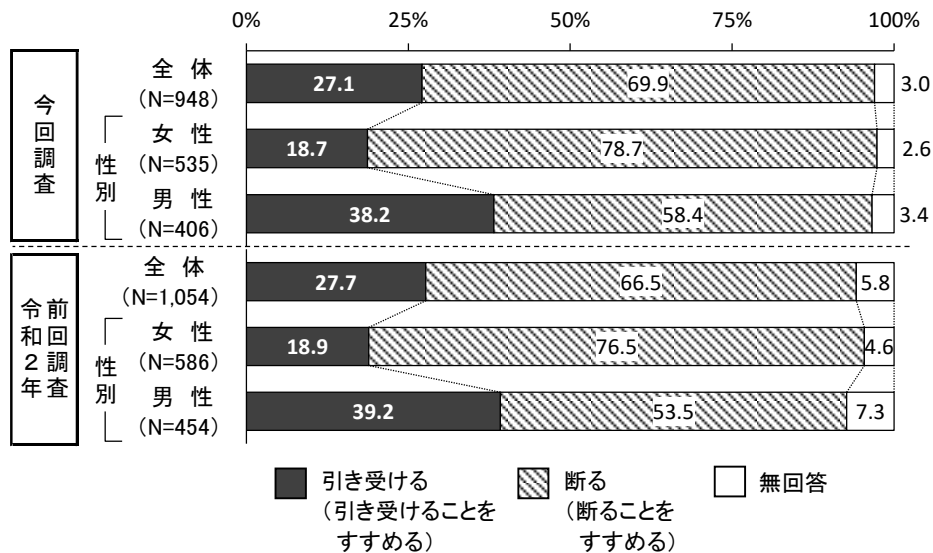
2. 女性が地域の役職につくことについて

(1) 女性が地域の役職に推薦された場合の対処

●女性が地域の役職につくことについて、女性の「断る」は約8割で男性（約6割）よりも地域の役職につくことに抵抗感が強い。

問 14. 区会長やPTA会長などの地域の役職についてうかがいます。女性の方は、もし、あなた自身が推薦されたら引き受けますか。男性の方は、妻など身近な女性が推薦されたとしたら引き受けることをすすめますか。(○印は1つ)

図表 4-4 女性が地域の役職に推薦された場合の対処 [全体、性別] (前回調査比較)



女性が区会長やPTA会長などの地域の役職につくことについて、女性には実際に引き受けるかどうかを、男性には身近な女性が推薦された場合に引き受けることをすすめるかをたずねた。

「断る (断ることをすすめる)」が 69.9%、反対に「引き受ける (引き受けることをすすめる)」は 27.1%で「断る (断ることをすすめる)」が圧倒的に高い。

性別にみると、「断る (断ることをすすめる)」は女性で 78.7%と男性の 58.4%を 20.3 ポイント上回り、女性は地域の役職につくことについての抵抗感が強いようである。

前回調査と比べると、男女ともあまり大きな変化はみられないが、男女とも「断る (断ることをすすめる)」がやや増えている。

年齢別にみると、女性の「引き受ける」は18～29歳で27.5%、60代で27.7%と女性の中では比較的高い。男性はいずれの年代も「引き受けることをすすめる」が約3割から5割である。一方、女性の30代から50代、70歳以上では「断る」が約8割から8割台半ばと高い。

共働き別にみると、女性は共働きで「引き受ける」は19.9%と片働き（11.9%）を8.0ポイント上回っている。

図表4-5 女性が地域の役職に推薦された場合の対処 [全体、年齢別、共働き別]

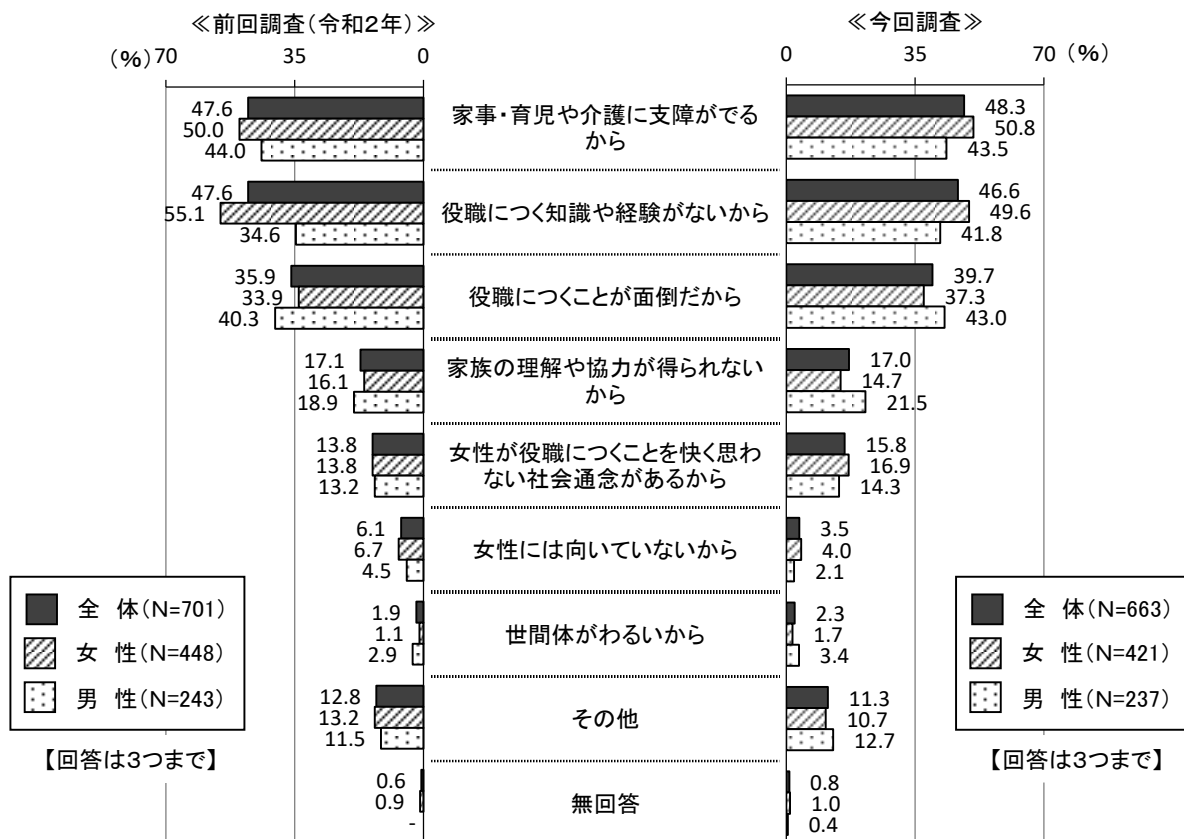
			(%)		
		標本数	こ（引 ）と（き ）を（受 ）を（け ）す（る ）す（め ）る（こ ）す（と ）を	す（断 ）す（る ）こ（と ）を	無 回 答
全 体		948 100.0	257 27.1	663 69.9	28 3.0
年 齢 別	女性:18～29歳	69	27.5	71.0	1.4
	女性:30～39歳	86	14.0	84.9	1.2
	女性:40～49歳	108	15.7	79.6	4.6
	女性:50～59歳	125	15.2	83.2	1.6
	女性:60～69歳	65	27.7	67.7	4.6
	女性:70歳以上	81	18.5	79.0	2.5
	男性:18～29歳	45	44.4	53.3	2.2
	男性:30～39歳	67	35.8	59.7	4.5
	男性:40～49歳	70	41.4	57.1	1.4
	男性:50～59歳	89	28.1	68.5	3.4
	男性:60～69歳	53	32.1	60.4	7.5
	男性:70歳以上	81	49.4	48.1	2.5
	無回答	9	22.2	77.8	-
共 働 き 別	女性:共働き	201	19.9	79.1	1.0
	女性:片働き	67	11.9	85.1	3.0
	女性:その他	23	21.7	78.3	-
	女性:二人とも働いていない	32	21.9	68.8	9.4
	男性:共働き	130	37.7	60.8	1.5
	男性:片働き	56	39.3	57.1	3.6
	男性:その他	15	53.3	46.7	-
	男性:二人とも働いていない	33	45.5	51.5	3.0
無回答	391	26.3	69.6	4.1	

(2) 地域の役職を断る理由

●地域の役職を断る、断ることをすすめる理由は、「家事・育児や介護に支障がでるから」「役職につく知識や経験がないから」「役職につくことが面倒だから」が上位となっている。

問 14 付問 1. [問 14 で 2. 「断る(断ることをすすめる)」と答えた方に]  
その理由は何ですか。(〇印は3つまで)

図表 4-6 地域の役職を断る理由 [全体、性別] (前回調査比較)



「断る(断ることをすすめる)」と答えた 663 人にその理由をたずねた。「家事・育児や介護に支障がでるから」が 48.3%、「役職につく知識や経験がないから」が 46.6%、「役職につくことが面倒だから」が 39.7%で上位にあげられている。

性別にみると、女性は「家事・育児や介護に支障がでるから」(女性 50.8%、男性 43.5%)と「役職につく知識や経験がないから」(同 49.6%、41.8%)が約5割で男性を7.3~7.8ポイント上回っている。男性は「役職につくことが面倒だから」(同 37.3%、43.0%)が5.7ポイント「家族の理解や協力が得られないから」(同 14.7%、21.5%)が6.8ポイント女性を上回っている。

前回調査と比べると、「役職につく知識や経験がないから」は、女性は5.5ポイント減り、男性は7.2ポイント増えている。男女とも「役職につくことが面倒だから」はやや増えている。

年齢別にみると、「役職につく知識や経験がないから」は女性の60代と70歳以上で6割台、50代と男性の60代、70歳以上で5割台と年齢の高い層での割合が高い。その他、「女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから」も男女とも年齢が高い層で割合が高い。「家事・育児や介護に支障がでるから」は女性の30代で69.9%と最も高く、18～29歳と40代、50代でも約5割となっている。また、男性の18～29歳で58.3%、40代でも57.5%と高く、男女とも年齢の低い層での割合が高い傾向がみられる。「役職につくことが面倒だから」も女性の18～29歳で55.1%、男性の18～29歳と40代で約5割と年齢の低い層で割合が高い。

共働き別にみると、男女の共働きは「家事・育児や介護に支障がでるから」が約5割から6割と片働きに比べて13.6～21.9ポイント高い。男女とも片働きでは「役職につく知識や経験がないから」が約5割で共働きに比べて3.5～13.3ポイント高い。

図表4-7 地域の役職を断る理由〔全体、年齢別、共働き別〕

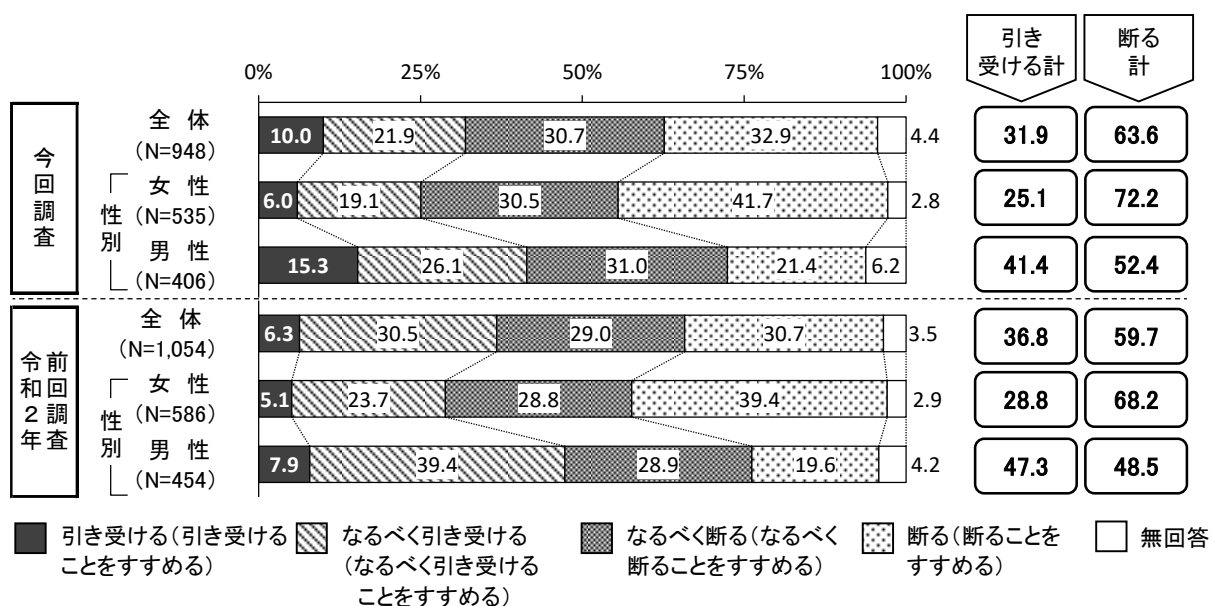
		標本数	得られたいから	家族の理解や協力が	会と通念がわな	女性を快く思わな	支障がでるから	家事・育児や介護に	役職につく知識や経験	面倒だから	女性には向いていな	世間体が変わるから	その他	無回答
全体		663	113	105	320	309	263	23	15	75	5			
		100.0	17.0	15.8	48.3	46.6	39.7	3.5	2.3	11.3	0.8			
年齢別	女性:18～29歳	49	8.2	18.4	53.1	44.9	55.1	2.0	6.1	10.2	-			
	女性:30～39歳	73	13.7	12.3	69.9	39.7	38.4	5.5	2.7	8.2	1.4			
	女性:40～49歳	86	17.4	10.5	52.3	39.5	41.9	2.3	1.2	15.1	-			
	女性:50～59歳	104	14.4	16.3	51.0	51.9	35.6	4.8	1.0	9.6	-			
	女性:60～69歳	44	13.6	20.5	38.6	68.2	31.8	6.8	-	6.8	6.8			
	女性:70歳以上	64	18.8	28.1	34.4	60.9	23.4	3.1	-	12.5	-			
	男性:18～29歳	24	29.2	8.3	58.3	29.2	50.0	4.2	-	8.3	-			
	男性:30～39歳	40	10.0	7.5	42.5	37.5	45.0	5.0	2.5	10.0	-			
	男性:40～49歳	40	25.0	7.5	57.5	37.5	52.5	-	2.5	10.0	2.5			
	男性:50～59歳	61	26.2	13.1	36.1	42.6	44.3	1.6	6.6	14.8	-			
	男性:60～69歳	32	25.0	21.9	40.6	50.0	37.5	-	3.1	12.5	-			
	男性:70歳以上	39	15.4	28.2	35.9	51.3	30.8	2.6	2.6	15.4	-			
	無回答	7	-	-	42.9	28.6	57.1	14.3	-	14.3	-			
共働き別	女性:共働き	159	15.1	13.2	61.0	49.1	34.6	5.0	-	8.8	0.6			
	女性:片働き	57	12.3	19.3	47.4	52.6	31.6	3.5	3.5	7.0	1.8			
	女性:その他	18	11.1	16.7	38.9	61.1	27.8	11.1	-	16.7	-			
	女性:二人とも働いていない	22	31.8	31.8	27.3	59.1	31.8	-	-	9.1	-			
	男性:共働き	79	21.5	11.4	53.2	36.7	45.6	1.3	2.5	11.4	-			
	男性:片働き	32	15.6	15.6	31.3	50.0	46.9	-	-	12.5	-			
	男性:その他	7	14.3	14.3	28.6	42.9	28.6	-	14.3	14.3	-			
	男性:二人とも働いていない	17	23.5	35.3	41.2	64.7	23.5	-	-	11.8	-			
無回答	272	16.9	15.4	44.9	43.4	44.5	3.7	3.7	13.2	1.1				

3. 女性が市の審議会や委員会の委員に就任を依頼された場合の対処

- 女性が市の審議会や委員会の委員に就任することについて、女性の『断る』は約7割と男性（約5割）よりも抵抗感は強い。
- 地域の区会長やPTA会長などに比べると、男女とも抵抗感はやや低い。

問 15. 女性の方はあなた自身が、男性の方は妻などの身近な女性が、「市の審議会や委員会の委員」への就任を依頼されたらどうしますか。（○印は1つ）

図表 4-8 女性が市の審議会や委員会の委員に就任を依頼された場合の対処  
[全体、性別]（前回調査比較）



女性が市の審議会や委員に就任することについて、女性には実際に引き受けるかどうかを、男性には身近な女性が推薦された場合に引き受けることをすすめるかどうかをたずねた。

「引き受ける（引き受けることをすすめる）」（10.0%）と「なるべく引き受ける（なるべく引き受けることをすすめる）」（21.9%）を合計した『引き受ける（ことをすすめる）』は 31.9%、一方、「断る（断ることをすすめる）」（32.9%）と「なるべく断る（なるべく断ることをすすめる）」（30.7%）を合計した『断る（ことをすすめる）』は 63.6%である。

性別にみると、女性の場合『引き受ける』が 25.1%で『断る』が 72.2%、男性の場合は『引き受けることをすすめる』が 41.4%で『断ることをすすめる』が 52.4%となっている。女性よりも男性の方が、引き受けることを受け入れる傾向がみられる。

地域の区会長やPTA会長などの役職につくことへの設問は2択であるため正確な比較はできないが、女性は『引き受ける』は 6.4ポイント、また男性は 3.2ポイント増えており、抵抗感はやや低くなっている。

年齢別にみると、女性の18～29歳と60代で『引き受ける』が3割台と高い。男性は40代と70歳以上で『引き受けることをすすめる』が4割台と高い。

共働き別にみると、女性は共働き、片働きに関わらず『引き受ける』『断る』の割合に変化はみられない。男性は共働きで『引き受けることをすすめる』が50.0%と片働き(37.5%)を12.5ポイント上回っている。

図表4-9 女性が市の審議会や委員会の委員に就任を依頼された場合の対処  
[全体、年齢別、共働き別]

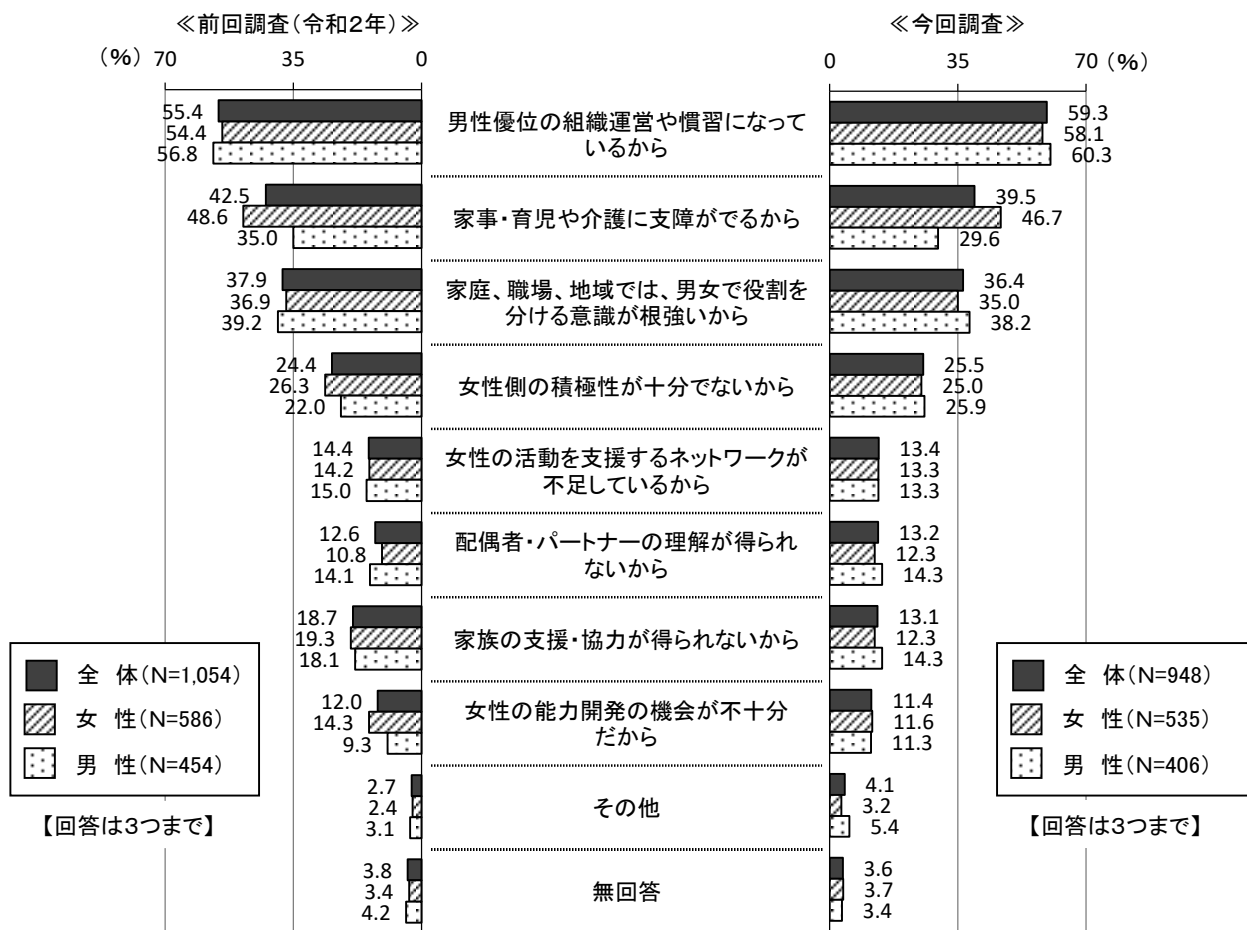
		標本数	引き受けること(引き受)	引き受けることをすすめる(引き受)	なるべく引き受ける(なるべく)	なるべく断る(なるべく)	断る(断る)	無回答	引き受ける計	断る計
全体		948	95	208	291	312	42	303	603	
		100.0	10.0	21.9	30.7	32.9	4.4	31.9	63.6	
年齢別	女性:18～29歳	69	15.9	15.9	29.0	39.1	-	31.8	68.1	
	女性:30～39歳	86	7.0	15.1	38.4	37.2	2.3	22.1	75.6	
	女性:40～49歳	108	3.7	15.7	28.7	48.1	3.7	19.4	76.8	
	女性:50～59歳	125	4.8	20.8	34.4	37.6	2.4	25.6	72.0	
	女性:60～69歳	65	6.2	30.8	20.0	36.9	6.2	37.0	56.9	
	女性:70歳以上	81	1.2	18.5	28.4	49.4	2.5	19.7	77.8	
	男性:18～29歳	45	20.0	17.8	28.9	24.4	8.9	37.8	53.3	
	男性:30～39歳	67	19.4	19.4	26.9	25.4	9.0	38.8	52.3	
	男性:40～49歳	70	17.1	30.0	24.3	25.7	2.9	47.1	50.0	
	男性:50～59歳	89	13.5	21.3	34.8	23.6	6.7	34.8	58.4	
	男性:60～69歳	53	15.1	24.5	41.5	13.2	5.7	39.6	54.7	
男性:70歳以上	81	9.9	39.5	30.9	14.8	4.9	49.4	45.7		
無回答		9	11.1	-	22.2	44.4	22.2	11.1	66.6	
共働き別	女性:共働き	201	6.5	19.4	31.8	40.3	2.0	25.9	72.1	
	女性:片働き	67	4.5	20.9	31.3	38.8	4.5	25.4	70.1	
	女性:その他	23	4.3	13.0	21.7	60.9	-	17.3	82.6	
	女性:二人とも働いていない	32	-	37.5	25.0	34.4	3.1	37.5	59.4	
	男性:共働き	130	18.5	31.5	26.9	20.8	2.3	50.0	47.7	
	男性:片働き	56	10.7	26.8	37.5	23.2	1.8	37.5	60.7	
	男性:その他	15	13.3	53.3	13.3	13.3	6.7	66.6	26.6	
	男性:二人とも働いていない	33	9.1	27.3	39.4	24.2	-	36.4	63.6	
	無回答		391	11.0	17.1	31.2	33.2	7.4	28.1	64.4

4. 政策・方針決定の過程に女性が少ない理由

●政策・方針決定の過程に女性が進出していない理由は、「男性優位の組織運営や慣習になっているから」が男女とも第1位。次いで、女性は「家事・育児や介護に支障がでるから」、男性は「家庭、職場、地域では、男女で役割を分ける意識が根強いから」となっている。

問 16. 政治、行政、企業、地域活動などにおいて政策・方針決定の過程に女性が少ない理由は何だと思いますか。(〇印は3つまで)

図表 4-10 政策・方針決定の過程に女性が少ない理由 [全体、性別] (前回調査比較)



政治、行政、企業、地域活動などにおいて政策・方針決定の過程に女性が進出していない理由は、「男性優位の組織運営や慣習になっているから」が 59.3%と最も高く、次いで「家事・育児や介護に支障がでるから」が 39.5%、「家庭、職場、地域では、男女で役割を分ける意識が根強いから」が 36.4%、「女性側の積極性が十分でないから」が 25.5%などとなっている。

性別にみると、「家事・育児や介護に支障がでるから」(女性 46.7%、男性 29.6%)は女性の方が男性よりも 17.1 ポイント高い。その他項目は男女で大きな差はみられない。

前回調査と比べると、「男性優位の組織運営や慣習になっているから」は男女とも 3.5~3.7 ポイント増え、「女性側の積極性が十分でないから」は男性で 3.9 ポイント増えている。「家族の支援・協力が得られないから」は男女とも 3.8~7.0 ポイント減り、「家事・育児や介護に支障がでるから」は男性で 5.4 ポイント減っている。

年齢別にみると、「家事・育児や介護に支障がでるから」は女性の30代と40代で5割台と高く、また50代で48.0%、18～29歳で47.8%と約5割となっている。また、「男性優位の組織運営や慣習になっているから」は女性の18～29歳と70歳以上、男性の40代と50代、70歳以上で6割台と高い。「女性側の積極性が十分でないから」は女性の60歳以上、男性の18～29歳と60代で約3割、「家庭、職場、地域では、男女で役割を分ける意識が根強いから」は女性の18～29歳、男性の40代から60代で4割台と他の年代に比べて割合が高い。

共働き別にみると、女性の共働きでは「家事・育児や介護に支障がでるから」が55.2%と片働き(49.3%)より5.9ポイント高く、「男性優位の組織運営や慣習になっているから」は女性の片働きで61.2%と共働き(51.7%)に比べて9.5ポイント高い。男性の共働きは「女性側の積極性が十分でないから」が31.5%と片働き(17.9%)に比べて13.6ポイント高い。

図表4-11 政策・方針決定の過程に女性が少ない理由

[全体、年齢別、共働き別]

(%)

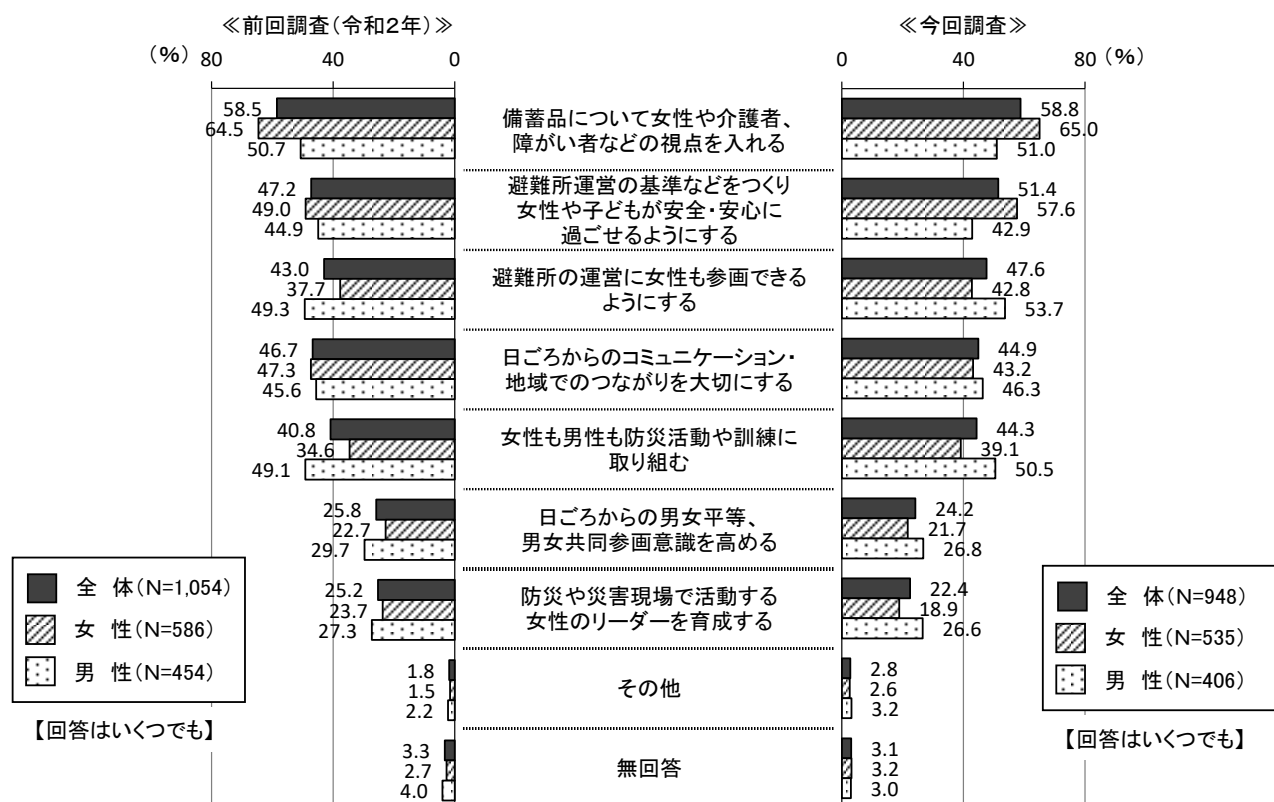
	標本数	慣男性優位になっている組織運営や	意識が根強いから	家庭、職場、地域で	配偶者が得られないから	家族の支援助力	障がでるから	女性側の能力開発の機会	ネットの活動が不足する	女性側の積極性が十分	その他	無回答
全体	948 100.0	562 59.3	345 36.4	125 13.2	124 13.1	374 39.5	108 11.4	127 13.4	242 25.5	39 4.1	34 3.6	
年齢別	女性:18～29歳	69	69.6	40.6	11.6	11.6	47.8	17.4	11.6	14.5	2.9	-
	女性:30～39歳	86	55.8	27.9	8.1	9.3	53.5	9.3	14.0	19.8	3.5	3.5
	女性:40～49歳	108	49.1	35.2	13.0	13.9	52.8	7.4	12.0	25.9	3.7	3.7
	女性:50～59歳	125	56.8	32.0	9.6	14.4	48.0	7.2	13.6	27.2	4.8	3.2
	女性:60～69歳	65	58.5	36.9	20.0	21.5	36.9	21.5	13.8	30.8	1.5	6.2
	女性:70歳以上	81	64.2	39.5	14.8	3.7	35.8	13.6	14.8	30.9	1.2	6.2
	男性:18～29歳	45	44.4	24.4	17.8	13.3	28.9	11.1	20.0	28.9	8.9	2.2
	男性:30～39歳	67	55.2	31.3	16.4	11.9	32.8	10.4	10.4	23.9	6.0	4.5
	男性:40～49歳	70	67.1	42.9	14.3	15.7	27.1	8.6	7.1	24.3	5.7	2.9
	男性:50～59歳	89	62.9	43.8	10.1	18.0	28.1	9.0	7.9	27.0	3.4	3.4
男性:60～69歳	53	52.8	45.3	17.0	13.2	32.1	9.4	17.0	28.3	7.5	3.8	
男性:70歳以上	81	69.1	37.0	13.6	12.3	29.6	18.5	21.0	24.7	3.7	3.7	
無回答	9	88.9	44.4	11.1	-	55.6	-	22.2	33.3	-	-	
共働き別	女性:共働き	201	51.7	34.8	11.4	12.9	55.2	7.0	9.0	25.9	2.5	2.5
	女性:片働き	67	61.2	37.3	11.9	14.9	49.3	13.4	17.9	26.9	-	4.5
	女性:その他	23	73.9	26.1	17.4	21.7	43.5	13.0	8.7	21.7	4.3	-
	女性:二人とも働いていない	32	68.8	31.3	28.1	9.4	31.3	21.9	15.6	28.1	-	6.3
	男性:共働き	130	66.9	40.0	15.4	14.6	31.5	10.8	7.7	31.5	3.8	0.8
	男性:片働き	56	66.1	37.5	14.3	14.3	33.9	7.1	8.9	17.9	7.1	1.8
	男性:その他	15	60.0	40.0	-	20.0	33.3	20.0	13.3	20.0	13.3	6.7
	男性:二人とも働いていない	33	57.6	57.6	27.3	9.1	18.2	15.2	27.3	27.3	3.0	-
無回答	391	57.8	34.8	11.3	12.0	35.5	12.5	16.4	24.3	5.4	5.4	

5. 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点

●災害に備えるために必要な男女共同参画の視点は「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」、次いで女性は「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全・安心に過ごせるようにする」、男性は「避難所の運営に女性も参画できるようにする」。

問 17. 近年の大規模災害時における経験から、災害直後の避難所運営や、日ごろの防災や被災対応に女性の視点が少ないことなどが課題として指摘されています。災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。(〇印はいくつでも)

図表 4-12 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点 [全体、性別] (前回調査比較)



災害への備えとして男女共同参画の視点で必要だと思うことをたずねたところ、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」が 58.8%で最も高く、以下、「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全・安心に過ごせるようにする」(51.4%)、「避難所の運営に女性も参画できるようにする」(47.6%)、「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」(44.9%)、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」(44.3%)などが4割台と多岐にわたってあげられている。

性別にみると、女性は「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」(女性 65.0%、男性 51.0%)、「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全・安心に過ごせるようにする」(同 57.6%、42.9%)などの割合が 14.0~14.7 ポイント男性よりも高く、男性は「避難所の運営に女性も参画できるようにする」(同 42.8%、53.7%)、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」(同 39.1%、50.5%)、「日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める」(同 21.7%、26.8%)、「防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する」(同 18.9%、26.6%)などが 5.1~11.4 ポイント女性よりも高い。

前回調査と比べると、女性で「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全・安心に過ごせるようにする」が 8.6 ポイント、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」が 4.5 ポイント高く、また男女で「避難所の運営に女性も参画できるようにする」が 4.4~5.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」は女性の 30 代と 40 代で約 7 割と高い。「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全・安心に過ごせるようにする」は女性の 18~29 歳と 30 歳代で 6 割台、「避難所の運営に女性も参画できるようにする」は男性の 50 代を除く年代で 5 割台、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」は男性の 40 代と 70 歳以上で約 6 割と高い。

居住地域別にみると、「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全・安心に過ごせるようにする」は杷木地域で 62.7% と高いのが目立つ。

図表 4-13 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点 [全体、年齢別、居住地域別]

		標本数	で避難所 の運営に する女性 も参画	女性も 男性も 防災活 動や訓 練	女性も 男性も 防災活 動や訓 練	女性も 男性も 防災活 動や訓 練	女性も 男性も 防災活 動や訓 練	女性も 男性も 防災活 動や訓 練	女性も 男性も 防災活 動や訓 練	女性も 男性も 防災活 動や訓 練	女性も 男性も 防災活 動や訓 練	女性も 男性も 防災活 動や訓 練	女性も 男性も 防災活 動や訓 練
全体		948 100.0	451 47.6	420 44.3	557 58.8	487 51.4	212 22.4	426 44.9	229 24.2	27 2.8	29 3.1		
年齢別	女性:18~29歳	69	58.0	39.1	65.2	65.2	20.3	33.3	30.4	2.9	-		
	女性:30~39歳	86	40.7	30.2	69.8	61.6	24.4	33.7	20.9	2.3	3.5		
	女性:40~49歳	108	41.7	34.3	69.4	58.3	14.8	34.3	21.3	5.6	2.8		
	女性:50~59歳	125	42.4	39.2	67.2	59.2	20.0	52.8	20.8	3.2	1.6		
	女性:60~69歳	65	33.8	35.4	60.0	47.7	16.9	49.2	21.5	-	9.2		
	女性:70歳以上	81	42.0	58.0	55.6	50.6	17.3	53.1	17.3	-	3.7		
	男性:18~29歳	45	55.6	37.8	35.6	33.3	20.0	37.8	22.2	2.2	2.2		
	男性:30~39歳	67	50.7	49.3	47.8	44.8	31.3	55.2	25.4	4.5	1.5		
	男性:40~49歳	70	57.1	61.4	61.4	38.6	25.7	45.7	34.3	2.9	1.4		
	男性:50~59歳	89	49.4	47.2	50.6	43.8	28.1	40.4	24.7	3.4	3.4		
男性:60~69歳	53	54.7	43.4	60.4	47.2	26.4	47.2	24.5	5.7	3.8			
男性:70歳以上	81	55.6	58.0	48.1	46.9	25.9	50.6	28.4	1.2	4.9			
	無回答	9	55.6	66.7	22.2	66.7	33.3	88.9	44.4	-	-		
居住地域別	甘木地域	603	48.4	45.9	59.9	51.1	22.1	44.6	24.2	3.2	3.3		
	朝倉地域	238	46.6	42.9	56.3	47.1	21.0	45.0	25.6	2.1	3.4		
	杷木地域	102	42.2	38.2	58.8	62.7	24.5	45.1	19.6	2.0	1.0		
	無回答	5	100.0	40.0	40.0	60.0	80.0	80.0	40.0	20.0	-		

## 第5章 暴力などの人権侵害について

### 1. ドメスティック・バイオレンスについて

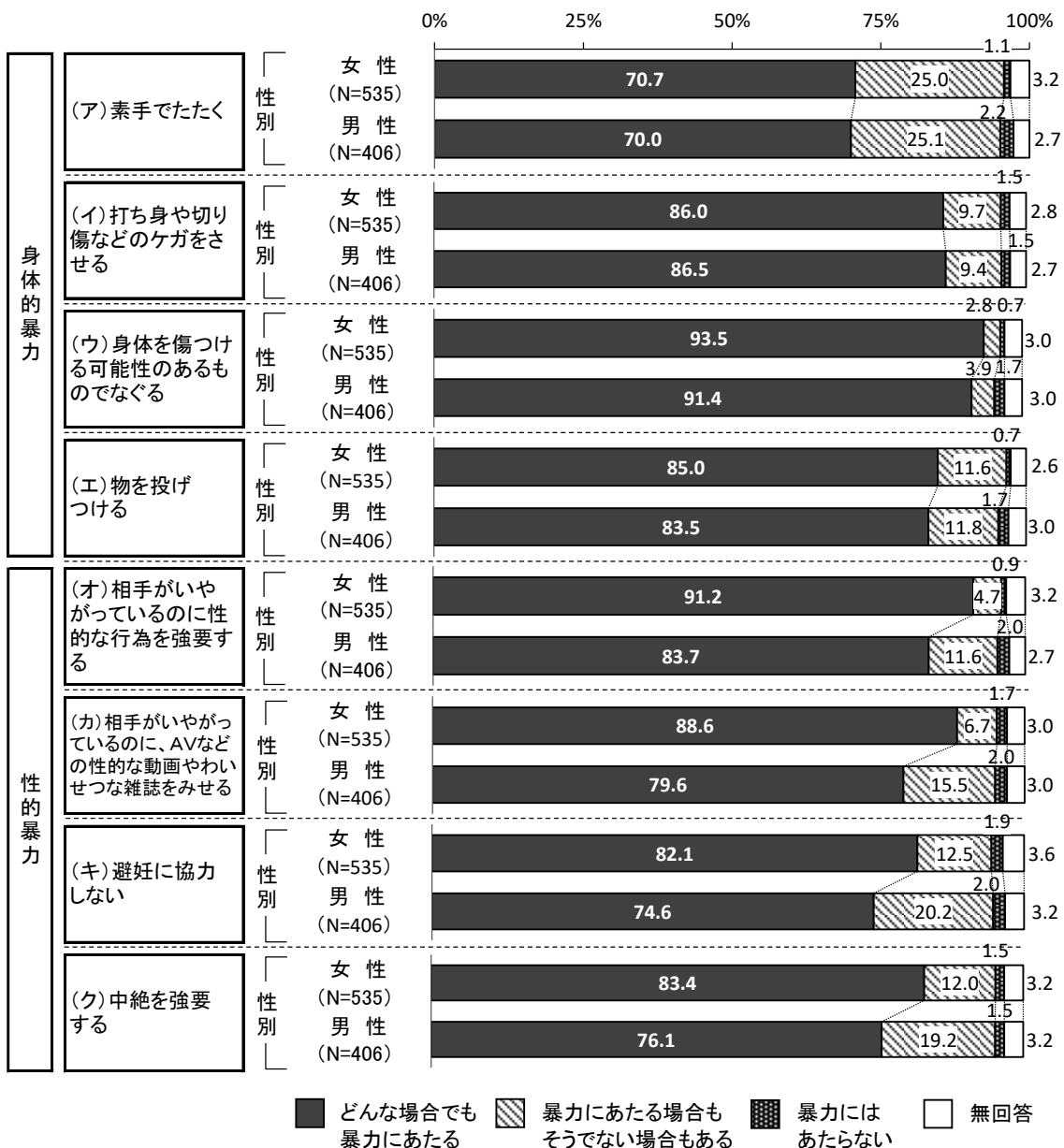
#### (1) ドメスティック・バイオレンスの認知

●暴力の認知は身体的暴力は男女とも同程度、性的暴力、精神的・経済的暴力は女性の方が高い。「長期間無視し続ける」「交友関係やメールをチェックする」は男女ともどんな場合でも暴力との認知が低く、経済的暴力は男性の認知が低い。

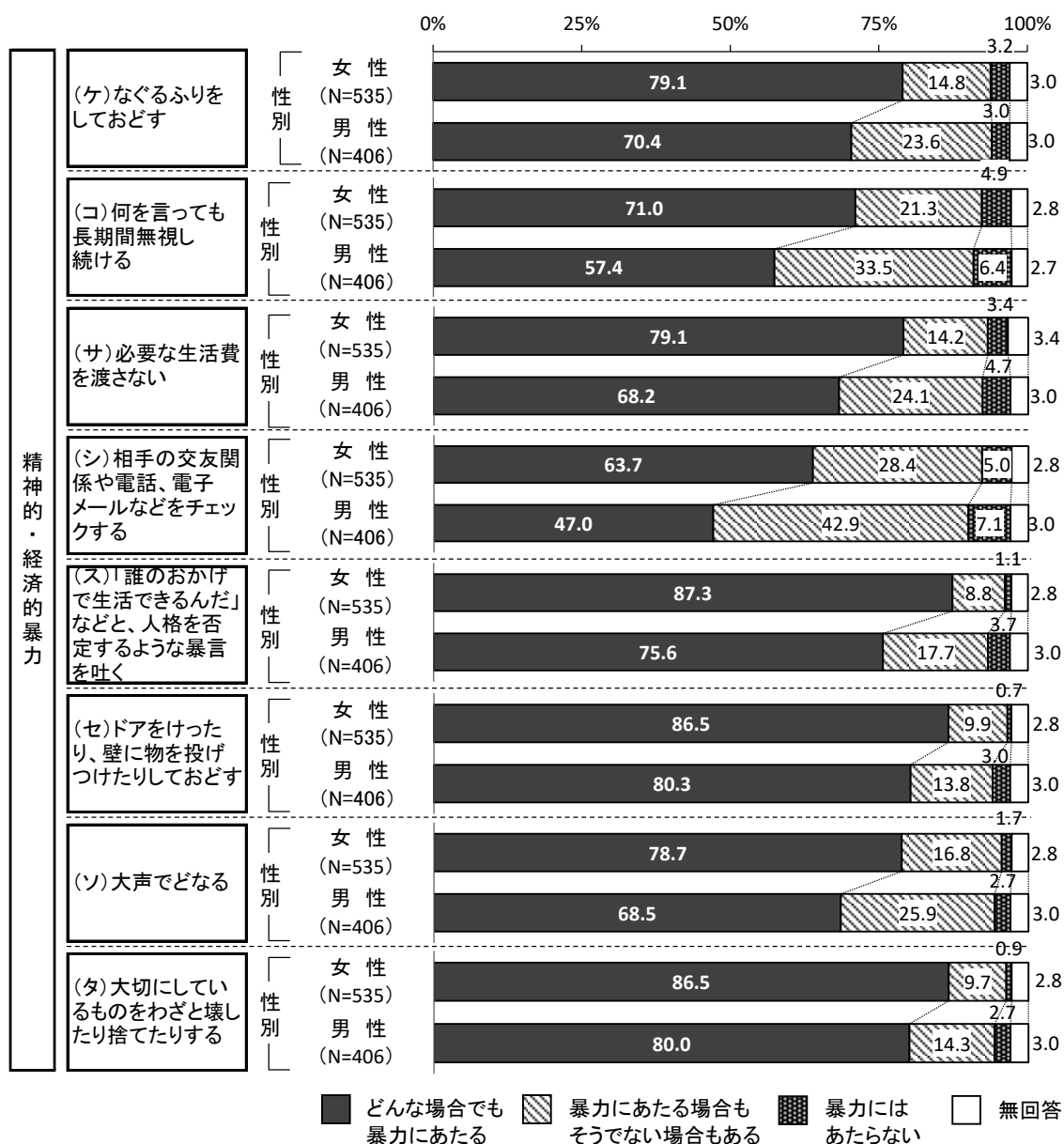
問 18. あなたは、次の（ア）から（タ）のことが配偶者（婚姻届を出していない事実婚や別居中も含む）や交際相手の間で行われた場合、暴力だと思いますか。

（○印は1つつ）

図表5-1(1) ドメスティック・バイオレンスの認知 [性別]



図表5-1(2) ドメスティック・バイオレンスの認知 [性別]



身体的・性的・精神的・経済的暴力をあげ、それが暴力と思うかどうかたずねた。

身体的暴力については、「どんな場合でも暴力にあたる」の割合は男女とも同程度で、「身体を傷つける可能性のあるものでなぐる」は約9割と最も高い。「打ち身や切り傷などのケガをさせる」「物を投げつける」は8割台半ばあるが、「素手でたたく」は約7割で「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」が2割台半ばとなっている。

性的暴力については、女性の「どんな場合でも暴力にあたる」の割合は男性よりも高い。「相手がいやがっているのに性的な行為を強要する」は女性が91.2%、男性83.7%と7.5ポイントの差がある。その他3つの性的暴力についても女性は8割台、男性は7割台と7.3~9.0ポイントの差がある。



精神的・経済的暴力については、女性の70歳以上で「どんな場合でも暴力にあたる」の割合は低い、「相手の交友関係や電話、電子メールなどをチェックする」は女性の18～29歳で47.8%、また男性でも33.3%と低い。また、男性は「なぐるふりをしておどす」は60代以上、「何を言っても長期間無視し続ける」は40代、その他の暴力は18～29歳で「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が低くなっている。

図表5-2(2) ドメスティック・バイオレンスの認知 [全体、年齢別]

(%)

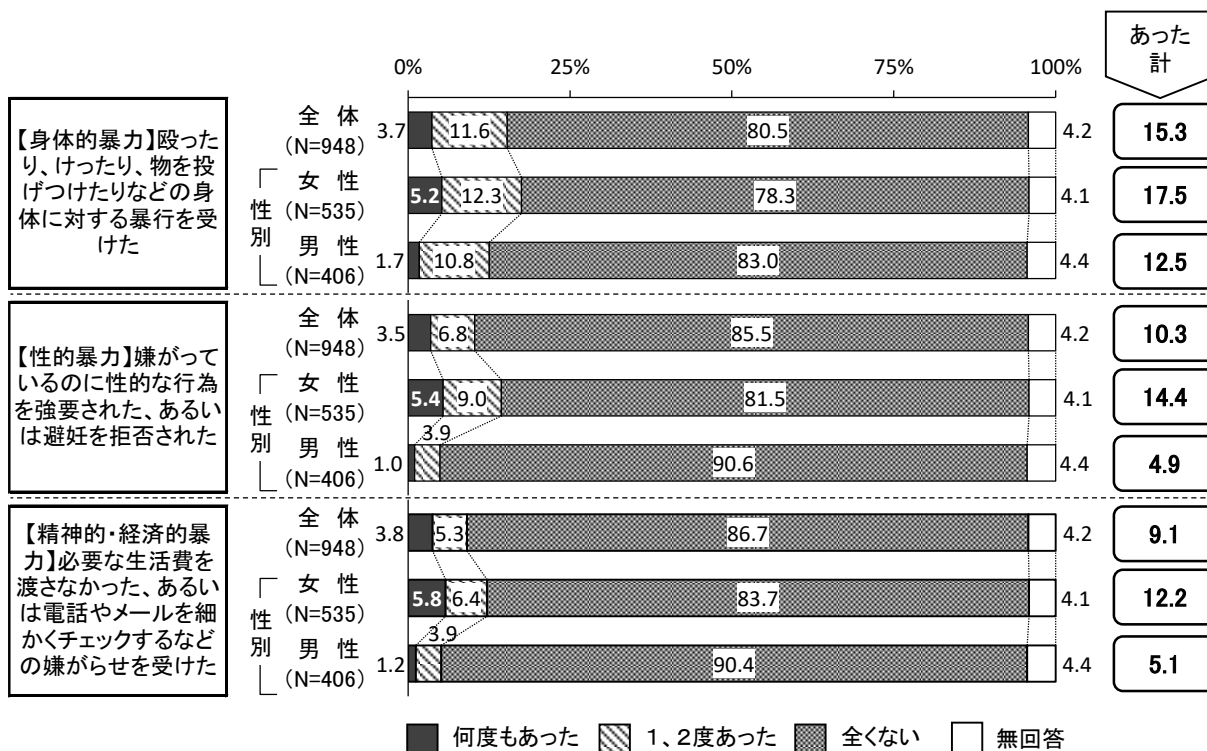
	標本数	(ケ)なぐるふりをしておどす					(コ)何を言っても長期間無視し続ける					(サ)必要な生活費を渡さない					(シ)相手の交友関係や電話、電子メールなどをチェックする				
		暴 ど 力 に あ た る 場 合 も あ る	場 合 も あ る が な い 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る 場 合 も あ る	無 回 答	暴 ど 力 に あ た る 場 合 も あ る	場 合 も あ る が な い 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る 場 合 も あ る	無 回 答	暴 ど 力 に あ た る 場 合 も あ る	場 合 も あ る が な い 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る 場 合 も あ る	無 回 答	暴 ど 力 に あ た る 場 合 も あ る	場 合 も あ る が な い 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る 場 合 も あ る	無 回 答
全体	948 100.0	711 75.0	180 19.0	29 3.1	28 3.0	614 64.8	255 26.9	53 5.6	26 2.7	703 74.2	177 18.7	38 4.0	30 3.2	535 56.4	328 34.6	58 6.1	27 2.8	56.4	34.6	6.1	2.8
年齢別	女性:18～29歳	69	79.7	14.5	5.8	-	66.7	26.1	7.2	-	71.0	24.6	4.3	-	47.8	43.5	8.7	-	-	-	-
	女性:30～39歳	86	83.7	10.5	4.7	1.2	72.1	23.3	3.5	1.2	79.1	16.3	3.5	1.2	59.3	34.9	4.7	1.2	-	-	-
	女性:40～49歳	108	83.3	13.0	0.9	2.8	82.4	13.0	1.9	2.8	83.3	12.0	1.9	2.8	72.2	21.3	3.7	2.8	-	-	-
	女性:50～59歳	125	86.4	11.2	1.6	0.8	78.4	16.8	4.0	0.8	88.0	8.0	3.2	0.8	72.8	23.2	3.2	0.8	-	-	-
	女性:60～69歳	65	73.8	16.9	1.5	7.7	64.6	26.2	3.1	6.2	81.5	9.2	1.5	7.7	58.5	33.8	1.5	6.2	-	-	-
	女性:70歳以上	81	61.7	24.7	6.2	7.4	53.1	28.4	11.1	7.4	65.4	18.5	6.2	9.9	61.7	21.0	9.9	7.4	-	-	-
	男性:18～29歳	45	68.9	20.0	6.7	4.4	51.1	37.8	6.7	4.4	60.0	31.1	4.4	4.4	33.3	55.6	6.7	4.4	-	-	-
	男性:30～39歳	67	71.6	20.9	4.5	3.0	65.7	23.9	7.5	3.0	70.1	19.4	7.5	3.0	40.3	46.3	10.4	3.0	-	-	-
	男性:40～49歳	70	81.4	17.1	1.4	-	48.6	45.7	5.7	-	75.7	21.4	2.9	-	47.1	45.7	7.1	-	-	-	-
	男性:50～59歳	89	74.2	22.5	2.2	1.1	68.5	23.6	6.7	1.1	69.7	24.7	4.5	1.1	56.2	34.8	7.9	1.1	-	-	-
	男性:60～69歳	53	64.2	30.2	-	5.7	56.6	35.8	1.9	5.7	66.0	26.4	1.9	5.7	41.5	47.2	5.7	5.7	-	-	-
	男性:70歳以上	81	60.5	30.9	3.7	4.9	50.6	37.0	8.6	3.7	65.4	23.5	6.2	4.9	53.1	37.0	4.9	4.9	-	-	-
無回答	9	33.3	66.7	-	-	11.1	77.8	11.1	-	33.3	55.6	11.1	-	44.4	33.3	22.2	-	-	-	-	
	標本数	(ス)「誰のおかげで生活できるんだ」などと、人格を否定するような暴言を吐く					(セ)ドアをけったり、壁に物を投げけたりしておどす					(ソ)大声でどなる					(タ)大切にしているものをわざと壊したり捨てたりする				
		暴 ど 力 に あ た る 場 合 も あ る	場 合 も あ る が な い 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る 場 合 も あ る	無 回 答	暴 ど 力 に あ た る 場 合 も あ る	場 合 も あ る が な い 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る 場 合 も あ る	無 回 答	暴 ど 力 に あ た る 場 合 も あ る	場 合 も あ る が な い 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る 場 合 も あ る	無 回 答	暴 ど 力 に あ た る 場 合 も あ る	場 合 も あ る が な い 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る 場 合 も あ る	無 回 答
全体	948 100.0	780 82.3	120 12.7	21 2.2	27 2.8	794 83.8	111 11.7	16 1.7	27 2.8	702 74.1	199 21.0	20 2.1	27 2.8	791 83.4	113 11.9	17 1.8	27 2.8	791	113	17	27
年齢別	女性:18～29歳	69	84.1	13.0	2.9	-	85.5	11.6	2.9	-	73.9	20.3	5.8	-	84.1	13.0	2.9	-	-	-	-
	女性:30～39歳	86	90.7	8.1	-	1.2	89.5	9.3	-	1.2	75.6	23.3	-	1.2	91.9	7.0	-	1.2	-	-	-
	女性:40～49歳	108	91.7	4.6	0.9	2.8	87.0	10.2	-	2.8	85.2	12.0	-	2.8	92.6	4.6	-	2.8	-	-	-
	女性:50～59歳	125	89.6	8.8	0.8	0.8	93.6	4.8	0.8	0.8	84.0	14.4	0.8	0.8	91.2	7.2	0.8	0.8	-	-	-
	女性:60～69歳	65	84.6	9.2	-	6.2	80.0	12.3	1.5	6.2	75.4	18.5	-	6.2	78.5	13.8	1.5	6.2	-	-	-
	女性:70歳以上	81	79.0	11.1	2.5	7.4	77.8	14.8	-	7.4	71.6	16.0	4.9	7.4	75.3	16.0	1.2	7.4	-	-	-
	男性:18～29歳	45	64.4	26.7	4.4	4.4	68.9	24.4	2.2	4.4	62.2	28.9	4.4	4.4	68.9	24.4	2.2	4.4	-	-	-
	男性:30～39歳	67	74.6	19.4	3.0	3.0	71.6	17.9	7.5	3.0	56.7	35.8	4.5	3.0	80.6	11.9	4.5	3.0	-	-	-
	男性:40～49歳	70	84.3	11.4	4.3	-	81.4	15.7	2.9	-	74.3	22.9	2.9	-	85.7	12.9	1.4	-	-	-	-
	男性:50～59歳	89	75.3	20.2	3.4	1.1	89.9	7.9	1.1	1.1	71.9	25.8	1.1	1.1	83.1	12.4	3.4	1.1	-	-	-
	男性:60～69歳	53	69.8	22.6	1.9	5.7	83.0	11.3	-	5.7	75.5	18.9	-	5.7	81.1	13.2	-	5.7	-	-	-
	男性:70歳以上	81	79.0	11.1	4.9	4.9	80.2	11.1	3.7	4.9	67.9	23.5	3.7	4.9	76.5	14.8	3.7	4.9	-	-	-
無回答	9	88.9	11.1	-	-	77.8	22.2	-	-	55.6	44.4	-	-	44.4	44.4	11.1	-	-	-	-	

(2) ドメスティック・バイオレンスの経験

●DVの経験は女性で2割台半ば、男性で1割台半ば。前回調査より暴力の経験は男女とも高い。

問 19. あなたはこれまでに、配偶者（婚姻届を出していない事実婚や別居中も含む）や交際相手から次の（ア）から（ウ）のようなことをされたことがありますか。  
（○印は1つつ）

図表 5-3 ドメスティック・バイオレンスの経験 [全体、性別]



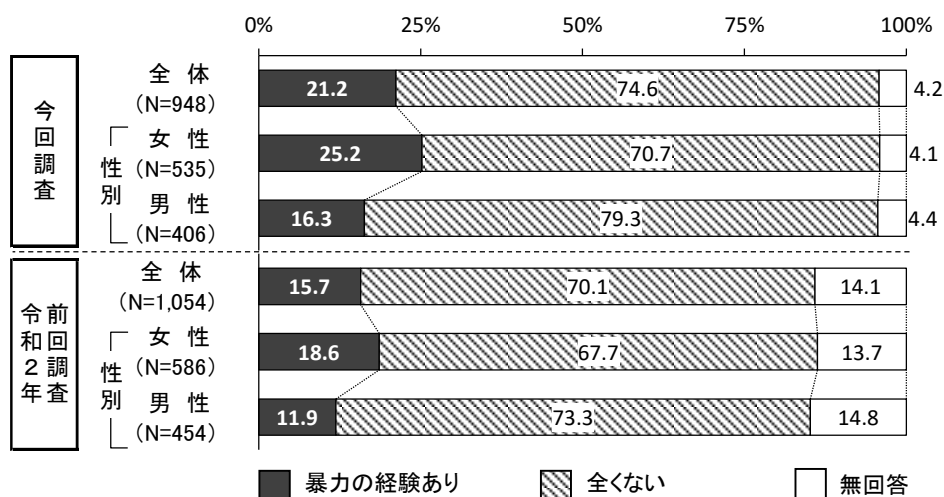
配偶者（パートナー）や恋人関係にあった人から暴力を受けたことがあるかどうか、たずねた。

「何度もあった」と「1、2度あった」を合計した『あった』は、身体的暴力では女性は17.5%、男性は12.5%と女性の方が5.0ポイント高い。性的暴力では女性14.4%、男性4.9%と9.5ポイント差、精神的・経済的暴力では女性12.2%、男性5.1%と7.1ポイント差といずれの暴力でも女性の方が暴力の経験は多い。

身体的・性的・精神的・経済的暴力に一つでも「何度もあった」「1、2度あった」と回答した『暴力の経験あり』は女性で25.2%、男性で16.3%である。

前回調査では13項目の暴力をあげ、ここ3年ぐらいの間の経験をたずねている。その中で一つでも「何度もあった」「1、2度あった」と回答した人をまとめたものと比較すると、男女とも今回調査の方が『暴力の経験あり』の割合が女性で6.6ポイント、男性で4.4ポイント高い。

図表5-4 【まとめ】ドメスティック・バイオレンスの経験〔全体、性別〕（前回調査比較）



II 調査結果の分析

年齢別にみると、身体的・性的・精神的・経済的暴力が『あった』は女性 40 代を中心にした前後の年代で高い傾向がみられる。男性は身体的と精神的・経済的暴力は 50 代とその前後の年代、性的暴力は 30 代で『あった』が比較的高い。

配偶関係別にみると、いずれの暴力も『あった』は、標本数は少ないが、男女とも配偶者と離・死別した人の割合が高い。また、未婚よりも配偶者がいる人の方が暴力の経験は高い。

図表 5-5 ドメスティック・バイオレンスの経験 [全体、年齢別、配偶関係別]

(%)

	標本数	【身体的暴力】殴ったり、けったり、物を投げつけたりなどの身体に対する暴行を受けた					【性的暴力】嫌がっているのに性的な行為を強要された、あるいは避妊を拒否された					
		あ っ た も	あ っ た 2 度	全 く な い	無 回 答	あ っ た 計	あ っ た も	あ っ た 2 度	全 く な い	無 回 答	あ っ た 計	
全体	948 100.0	35 3.7	110 11.6	763 80.5	40 4.2	145 15.3	33 3.5	64 6.8	811 85.5	40 4.2	97 10.3	
年齢別	女性:18~29歳	69	4.3	2.9	92.8	-	7.2	1.4	2.9	95.7	-	4.3
	女性:30~39歳	86	3.5	7.0	87.2	2.3	10.5	3.5	11.6	82.6	2.3	15.1
	女性:40~49歳	108	9.3	13.9	74.1	2.8	23.2	10.2	9.3	77.8	2.8	19.5
	女性:50~59歳	125	5.6	18.4	75.2	0.8	24.0	7.2	7.2	84.8	0.8	14.4
	女性:60~69歳	65	4.6	10.8	76.9	7.7	15.4	1.5	10.8	80.0	7.7	12.3
	女性:70歳以上	81	2.5	16.0	67.9	13.6	18.5	4.9	12.3	69.1	13.6	17.2
	男性:18~29歳	45	2.2	6.7	84.4	6.7	8.9	2.2	-	91.1	6.7	2.2
	男性:30~39歳	67	1.5	7.5	88.1	3.0	9.0	3.0	4.5	89.6	3.0	7.5
	男性:40~49歳	70	2.9	10.0	85.7	1.4	12.9	-	4.3	94.3	1.4	4.3
	男性:50~59歳	89	3.4	13.5	82.0	1.1	16.9	1.1	4.5	93.3	1.1	5.6
	男性:60~69歳	53	-	15.1	73.6	11.3	15.1	-	1.9	86.8	11.3	1.9
男性:70歳以上	81	-	11.1	82.7	6.2	11.1	-	6.2	87.7	6.2	6.2	
無回答	9	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	
配偶関係別	女性:未婚	138	5.1	4.3	86.2	4.3	9.4	2.2	8.7	84.8	4.3	10.9
	女性:配偶者がいる	326	3.1	14.7	78.5	3.7	17.8	4.0	8.0	84.4	3.7	12.0
	女性:配偶者と離・死別した	64	17.2	17.2	62.5	3.1	34.4	20.3	14.1	62.5	3.1	34.4
	男性:未婚	138	1.4	5.1	86.2	7.2	6.5	0.7	2.2	89.9	7.2	2.9
	男性:配偶者がいる	235	0.9	13.2	83.4	2.6	14.1	1.3	4.7	91.5	2.6	6.0
	男性:配偶者と離・死別した	24	12.5	20.8	62.5	4.2	33.3	-	8.3	87.5	4.2	8.3
無回答	23	-	8.7	78.3	13.0	8.7	-	4.3	82.6	13.0	4.3	
	標本数	【精神的・経済的暴力】必要な生活費を渡さなかった、あるいは電話やメールを細かくチェックするなどの嫌がらせを受けた										
		あ っ た も	あ っ た 2 度	全 く な い	無 回 答	あ っ た 計						
全体	948 100.0	36 3.8	50 5.3	822 86.7	40 4.2	86 9.1						
年齢別	女性:18~29歳	69	5.8	2.9	91.3	-	8.7					
	女性:30~39歳	86	4.7	5.8	87.2	2.3	10.5					
	女性:40~49歳	108	13.0	4.6	79.6	2.8	17.6					
	女性:50~59歳	125	4.0	9.6	85.6	0.8	13.6					
	女性:60~69歳	65	6.2	4.6	81.5	7.7	10.8					
	女性:70歳以上	81	-	8.6	77.8	13.6	8.6					
	男性:18~29歳	45	2.2	2.2	88.9	6.7	4.4					
	男性:30~39歳	67	3.0	-	94.0	3.0	3.0					
	男性:40~49歳	70	1.4	4.3	92.9	1.4	5.7					
	男性:50~59歳	89	1.1	10.1	87.6	1.1	11.2					
	男性:60~69歳	53	-	3.8	84.9	11.3	3.8					
男性:70歳以上	81	-	1.2	92.6	6.2	1.2						
無回答	9	-	-	100.0	-	-						
配偶関係別	女性:未婚	138	5.1	3.6	87.0	4.3	8.7					
	女性:配偶者がいる	326	3.4	6.4	86.5	3.7	9.8					
	女性:配偶者と離・死別した	64	18.8	10.9	67.2	3.1	29.7					
	男性:未婚	138	0.7	2.2	89.9	7.2	2.9					
	男性:配偶者がいる	235	0.4	4.3	92.8	2.6	4.7					
	男性:配偶者と離・死別した	24	8.3	12.5	75.0	4.2	20.8					
無回答	23	8.7	4.3	73.9	13.0	13.0						

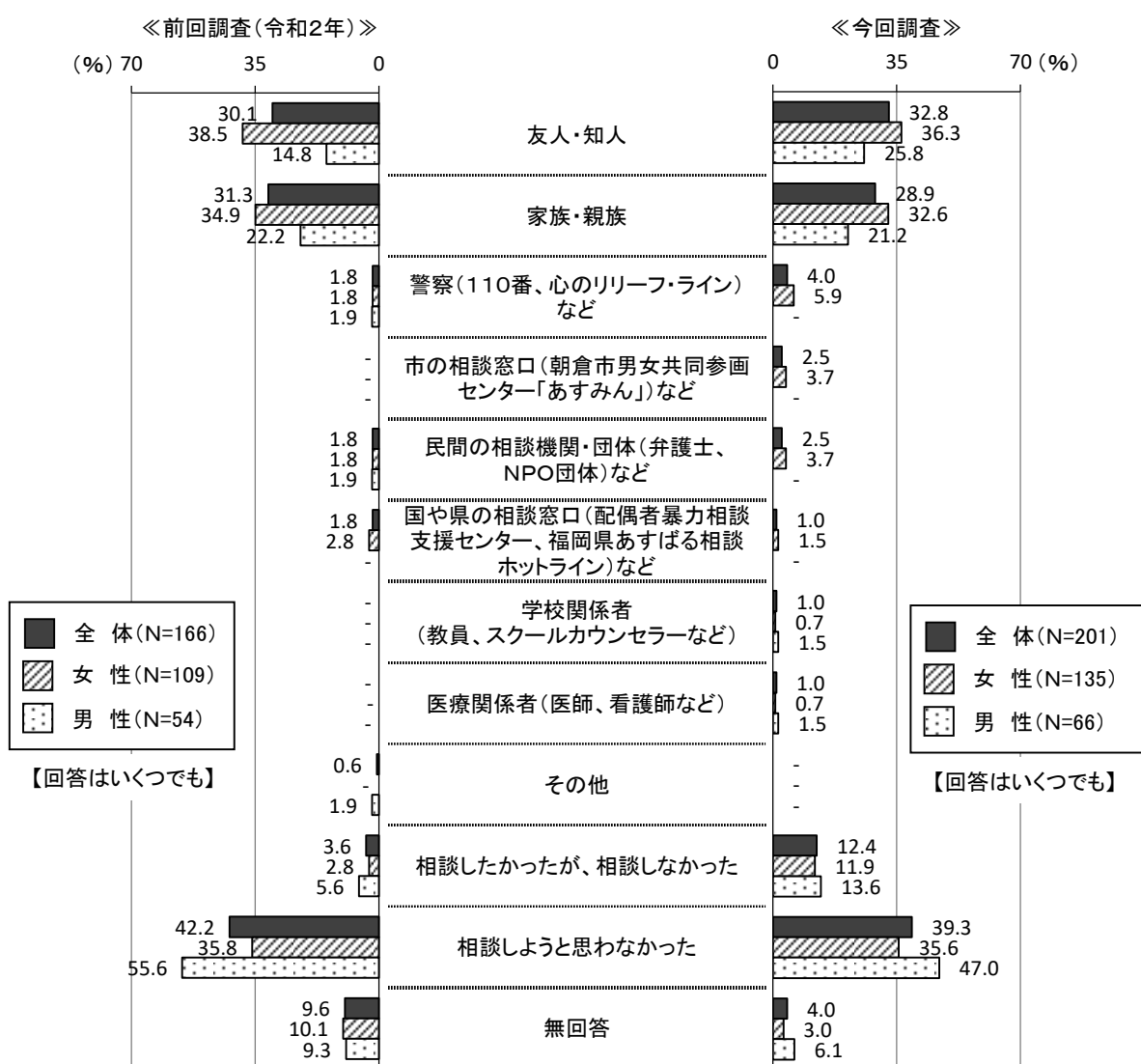
(3) ドメスティック・バイオレンスの相談

●暴力を受けたことについての相談は主に「友人・知人」「家族・親族」で女性に多い。「相談しようと思わなかった」は男性が約5割、女性が3割台半ばで男性に多い。

問 19 付問 1. [問 19 でいずれかに 1. または 2. と答えた方に]

あなたはこれまでに、問 19 であげたような行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇印はいくつでも)

図表 5-6 ドメスティック・バイオレンスの相談 [全体、性別] (前回調査比較)



配偶者(パートナー)や恋人関係にあった人から一つでも「何度もあった」「1、2度あった」と回答した201人に、そのことについて誰かに打ち明けたり相談したりしたかたずねたところ、「相談しようと思わなかった」が39.3%で最も高かった。打ち明けたり相談したりした相手は「友人・知人」(32.8%)、「家族・親族」(28.9%)が主な相談先となっており、公的機関の相談先では「警察」(4.0%)、「市の相談窓口」「民間の相談機関・団体」(同率2.5%)などはわずかであった。「相談したかったが、相談しなかった」は12.4%である。

II 調査結果の分析

性別にみると、女性では「友人、知人」(女性 36.3%、男性 25.8%)、と「家族、親族」(同 32.6%、21.2%)が多く、男性は「相談しようとは思わなかった」が 47.0%と多いが、女性も 35.6%ある。

前回調査と比べると、「友人、知人」「家族、親族」への相談が中心となっていることは変わらないが、男性は「友人、知人」の割合が 11.0 ポイント増加している。また、前回調査よりも公的機関や専門機関への相談がみられるが、「相談したかったが、相談しなかった」が 8.0～9.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、女性はいずれの年代も「警察」への相談があり、30代から60代で「市の相談窓口」の利用もみられる。「相談したかったが、相談しなかった」は、標本数は少ないが、男性の18～29歳と40代で約2割と高い。

配偶関係別にみると、女性の配偶者と離・死別した人は公的機関や専門機関への相談がみられる。男女とも未婚では「相談したかったが、相談しなかった」の割合が他の配偶関係に比べて高い。

図表5-7 ドメスティック・バイオレンスの相談 [全体、年齢別、配偶関係別]

		標本数	家族・親族	友人・知人	警察(110番、心のリリーフ・ライン)など	市の相談窓口(朝倉市男女共同参画センター「あすみん」など)	国や県の相談窓口(配偶者暴力相談支援センター、福岡県あすばる相談センター、福岡県あすばる相談センターなど)	民間の相談機関・団体(弁護士、NPO団体)など	市民間の相談窓口(配力)	学校関係者(教員、スクールカウンセラーなど)	医療関係者(医師、看護師など)	その他	相談したかったが、相談しなかった	相談しようと思わなかった	無回答
全体		201 100.0	58 28.9	66 32.8	8 4.0	5 2.5	2 1.0	5 2.5	2 1.0	2 1.0	-	-	25 12.4	79 39.3	8 4.0
年齢別	女性:18～29歳	8	75.0	62.5	12.5	-	-	12.5	-	-	-	-	-	12.5	-
	女性:30～39歳	20	25.0	45.0	5.0	5.0	-	-	-	-	-	-	10.0	40.0	5.0
	女性:40～49歳	37	37.8	43.2	5.4	5.4	2.7	5.4	-	-	-	-	10.8	29.7	-
	女性:50～59歳	34	23.5	32.4	5.9	2.9	2.9	5.9	2.9	2.9	-	-	17.6	41.2	-
	女性:60～69歳	14	35.7	28.6	7.1	7.1	-	-	-	-	-	-	14.3	42.9	-
	女性:70歳以上	22	27.3	18.2	4.5	-	-	-	-	-	-	-	9.1	36.4	13.6
	男性:18～29歳	5	40.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	40.0	-
	男性:30～39歳	7	28.6	28.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	57.1	-
	男性:40～49歳	11	18.2	27.3	-	-	-	-	9.1	9.1	-	-	18.2	63.6	-
	男性:50～59歳	20	20.0	40.0	-	-	-	-	-	-	-	-	15.0	45.0	-
男性:60～69歳	10	20.0	10.0	-	-	-	-	-	-	-	-	10.0	40.0	20.0	
男性:70歳以上	13	15.4	15.4	-	-	-	-	-	-	-	-	15.4	38.5	15.4	
無回答		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
配偶関係別	女性:未婚	22	36.4	50.0	-	4.5	-	4.5	-	-	-	-	18.2	27.3	-
	女性:配偶者がいる	82	31.7	36.6	7.3	2.4	-	2.4	-	-	-	-	11.0	37.8	3.7
	女性:配偶者と離・死別した	28	28.6	25.0	7.1	7.1	7.1	7.1	3.6	3.6	-	-	10.7	39.3	-
	男性:未婚	12	8.3	25.0	-	-	-	-	8.3	8.3	-	-	33.3	41.7	-
	男性:配偶者がいる	45	22.2	22.2	-	-	-	-	-	-	-	-	6.7	48.9	8.9
	男性:配偶者と離・死別した	8	37.5	37.5	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0	50.0	-
無回答		4	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0

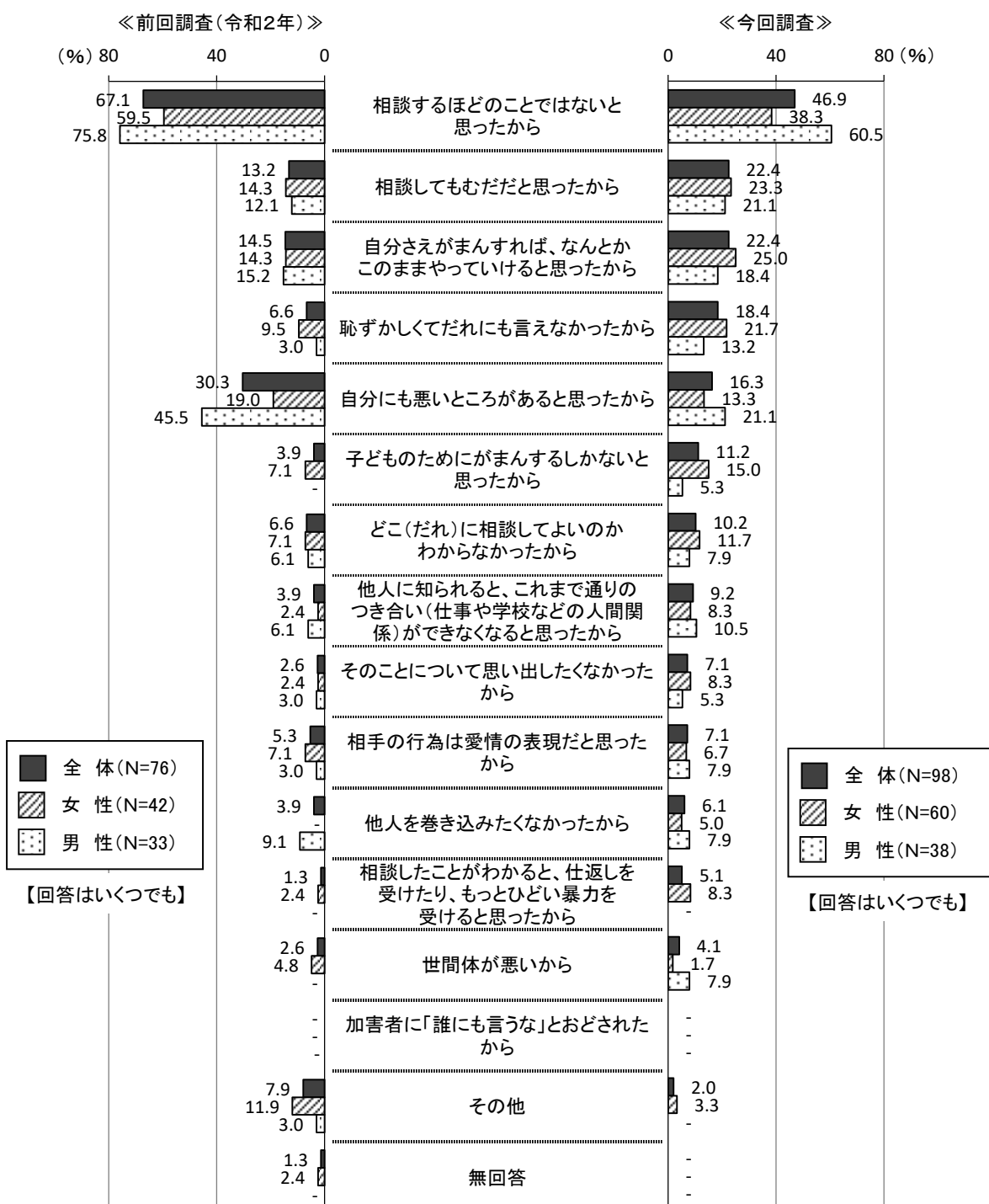
(4) 相談をしなかった理由

●暴力を受けたことについて相談しなかった理由は「相談するほどのことではないと思ったから」「相談してもむだだと思ったから」「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」。

問 19 付問 1-1. [付問 1 で 10. または 11. と答えた方に]

どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(〇印はいくつでも)

図表 5-8 相談をしなかった理由 [全体、性別] (前回調査比較)



## II 調査結果の分析

---

「相談したかったが、相談しなかった」「相談しようとは思わなかった」と回答した 98 人に、その理由をたずねた。

「相談するほどのことではないと思ったから」が 46.9%で最も多く、次いで「相談してもむだだと思ったから」「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が同率の 22.4%「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が 18.4%、「自分にも悪いところがあると思ったから」が 16.3%となっている。

性別にみると、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」(女性 38.3%、男性 60.5%) や「自分にも悪いところがあると思ったから」(同 13.3%、21.1%) が 7.8~22.2 ポイント女性の割合を上回っている。女性は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(同 25.0%、18.4%) や「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」(同 21.7%、13.2%)、「子どものためにがまんするしかないと思ったから」(同 15.0%、5.3%) などが 6.6~9.7 ポイント男性を上回っている。また、「どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから」(同 11.7%、7.9%) は 3.8 ポイント男性を上回り、「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから」(女性 8.3%、男性 0.0%) は女性のための該当となっている。

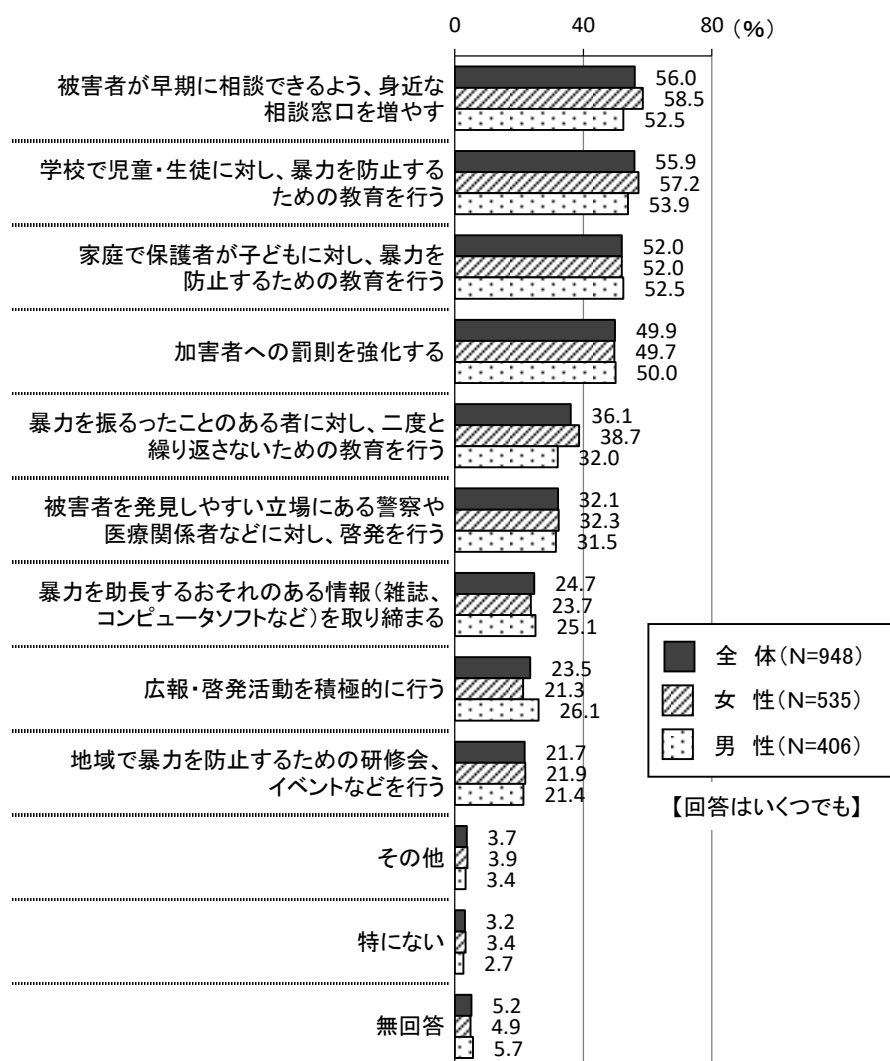
前回調査と比べると、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が 15.3~21.2 ポイント減、「自分にも悪いところがあると思ったから」が 5.7~24.4 ポイント減で、その他のほとんどの項目は割合が増えている。特に「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」は男女とも 10.2~12.2 ポイント、「相談してもむだだと思ったから」は各々 9.0 ポイント増えている。また、女性では「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が 10.7 ポイント、「子どものためにがまんするしかないと思ったから」が 7.9 ポイント増えている。

2. 男女間における暴力を防止するための取り組み

●男女間における暴力を防止するためには「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」「学校で児童・生徒に対し、暴力を防止するための教育を行う」「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が上位3位。

問 20. あなたは、男女間における暴力を防止するためにはどうしたらよいと思いますか。  
(〇印はいくつでも)

図表 5-9 男女間における暴力を防止するための取り組み [全体、性別]



男女間における暴力を防止するためには「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(56.0%)、「学校で児童・生徒に対し、暴力を防止するための教育を行う」(55.9%)、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」(52.0%)などが5割台で上位にあげられ、次いで「加害者への罰則を強化する」が49.9%となっている。

性別にみると、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(女性58.5%、男性52.5%)や「暴力を振ったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」(同38.7%、32.0%)は女性の方が6.0~6.7ポイント男性より高い。

II 調査結果の分析

年齢別にみると、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」は女性の50代と60代で6割台、70歳以上で約6割と年齢の高い層で割合が高い。「学校で児童・生徒に対し、暴力を防止するための教育を行う」は女性の18～29歳と30代、男性の30代と40代で6割台と年齢の低い層で割合が高い。「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」は女性の60代と男性の40代で約6割と高い。「加害者への罰則を強化する」は女性の18～29歳から40代で約6割、「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」は女性の30代と40代、男性の18～29歳で4割から4割台半ばと年齢が低い層での割合が高くなっている。

図表5-10 男女間における暴力を防止するための取り組み [全体、年齢別]

		(%)																														
		標本数	育し、家庭で暴力を防止する	家庭で保護者が子どもに対するための教育	学校で児童・生徒に対するための教育	学校で児童・生徒に対するための教育	地域で暴力を防止するための教育	地域で暴力を防止するための教育	研修会、イベントなどを行う	研修会、イベントなどを行う	広報・啓発活動を積極的に行う	広報・啓発活動を積極的に行う	被害者が早期に相談できるような相談窓口を増やす	被害者が早期に相談できるような相談窓口を増やす	ある警察や医療関係者など	ある警察や医療関係者など	被害者を発見しやすい立場に	被害者を発見しやすい立場に	暴力を振るったことのある者	暴力を振るったことのある者	加害者への罰則を強化する	加害者への罰則を強化する	情報(雑誌、コンピュータ)を取り締まる	情報(雑誌、コンピュータ)を取り締まる	暴力を助長するおそれのある	暴力を助長するおそれのある	その他	特になし	無回答			
全体		948 100.0	493 52.0	530 55.9	206 21.7	223 23.5	531 56.0	304 32.1	342 36.1	473 49.9	234 24.7	35 3.7	30 3.2	49 5.2																		
年齢別	女性:18～29歳	69	50.7	60.9	21.7	17.4	50.7	37.7	36.2	60.9	15.9	2.9	5.8	2.9																		
	女性:30～39歳	86	50.0	62.8	19.8	12.8	53.5	34.9	45.3	58.1	16.3	4.7	-	2.3																		
	女性:40～49歳	108	52.8	54.6	26.9	21.3	51.9	34.3	40.7	58.3	27.8	4.6	4.6	3.7																		
	女性:50～59歳	125	48.8	56.8	24.8	28.8	66.4	37.6	38.4	52.8	28.8	6.4	3.2	3.2																		
	女性:60～69歳	65	63.1	55.4	21.5	23.1	67.7	18.5	30.8	26.2	24.6	1.5	1.5	6.2																		
	女性:70歳以上	81	50.6	54.3	13.6	21.0	59.3	24.7	38.3	33.3	23.5	1.2	4.9	12.3																		
	男性:18～29歳	45	55.6	37.8	13.3	22.2	33.3	33.3	40.0	46.7	17.8	4.4	4.4	4.4																		
	男性:30～39歳	67	59.7	64.2	28.4	26.9	58.2	38.8	37.3	50.7	26.9	1.5	4.5	4.5																		
	男性:40～49歳	70	60.0	64.3	20.0	24.3	51.4	35.7	28.6	52.9	27.1	4.3	4.3	2.9																		
	男性:50～59歳	89	51.7	52.8	20.2	28.1	58.4	38.2	36.0	55.1	16.9	2.2	2.2	3.4																		
	男性:60～69歳	53	49.1	45.3	17.0	22.6	58.5	24.5	24.5	43.4	34.0	7.5	1.9	13.2																		
男性:70歳以上	81	42.0	53.1	25.9	28.4	49.4	18.5	27.2	46.9	29.6	2.5	-	7.4																			
無回答		9	22.2	55.6	22.2	44.4	66.7	44.4	55.6	66.7	66.7	-	11.1	-																		

## 第6章 男女共同参画社会の実現について

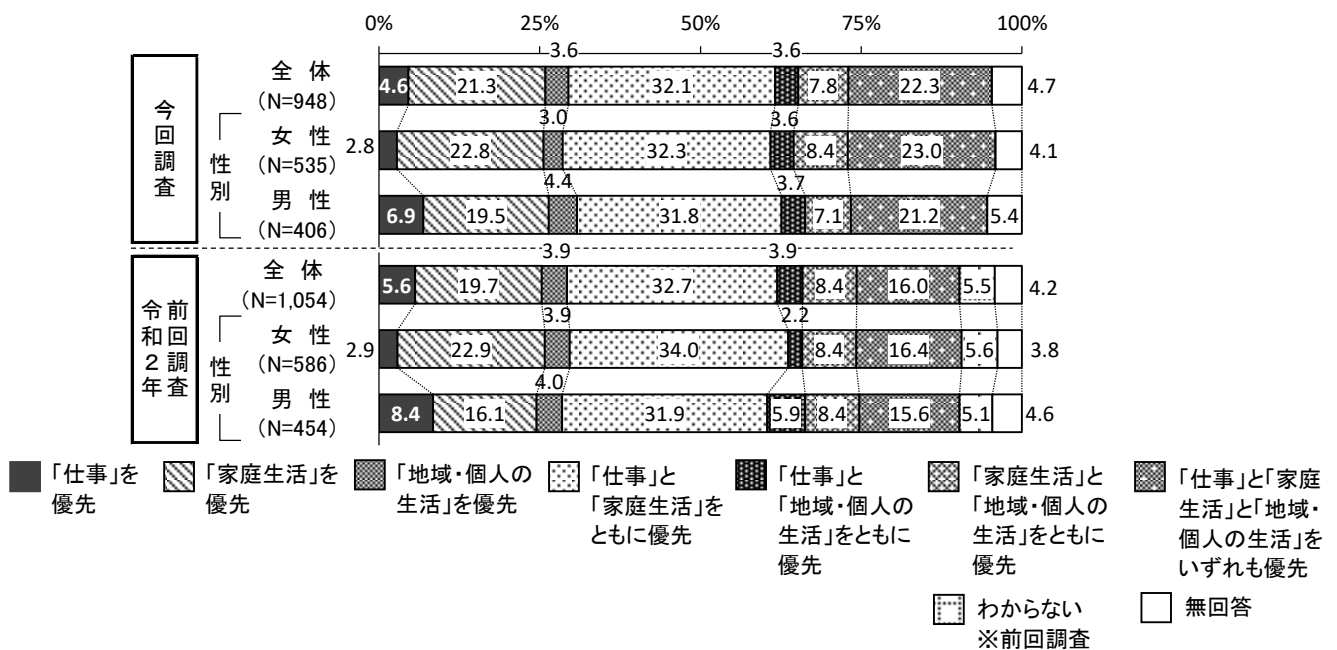
### 1. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度

問 21. 生活のなかでの「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についておうかがいします。次の（A）、（B）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○印は1つずつ）

#### （1）希望

●生活における「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の希望する優先度について、男女とも『「仕事」と『家庭生活』ともに優先』が約3割で最も高い。

図表6-1 希望する「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」優先度〔全体、性別〕  
（前回調査比較）



生活のなかでの「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について希望と現実のそれぞれについてたずねた。

希望では『「仕事」と『家庭生活』をともに優先』が 32.1%、『「仕事」と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をいずれも優先』が 22.3%、『「家庭生活』を優先』が 21.3%である。

性別にみると、女性は『「家庭生活』を優先』（女性 22.8%、男性 19.5%）が男性よりも 3.3 ポイント、男性は『「仕事』を優先』（同 2.8%、6.9%）が女性よりも 4.1 ポイント上回っている。その他の項目については同程度である。

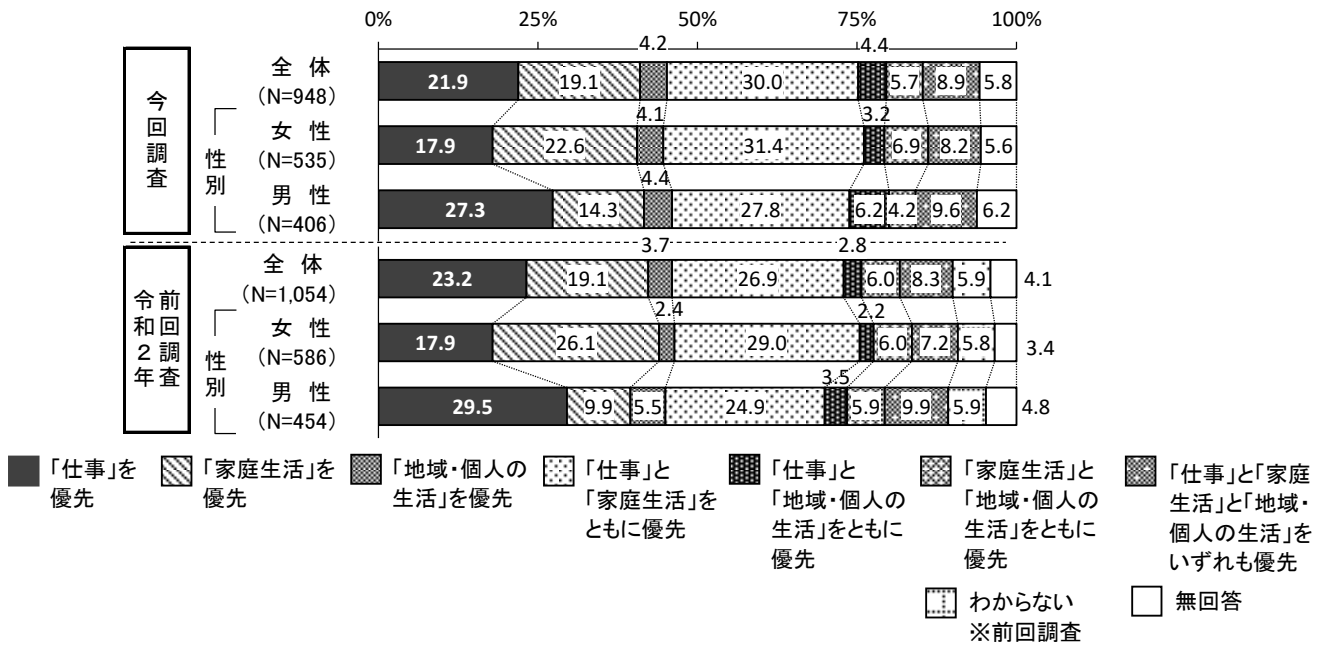
前回調査と比べると、男女とも『「仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をいずれも優先』が 5.6～6.6 ポイント増えている。

II 調査結果の分析

(2) 現実（現状）

●現実では女性は「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」、男性は「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」と「『仕事』を優先」が各々約3割。

図表6-2 現実（現状）の「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」優先度  
[全体、性別]（前回調査比較）



現実では「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が30.0%、「『仕事』を優先」が21.9%、「『家庭生活』を優先」が19.1%となっており、「『仕事』を優先」の割合は希望とは大きく違っている。

性別にみると、女性は「『家庭生活』を優先」（同22.6%、14.3%）が男性を8.3ポイント、男性は「『仕事』を優先」（同17.9%、27.3%）が女性を9.4ポイント上回っている。

希望では約2割あった「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をいずれも優先」は現実では男女とも1割に満たない。

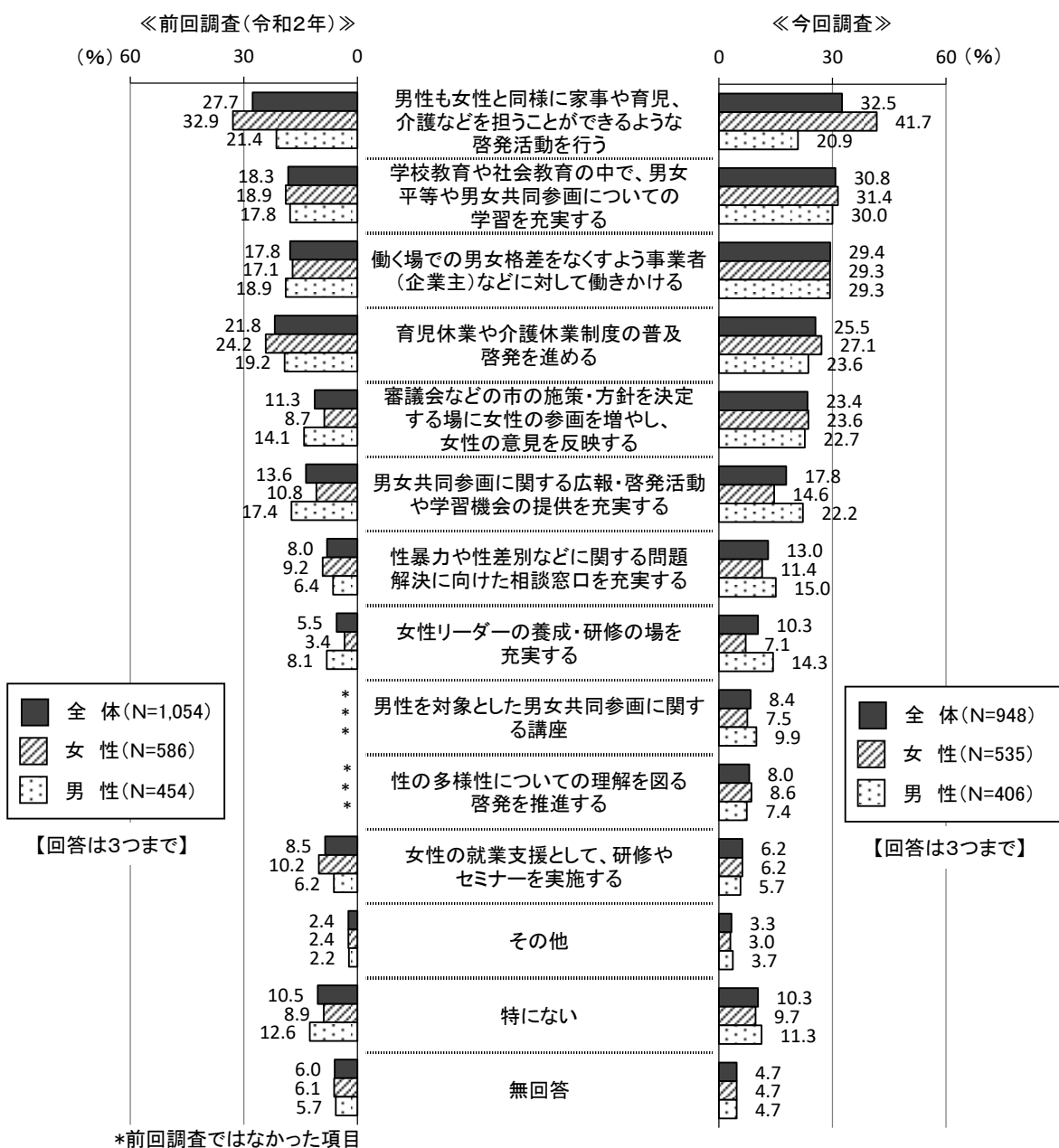
前回調査と比べると、女性はあまり大きな差はみられない。男性は「『仕事』を優先」がやや減り、「『家庭生活』を優先」や「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」がやや増えている。

2. 男女共同参画社会実現のために望む施策

●男女共同参画社会の実現のために力を入れる施策は、「男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習を充実する」「働く場での男女格差をなくすよう事業者（企業主）などに対して働きかける」が上位3位。

問 22. 「男女共同参画社会」づくりのために、今後、朝倉市（行政）はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（○印は3つまで）

図表 6-3 男女共同参画社会実現のための施策〔全体、性別〕（前回調査比較）



## II 調査結果の分析

男女共同参画社会の実現のために、市として力を入れる施策をたずねたところ、「男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」が 32.5%、「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習を充実する」が 30.8%、「働く場での男女格差をなくすよう事業者（企業主）などに対して働きかける」が 29.4%で上位3位である。「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」（25.5%）や「審議会などの市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やし、女性の意見を反映する」（23.4%）なども2割台半ばで上位にあげられている。

性別にみると、女性は「男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」が 41.7%で男性の 20.9%を 20.8 ポイント上回っている。男性は「男女共同参画に関する広報・啓発活動や学習機会の提供を充実する」（同 14.6%、22.2%）、「性暴力や性差別などに関する問題解決に向けた相談窓口を充実する」（同 11.4%、15.0%）、「女性リーダーの養成・研修の場を充実する」（同 7.1%、14.3%）などが女性より 3.6～7.6 ポイント上回っている。

前回調査から項目の変更があるため正確な比較はできないが、女性の「男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」は 8.8 ポイント増えている。また、男女とも「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習を充実する」は 12.2～12.5 ポイント、「働く場での男女格差をなくすよう事業者（企業主）などに対して働きかける」（前回調査：職場における男女の均等な取り扱い（仕事の内容・賃金など）について周知徹底をする）は 10.4～12.2 ポイント、「審議会などの市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やし、女性の意見を反映する」は 8.6～14.9 ポイント増えている。

年齢別にみると、「男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」は女性の60代で56.9%と最も高く、女性の30代と50代、70歳以上でも約4割から5割と高い。「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習を充実する」は男性の60代で43.4%と高い。「働く場での男女格差をなくすよう事業者（企業主）などに対して働きかける」は男女とも18～29歳で3割台半ば、「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」は男女とも30代と女性の18～29歳で3割台半ばから約4割と年齢の低い層での割合が高い。男女とも60代で「審議会などの市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やし、女性の意見を反映する」が約3割、男性の70歳以上で「男女共同参画に関する広報・啓発活動や学習機会の提供を充実する」が27.2%、「女性リーダーの養成・研修の場を充実する」が24.7%、男性の50代で「性暴力や性差別などに関する問題解決に向けた相談窓口を充実する」が20.2%とこれらの項目は男性の年齢が高い層での割合が高い。

図表6-4 男女共同参画社会実現のための施策〔全体、年齢別〕

		標本数	啓発活動や学習機会の提供を充実する	男性に関する講座	審議会などの市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やし、女性の意見を反映する	学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画について学習を充実する	働く場での男女格差をなくすよう事業者（企業主）などに対して働きかける	育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める	男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができる	女性の就業支援として、セミナーを実施する	性暴力や性差別などに関する問題解決に向けた相談窓口を充実する	女性リーダーの養成・研修の場を充実する	性の多様性についての理解を図る啓発を推進する	その他	特にない	無回答
全体		948 100.0	169 17.8	80 8.4	222 23.4	292 30.8	279 29.4	242 25.5	308 32.5	59 6.2	123 13.0	98 10.3	76 8.0	31 3.3	98 10.3	45 4.7
年齢別	女性:18～29歳	69	20.3	15.9	20.3	34.8	34.8	34.8	29.0	4.3	10.1	5.8	7.2	2.9	10.1	-
	女性:30～39歳	86	11.6	4.7	18.6	31.4	26.7	37.2	43.0	4.7	9.3	5.8	7.0	4.7	12.8	3.5
	女性:40～49歳	108	12.0	5.6	25.0	25.9	30.6	25.9	35.2	4.6	15.7	8.3	14.8	3.7	11.1	3.7
	女性:50～59歳	125	14.4	3.2	24.0	32.0	30.4	19.2	41.6	7.2	14.4	6.4	9.6	4.0	9.6	4.8
	女性:60～69歳	65	13.8	10.8	27.7	32.3	21.5	30.8	56.9	7.7	10.8	6.2	10.8	-	3.1	6.2
	女性:70歳以上	81	17.3	9.9	24.7	34.6	29.6	21.0	48.1	8.6	3.7	9.9	-	1.2	9.9	9.9
	男性:18～29歳	45	17.8	4.4	15.6	26.7	35.6	22.2	13.3	4.4	17.8	2.2	11.1	6.7	13.3	6.7
	男性:30～39歳	67	16.4	13.4	20.9	20.9	26.9	35.8	17.9	7.5	9.0	9.0	9.0	3.0	10.4	6.0
	男性:40～49歳	70	25.7	4.3	24.3	31.4	28.6	21.4	22.9	4.3	17.1	10.0	8.6	7.1	12.9	2.9
	男性:50～59歳	89	21.3	10.1	24.7	28.1	33.7	23.6	16.9	4.5	20.2	15.7	7.9	2.2	10.1	3.4
男性:60～69歳	53	22.6	11.3	28.3	43.4	24.5	20.8	28.3	3.8	15.1	18.9	1.9	-	11.3	5.7	
男性:70歳以上	81	27.2	13.6	21.0	32.1	27.2	18.5	25.9	8.6	11.1	24.7	6.2	3.7	11.1	3.7	
無回答	9	11.1	-	55.6	22.2	44.4	11.1	-	33.3	22.2	22.2	-	-	-	22.2	



### Ⅲ 調査結果のまとめ



### Ⅲ 調査結果のまとめ

#### 調査結果から見える特徴と今後の課題

##### はじめに

朝倉市は、令和4年に「自立し支え合い 個性や能力を発揮できる 元気な朝倉市」を基本理念とする「第4次朝倉市男女共同参画推進計画」を策定し、男女共同参画社会づくりやジェンダー平等の実現に向け、施策の推進にあたってきた。令和8年度は第4次計画の最終年度であり、次期計画となる第5次計画の策定に向けた基礎資料とするため、18歳以上の市民2,000人を対象に「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施した。以下では、調査結果からみえてきた朝倉市の男女共同参画に関する現状と課題について考察する。

##### 1. 男女平等に関する考え方について

男女平等や男女共同参画への関心度をたずねたところ、全体では『関心がある』と『関心がない』がほぼ半数ずつであった。性別で見ると、女性は『関心がある』が『関心がない』を5ポイントほど上回るが、男性は『関心がある』が『関心がない』を10ポイント以上下回っており、女性の方が関心が高い。また、前回調査からは大きな変化はみられない。

「男は仕事、女は家庭」という、いわゆる固定的性別役割分担意識については、『同感する』が約2割、『同感しない』が8割弱で、『同感しない』が『同感する』を大幅に上回っており、また、前回調査からも『同感しない』が約5ポイント増加した。性別で見ると、女性の『同感しない』は8割を超え、男性より約9ポイント上回っている。県や国の調査と比較しても、男女とも『同感しない』が高くなっており、朝倉市においては、固定的性別役割分担意識がかなり弱まっていると考えられる。ただ、一般的には年齢が低いほど性別役割分担に反対する意識が強まる傾向がみられるが、今回調査では20代以下の男性で『同感する』が約3分の1と最も高くなっており、若い世代に向けた啓発のあり方を検討する必要がある。

男女の地位の平等感について8つの分野についてたずねたところ、「学校教育の場」では「平等」との回答は5割を超え、『男性優遇』も1割程度にとどまるが、その他のすべての分野で『男性優位』が「平等」を上回っており、特に「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり」「社会全体」では『男性優位』が約6から7割と高くなっている。

性別で見ると、女性の「平等」の割合は、「学校教育の場で」では男性とほぼ差がないものの、それ以外の全ての分野で男性を大きく下回っており、女性の方が不平等感を感じていることがうかがえる。また、前回調査と比較すると、多くの項目について、男性は『男性優遇』が低下し、「平等」が増加しているが、女性では大きな変化はみられず、この5年間の変化について性別で認識が異なることが分かる。

## 2. 家庭生活について

家庭内の役割分担の状況を9つの項目についてたずねた。『夫中心』が多いのは、「家計を支える（生活費を得る）」で5割台半ば、「高額の商品や土地・家屋の購入」が5割弱、「自治会・町内会などの地域活動への参加」が4割台半ば、「家庭の問題における最終的な決定」が約4割などとなっている。一方、『妻中心』が多いのは、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事」が7割台半ば、「日々の家計の管理」が約6割、「育児、子どものしつけ」が5割強などとなっている。また、「家族の介護」も『妻中心』の割合が高い。

なお、前回調査は配偶者・パートナーと同居している人のみが対象となっていたため、配偶者やパートナーがいる人について前回調査と比較すると、「家計を支える（生活費を得る）」は男女とも『夫中心』が減り、「同じ程度に分担」や『妻中心』がやや増加しているが、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事」「日々の家計の管理」「育児、子どものしつけ」「子どもの教育方針や進路目標の決定」などは、女性では変化がないのに対し、男性で「同じ程度に分担」が増加しており、ここでも性別により認識の相違がみられる。また、「家族の介護」は前回調査より男女とも『妻中心』が10ポイント近く増えているが、「同じ程度に分担」もやや増加している。

共働きの場合、「家計を支える（生活費を得る）」は、「同じ程度に分担」が男女とも3割を超えている。しかし、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事」の「同じ程度に分担」は、共働きの男性では2割台半ば、女性では1割強にとどまっており、稼得役割の分担ほどには家事の役割分担は進んでいないようである。それ以外の項目についても、全体として、「男は仕事、女は家庭」「重要事項の決定は男性」といった性別役割分担が依然として行われていることがうかがえる。配偶者にしてほしいこととして、女性の半数以上が「掃除、洗濯、食事の支度などの家事」をあげており、男性の家庭参画を実質的に進めていくことが求められている。

子どものしつけや教育については、「性別を問わず、経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」「性別を問わず、掃除・洗濯・食事の支度など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」は、全体では9割前後の人が『賛成』している。しかし、「賛成」と「どちらかといえば賛成」に分けると、いずれも女性で積極的な「賛成」が高く、特に「性別を問わず、掃除・洗濯・食事の支度など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」で差が大きい。ここでも、女性の方が男性の生活自立や家事への参画を重視していることがうかがえる。

「男女にはそれぞれの役割があるので、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい」については、全体では「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた『賛成』が約3割、「反対」と「どちらかといえば反対」をあわせた『反対』が5割弱で、前回調査に比べて『賛成』の割合が減少した。性別でみると、男性は『賛成』が『反対』を約5ポイント上回っており、ここでも性別による意識差がみられる。また、女性ではすべての年代で『反対』が『賛成』を大きく上回っているが、男性では40代で『反対』が『賛成』を大きく上回り、30代で『反対』と『賛成』が拮抗しているほかは『賛成』が『反対』を大きく上回っており、年齢による意識の差が大きい。

全体としては、性別に関わらず経済自立も生活自立も必要と考えている人が多く、「男の子らしく、女の子らしく」という意識もやや薄れつつあるが、性別や年代での意識差が大きい。しかし、男性でも子育て期の年代ではジェンダーにとらわれない育て方に賛成する人が多い。男女共同参画社会の実現に向け、一人ひとり子どもの個性を尊重する教育を推進するとともに、幅広い

世代に向けた啓発を行い、性別や年代での意識差を小さくしていくことが望まれる。

### 3. 職業について

女性が職業をもつことについては、「ずっと職業をもっている方がよい」という就労継続が約6割台半ば、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつが方よい」という中断・再就職が2割弱となっている。前回調査と比べて就労継続はやや増加し、中断・再就職が減少しており、女性が結婚や出産に関わらず就労継続する意識はより強まりつつあると考えられる。

実際の女性（男性は配偶者・パートナー）の就業状況を見ると、「ずっと職業をもっている」が5割強で、前回調査から約6ポイント増加している。50代以下の女性と30代の男性では6割前後に上っており、年齢が低い層の女性では、現実的なライフコースとなっていることがうかがえる。

女性が働き続けるために必要なこととしては、「仕事と家庭の両立支援制度が利用しやすい職場環境・風土づくり」「賃金の男女格差を改める」「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、多様な働き方制度の導入」などが高くなっている。性別で見ると、「仕事と家庭の両立支援制度が利用しやすい職場環境・風土づくり」「男性が家事・育児・介護などについて当事者意識を持つための啓発」は女性で高くなっている。育児休業などの制度の拡充が進む中、特に女性からは職場環境や職場風土の改善が求められている。また、ここでも男性の家事・育児等への参画を女性が求めていることがうかがえる。

職業をもっている人の就業形態を見ると、男女とも「正社員・正職員」が最も高いが、男性では約5割に対して女性は4割弱となっている。また、「パートタイマー・アルバイト」は女性が3割台半ば、男性は約1割となっている。また、男性は女性に比べて自営業主の割合が高い。

男性の育児休業・介護休業・子の看護休暇の活用については、「積極的に活用すべきである」が約6割弱、「なるべく活用すべきである」が約3割で、前回調査同様9割近くが肯定的であるが、今回調査では「積極的に活用すべきである」の割合が増加している。性別で見ると、男女とも「積極的に活用すべきである」が増加しているが、女性は「積極的に活用すべきである」が男性より約12ポイント高く、女性の方が肯定的である。

現在、男性の約6割が育児休業などを取得しない（できない）理由については、「職場に取得しやすい環境がないから」が4割強、「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」が3割台半ば、「経済的に困るから」「仕事が忙しいから」が2割前後で、上位となっている。性別では、女性は「職場に取得しやすい環境がないから」が男性より高く、男性は「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」「仕事が忙しいから」が高くなっており、男性の方が仕事への影響をあげる割合が高くなっている。しかし、これまでみてきたように、女性からは男性の家事・育児参画が求められており、また、労働者の権利としても育児休業の取得やワーク・ライフ・バランスの実現を進める必要がある。市内事業所への啓発や支援制度等についての情報提供を積極的に行うとともに、男性労働者に向けての意識啓発に取り組むことが望まれる。

#### 4. 地域活動について

地域活動での性別役割分担の状況について現状について、「あてはまる」の割合が高かったものとして、「地域活動は男性が取り仕切る」「地域の役員はほとんど男性になっている」が5割台半ば、「地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」「催し物の企画などは主に男性が決定している」が4割台半ば、「地域の集会では男性が上座に座る」が4割弱などとなっている。前回調査と比べ、「地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」「地域の集会では男性が上座に座る」の「あてはまる」は減少した一方で、「催し物の企画などは主に男性が決定している」「女性が発言することは少ない」は「あてはまる」が増加しており、また、それ以外の項目には大きな変化がみられない。お茶出しや座席の位置などの慣習的なことについてはやや改善がみられるものの、地域活動において女性の意思決定過程や役職への参画が進んでいないことがうかがえる。

現状に対する意識をみると、現状で「あてはまる」とした場合、どの項目についても「改善すべき」が5割程度かそれ以上となっており、改善を望む声は多い。特に、「女性が発言することは少ない」は7割強、「地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」は6割強が「改善すべき」と回答している。

女性が区会長やPTA会長など地域の役職につくことについて、女性には自分が推薦された場合に引き受けるか、男性には妻など身近な女性が推薦された場合に引き受けることをすすめるかをたずねたところ、「断る（断ることをすすめる）」が約7割、「引き受ける（引き受けることをすすめる）」が3割弱であった。特に女性で「断る」が8割弱と高く、女性の方がより消極的である。前回調査からも大きな変化がみられず、地域の役職に女性が就くことへの忌避感が強いことがうかがえる。

「断る（断ることをすすめる）」と答えた理由としては、「家事・育児や介護に支障がでるから」と「役職につく知識や経験がないから」が5割弱で最も高く、「役職につくことが面倒だから」も4割弱と高い。

性別でみると、女性は「家事・育児や介護に支障がでるから」「役職につく知識や経験がないから」が男性より高くなっている。さらに年齢別でみると、「役職につく知識や経験がないから」「女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから」は年齢が高い層で高くなっている。また、「家事・育児や介護に支障がでるから」は、子育て期の40代以下の女性で高く、特に30代の女性では約7割に上っている。

また、女性が市の審議会などへの就任を依頼された場合については、『引き受ける（ことをすすめる）』が女性は2割台半ば、男性は4割強となっている。選択肢が異なるため単純に比較はできないものの、地域の役職よりも女性の『引き受ける』が高くなっている。

男女共同参画の視点から災害に備えるために必要なことについて、女性は「備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる」が6割台半ば、「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全・安心に過ごせるようにする」が6割弱と高くなっている。男性では「避難所の運営に女性も参画できるようにする」「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」などが女性より高くなっている。前回調査と同様、女性は実際に災害が発生したときに安心して過ごせるための対策を、男性は防災活動や避難所運営への女性の参画をより求める傾向がみられるが、「避難所の運営に女性も参画できるようにする」「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」は女性でも前

回調査より割合が高くなっており、災害対策への女性の参画がさらに重視されてきているようである。

現状としては地域の活動は男性中心の傾向があるため、女性など多様な人材の登用を進めつつ、現在リーダーとして活動している人を対象に男女共同参画研修を実施したり、子育て中や介護中の人など様々な人との意見交換の機会を設けるなどの取り組みが求められる。

人々のライフコースやライフスタイルが多様化し、地域への意識や関わり方も変化しつつあるなか、防災活動を含めた地域活動に、共働きの人や子育て・介護中の人など、多様な人が参画できる環境を整えることが非常に重要である。役職者の負担を軽減するよう活動内容や役割分担を見直したり、活動時間を工夫したりするなど、仕事や子育て、介護等と地域での活動を両立可能にするような取り組みが求められる。また、地域の慣習や固定的な性別役割分担を改善し、女性が意見を出し、意思決定に参画できるような地域をつくることで、役職等への登用にもつなげていきたい。行政としても、市内外の優良事例の紹介や、女性リーダー育成のための講座の実施など、地域での男女共同参画を推進することが望まれる。

## 5. 暴力などの人権侵害について

ドメスティック・バイオレンス（DV）になり得る言動について、暴力だと思うかどうかをたずねた。身体的暴力については、男女とも「身体を傷つける可能性のあるものでなく」「打ち身や切り傷などのケガをさせる」「物を投げつける」は8割台半ばから9割強が「どんな場合も暴力にあたる」と回答しているが、「素手でたたく」は約7割で「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」が2割台半ばとなっている。性的暴力については、「相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する」「相手がいやがっているのに、AVなどの性的な動画やわいせつな雑誌をみせる」は女性では9割前後が「どんな場合も暴力にあたる」としているが、男性では8割弱から8割強にとどまっており、他の項目も男性の方が暴力との認識が低い。精神的暴力についても、ほとんどの項目で男性の方が「どんな場合も暴力にあたる」とする割合が低くなっている。「何を言っても長期間無視し続ける」「相手の交友関係や電話、電子メールなどをチェックする」は女性でも暴力との認識が比較的低い、男性では5割弱から6割弱とさらに低くなっている。

これまでにDVを受けた経験については、女性の2割台半ば、男性の約1割台半ばが、何らかのDVを受けたことがあると回答している。DVの内容としては、身体的暴力、性的暴力、精神的・経済的暴力のいずれも女性の経験率が高くなっており、女性では1割強から2割弱の人がそれぞれ経験している。

DVを受けた人が相談した相手は、「友人・知人」と「家族・親族」が3割前後で、それ以外の公的機関や専門機関は数%程度となっており、身近な人への相談がほとんどである。また、女性に比べて男性は身近な人に相談した割合も低い。「相談したかったが、相談しなかった」は男女とも1割強、「相談しようと思わなかった」は女性が3割台半ば、男性が5割弱となっている。

相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高く、他に「相談してもむだだと思ったから」「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」「自分にも悪いところがあったから」なども高くなっている。DVの被害を受けても、被害を軽くみたり、自分自身を責めたりして、

相談できていない様子が見えてくる。

男女間における暴力をなくすために求められることとしては、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」「学校で児童・生徒に対し、暴力を防止するための教育を行う」が5割台半ば、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」「加害者への罰則を強化する」が5割前後と高くなっており、相談しやすい窓口の設置や、学校や家庭での教育が求められている。

今回調査から、朝倉市においても依然としてDVが発生していることが明らかになるとともに、被害者が相談できていない状況が見えてきた。特に、公的な相談機関に相談したケースは数値としては小さく、現在の窓口が活用されているとは言い難い。また、DVにあたる行為を暴力と認識していない人も多く、市民全体のDVに対する理解をさらに深めることが重要である。また、DVの予防と早期発見のために、地域や学校と連携しての取り組みも進めたい。児童・生徒への予防教育については県の講師派遣事業なども活用しながら、暴力のないまちづくりを推進されたい。

## 6. 男女共同参画社会の実現に向けて

「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度については、希望としては「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が3割強、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をいずれも優先」「『家庭生活』を優先」が2割強と高くなっている。一方、現実としては「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が3割と最も高いが、希望としては優先度が低い「『仕事』を優先」が2割強と高くなっている。性別で見ると、男女とも希望より現実で「『仕事』を優先」が高くなっているが、特に男性で差が大きくなっている。

「男女共同参画社会」づくりのために市が力を入れていくべきこととしては、「男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習を充実する」「働く場での男女格差をなくすよう事業者（企業主）などに対して働きかける」が3割前後で上位となっている。「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」「審議会などの市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やし、女性の意見を反映する」も2割台半ばとなっている。

性別で見ると、女性は「男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」が4割強で男性より約20ポイント高くなっており、ここでも女性が男性の家事・育児等への参画を重視していることがうかがえる。男性は「男女共同参画に関する広報・啓発活動や学習機会の提供を充実する」「女性リーダーの養成・研修の場を充実する」などが女性よりやや高くなっている。

全体として、朝倉市においては固定的役割分担意識や地域の慣習において変化はみられるものの、依然として家庭や地域での性別役割分担が根強く残っていることがうかがえる結果となっていた。また、性別による意識の差が大きく、時に男性の家事・育児等への参画を女性が求めている一方で、男性はやや消極的な傾向がみられた。女性の就業継続がこれまで以上に現実的な選択となっていくと思われるなか、男性の家事・育児等への参画が進まないようであれば、女性の負担の増大が懸念される。

一方で、育児・介護休業の活用については男女とも積極的な傾向が強まるなど、変化の兆しもうかがえる。また、人々のライフコースが多様化しており、だれもが結婚や子どもをもつことが当たり前ではなくなっている現在、配偶者・パートナーや子どもの有無にかかわらず、だれもが職業生活と家庭生活を両立できる社会の実現も喫緊の課題である。そのためには、企業等の取り組みが不可欠であり、市内事業所等に対し、男女共同参画やワーク・ライフ・バランスについて、積極的な情報提供や働きかけを行うことが必要である。また、性別による意識差を解消していくためには、早い段階からの教育・啓発が望まれる。事業所や学校、地域団体等とも連携しながら、あらゆる場面に男女共同参画の視点を取り入れ、施策の推進にあたることが求められる。



◎参考資料  
使用した調査票



# 朝倉市男女共同参画に関する市民意識調査

日頃より、市民の皆様には、男女共同参画のまちづくりにご協力をいただき、ありがとうございます。

市では、「男女が自立し、助け合い、性別に関係なくそれぞれの個性と能力を十分発揮し、共に責任を担っていく男女共同参画のまちづくり」のため、男女共同参画の施策を推進しているところです。

その一環として、5年ごとに市民意識調査を実施し、市民の皆様のご意見をうかがい、今後の施策に反映させたいと考えております。

調査対象の選定にあたりましては、市内にお住いの18歳以上の方の中から2,000人を無作為に選ばせていただきました。

設問数が多くお手数をおかけしますが、この調査の趣旨をご理解いただき、ぜひご協力をお願いいたします。

令和7年9月 朝倉市長 林 裕 二

## 【ご記入にあたってのお願い】

- この調査票は、あて名のご本人がお答えください。  
ご本人による記入が難しい場合は、ご家族や第三者による代筆で、ご記入ください。  
回答した人、記入した人のお名前などは記入する必要はありません。
- 回答は、あてはまる番号に○印をつけてください。質問によって、○印をつける数を指定しています。  
〔例〕 ① はい 2. いいえ  
お答えが「その他」の場合には、番号に○印をつけたうえで、その内容を（ ）の中に具体的に書いてください。また、カタカナを回答枠内に記入する場合があります。
- 質問によっては回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印や案内にそってお答えください。
- 調査結果は、統計的に処理いたしますので、回答された皆様にご迷惑をおかけすることはありません。

## 【調査への回答方法】

「①郵送」または「②ウェブ」のいずれかで、10月17日（金）までに回答してください。

### ①郵送で回答

ご記入後は、この回答冊子を同封の返信用封筒に折りたたみ封入し、10月17日（金）までに、切手をはらずにポストに入れてください。

### ②ウェブで回答

次のURLまたは二次元コードから回答画面へアクセスし、回答してください。

<https://shinsei.pref.fukuoka.lg.jp/SksJuminWeb/EntryForm?id=n1hx2NG2>



〔問い合わせ先〕 朝倉市役所 企画振興部 男女共同参画推進室  
住所 〒838-1592 朝倉市杷木池田 483-1  
電話 0946-28-7595（直通）  
FAX 0946-63-3569（代表） e-mail : danjo@city.asakura.lg.jp



男女平等に関する考え方についておたずねします

問1. あなたは男女平等や男女共同参画をテーマにする話題にどの程度関心がありますか。(○印は1つ)

1. 非常に関心がある
2. まあまあ関心がある
3. あまり関心がない
4. ほとんど関心がない
5. 全く関心がない

問2. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたの考えに最も近いのはどれですか。

(○印は1つ)

1. 同感する
2. ある程度同感する
3. あまり同感しない
4. 同感しない

問3. あなたは、次にあげる(ア)から(ク)までの分野で、男女は平等になっていると思いますか。それぞれについて、最もあてはまるものを選んでください。(○印は1つずつ)

※項目ごとに横を見てお答え下さい。  
(○印はそれぞれ1つずつ)

	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない
(ア) 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
(イ) 職場で	1	2	3	4	5	6
(ウ) 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
(エ) 地域活動・社会活動の場で	1	2	3	4	5	6
(オ) 政治の場で	1	2	3	4	5	6
(カ) 法律や制度のうえで	1	2	3	4	5	6
(キ) 社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
(ク) 社会全体でみた場合	1	2	3	4	5	6

家庭生活についておたずねします

問4. あなたのご家庭では、次にあげるような事柄を、主にどなたがしていますか（されていまたはか）  
 (ア) から (ケ) のそれぞれについて、最もあてはまるものを選んでください。

配偶者・パートナーや子どものいない人も、一般的にどう思われるかお答えください。

(○印は1つずつ)

※項目ごとに横を見てお答え下さい。  
 (○印はそれぞれ1つずつ)

	妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	夫と妻が同じ程度に分担している	主に夫が行い、妻が一部を分担している	夫が行っている	その他／非該当
(ア) 家計を支える（生活費を得る）	1	2	3	4	5	6
(イ) 掃除、洗濯、食事の支度などの家事	1	2	3	4	5	6
(ウ) 日々の家計の管理	1	2	3	4	5	6
(エ) 育児、子どものしつけ	1	2	3	4	5	6
(オ) 家族の介護	1	2	3	4	5	6
(カ) 自治会・町内会などの地域活動への参加	1	2	3	4	5	6
(キ) 子どもの教育方針や進路目標の決定	1	2	3	4	5	6
(ク) 高額の商品や土地・家屋の購入	1	2	3	4	5	6
(ケ) 家庭の問題における最終的な決定	1	2	3	4	5	6

また、あなたが、問4の（ア）から（ケ）までの家庭内の仕事について、配偶者・パートナーの方にもっとしてほしいことはどれですか。主なものを3つまで選び、下の枠の中に（ア）から（ケ）までのカタカナを記入してください。

◎ 配偶者・パートナーにもっとしてほしいこと →

--	--	--

問5. あなたは、子どものしつけや教育について、どのような考え方をお持ちですか。  
 次の（ア）から（エ）のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。  
 子どものいない人も、一般的にどう考えるかお答えください。（○印は1つずつ）

※項目ごとに横を見てお答え下さい。  
 （○印はそれぞれ1つずつ）

→

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない
（ア）性別を問わず、経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ	1	2	3	4	5
（イ）性別を問わず、掃除・洗濯・食事の支度など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい	1	2	3	4	5
（ウ）男女にはそれぞれの役割があるので、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい	1	2	3	4	5
（エ）男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方がよい	1	2	3	4	5

就労についておたずねします

問6. 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。（○印は1つ）

1. ずっと職業を持っている方がよい
2. 結婚するまでは職業を持ち、あとは持たない方がよい
3. 子どもができるまでは職業を持ち、あとは持たない方がよい
4. 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい
5. 女性は職業を持たない方がよい
6. その他（具体的に \_\_\_\_\_ ）
7. わからない

付問1. 【問6で 2～5 と答えた方におたずねします】

あなたがそう思われる理由は何ですか。（○印は2つまで）

1. 女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから
2. 女性は定年まで働き続けにくい環境がまだあるから
3. 女性の能力は正當に評価されないから
4. 女性が働く上で不利な慣習などが多いから
5. 育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の環境ではないから
6. 現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから
7. 保育や介護などの施設が整ってないから
8. その他（具体的に \_\_\_\_\_ ）

問7. あなた（女性の方はあなた自身が、男性の方はあなたの配偶者・パートナー）は、どのような働き方ですか（どのような働き方になりそうですか）。独身の方も、一般的にどう考えるかをお答えください。（○印は1つ）

1. ずっと職業をもっている
2. 結婚するまでは職業をもっていたが、あとはもっていない
3. 子どもができるまでは職業をもっていたが、あとはもっていない
4. 子どもができて職業をやめ、大きくなって再び職業をもった
5. 職業をもったことがない
6. その他（具体的に )
7. わからない

問8. 女性が職業をもち、働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

（○印は3つまで）

1. 賃金の男女格差を改める
2. 昇進・昇格の男女格差の解消
3. 女性の能力向上のための職業訓練や研修、挑戦の機会の提供
4. 残業や休日出勤などの長時間労働を前提とした働き方の見直し
5. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、多様な働き方制度の導入
6. 育児休業や介護休業などの休暇制度の導入
7. 結婚したり出産したりすると勤めにくいような環境・風土を改める
8. 仕事と家庭の両立支援制度が利用しやすい職場環境・風土づくり
9. 女性が働くことや役職につくことについての上司や同僚の理解促進
10. 男性が家事・育児・介護などについて当事者意識を持つための啓発
11. 結婚・出産・介護などでいったん退職した女性のための再雇用制度の導入
12. 求人・就職情報を積極的に提供する
13. 職業生活を続けていく上での相談窓口を充実する
14. その他（具体的に )

問9. あなたは現在、職業（収入のある仕事）をもっていますか（育児や介護休業中などの人も働いているものとみなします）。（○印は1つ）

1. 職業をもっている
  2. 以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない
  3. いままで職業をもったことはない
- 問10へ  
(次ページ)

付問1. [問9で1.「職業をもっている」と答えた方に]  
あなたの職業は次のどれにあたりますか。（○印は1つ）

1. 自営業主（農業・林業・漁業など）
2. 自営業主（個人商店・会社経営・自由業含む）
3. 家族従業者（農業・林業・漁業など）
4. 家族従業者（個人商店・会社経営・自由業含む）
5. 会社役員、管理職
6. 正社員・正職員
7. パートタイマー・アルバイト
8. 契約社員、派遣社員
9. 内職
10. その他（具体的に )

付問2. [問9で1.「職業をもっている」と答えた方に]  
あなたの職場は、女性にとって働きやすいと思いますか。（○印は1つ）

1. 働きやすい
2. どちらかといえば働きやすい
3. どちらかといえば働きにくい
4. 働きにくい
5. わからない

付問2-1. [付問2で3.「どちらかといえば働きにくい」4.「働きにくい」と答えた方に]  
どんな点が女性にとって働きにくいと思いますか。（○印は3つまで）

1. 募集・採用の機会が少ない
2. 賃金に男女格差がある
3. 補助的な業務や雑用が多い
4. 能力を正當に評価されない
5. 昇進・昇格・管理職への登用に男女格差がある
6. 結婚や出産時に退職するなどの慣行がある
7. 女性に対する教育訓練機会が少ないため、能力の向上を図りにくい
8. 仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない
9. 仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の環境でない
10. 女性が働くことについて、上司や同僚の認識が低い
11. その他（具体的に )

問 10. 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得できる制度があります。あなたは、男性がこの制度を活用することについて、どう思いますか。

1. 積極的に活用すべきである
2. なるべく活用すべきである
3. 活用しなくてもよい
4. わからない

問 11. 女性の育児休業取得率は 86.6%であるのに対し、男性の育児休業取得率は 40.5%（厚生労働省：令和 6 年度雇用均等基本調査（全国））となっています。前回調査時（令和 2 年）（女性が 82.2%、男性 6.16%）より改善はされていますが、男性の 6 割が育児休業などを取得しない（できない）理由は何だと思えますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。（○印は 2 つまで）

1. 周囲に取得した男性がいないから
2. 職場に取得しやすい環境がないから
3. 仕事が忙しいから
4. 取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから
5. 取ると人事評価や昇給に悪い影響があるから
6. 経済的に困るから
7. 育児休業を取得するための手続きが職場で整備されていないから
8. その他（具体的に \_\_\_\_\_）
9. わからない

問 12. 男女がともに仕事と育児や介護などを両立させていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○印は 2 つまで）

1. 男女共に育児や介護に参加できるような職場の意識形成
2. 育児休業・介護休業期間中の経済的支援の充実
3. 短時間勤務や長時間労働の見直し
4. 育児や介護などで退職した人への再就職や起業などの支援策の充実
5. 在宅勤務やフレックスタイム制<sup>\*</sup>など柔軟な勤務制度の導入
6. その他（具体的に \_\_\_\_\_）
7. 特になし

※フレックスタイム制とは、1 ヶ月以内の一定の期間の総労働時間を定め、労働者にその範囲内で各日の始業及び終業の時刻を委ねて働く制度です。

地域活動についておたずねします

問 13. 地域活動での男女の役割分担についておうかがいします。

- (1) 現状：あなたが参加している地域活動の現状について (ア) から (ク) のそれぞれにあてはまるものを選んでください。(○印は1つつ)
- (2) 意識：では、今後はどうすべきだと思いますか。(ア) から (ク) のそれぞれにあてはまるものを選んでください。(○印は1つつ)

※項目ごとに横を見てお答え下さい。  
(○印はそれぞれ1つつ)

	(1) 現 状			(2) 意 識		
	あてはまる	いあてはまらない	わからない	現状のままでもいい	改善すべき	わからない
(ア) 催し物の企画などは主に男性が決定している	1	2	3	1	2	3
(イ) 地域活動は男性が取り仕切る	1	2	3	1	2	3
(ウ) 地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている	1	2	3	1	2	3
(エ) 地域の役員はほとんど男性になっている	1	2	3	1	2	3
(オ) 地域の集会では男性が上座に座る	1	2	3	1	2	3
(カ) 女性が発言することは少ない	1	2	3	1	2	3
(キ) 自治会・隣組長会などの登録は男性 (夫) だが、地域の会議の出席は女性 (妻) が出ることが多い	1	2	3	1	2	3
(ク) 同じ作業に参加しても女性には出不足金*がある	1	2	3	1	2	3

※出不足金・・・地域活動の作業で、女性が出た場合にその世帯からは不足金を徴収する地域の慣行

問 14. 区会長やPTA会長などの地域の役職についてうかがいます。女性の方は、もし、あなた自身が推薦されたら引き受けますか。男性の方は、妻など身近な女性が推薦されたとしたら引き受けることをすすめますか。(○印は1つつ)

1. 引き受ける (引き受けることをすすめる)      2. 断る (断ることをすすめる)

付問 1. [問 14 で 2. 「断る (断ることをすすめる)」と答えた方に] ←

その理由は何ですか。(○印は3つまで)

1. 家族の理解や協力が得られないから
2. 女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから
3. 家事・育児や介護に支障がでるから
4. 役職につく知識や経験がないから
5. 役職につくことが面倒だから
6. 女性には向いていないから
7. 世間体がわるいから
8. その他 (具体的に

問 15. 女性の方はあなた自身が、男性の方は妻などの身近な女性が、「市の審議会や委員会の委員」への就任を依頼されたらどうしますか。(○印は1つ)

1. 引き受ける (引き受けることをすすめる)
2. なるべく引き受ける (なるべく引き受けることをすすめる)
3. なるべく断る (なるべく断ることをすすめる)
4. 断る (断ることをすすめる)

問 16. 政治、行政、企業、地域活動などにおいて政策・方針決定の過程に女性が少ない理由は何だと思えますか。(○印は3つまで)

1. 男性優位の組織運営や慣習になっているから
2. 家庭、職場、地域では、男女で役割を分ける意識が根強いから
3. 配偶者・パートナーの理解が得られないから
4. 家族の支援・協力が得られないから
5. 家事・育児や介護に支障がでるから
6. 女性の能力開発の機会が不十分だから
7. 女性の活動を支援するネットワークが不足しているから
8. 女性側の積極性が十分でないから
9. その他 (具体的に )

問 17. 近年の大規模災害時における経験から、災害直後の避難所運営や、日ごろの防災や被災対応に女性の視点が少ないことなどが課題として指摘されています。災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思えますか。(○印はいくつでも)

1. 避難所の運営に女性も参画できるようにする
2. 女性も男性も防災活動や訓練に取り組む
3. 備蓄品について女性や介護者、障がい者などの視点を入れる
4. 避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全・安心に過ごせるようにする
5. 防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する
6. 日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする
7. 日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める
8. その他 (具体的に )

暴力などの人権侵害についておたずねします

問 18. あなたは、次の（ア）から（タ）のことが配偶者（婚姻届を出していない事実婚や別居中も含む）や交際相手の間で行われた場合、暴力だと思いますか。（○印は1つつ）

※項目ごとに横を見てお答え下さい。  
（○印はそれぞれ1つつ）



		どんな場合でも 暴力にあたる	暴力にあたる場合も そうでない場合もある	暴力にはあたらない
身 体 的	（ア）素手でたたく	1	2	3
	（イ）打ち身や切り傷などのケガをさせる	1	2	3
	（ウ）身体を傷つける可能性のあるものでなぐる	1	2	3
	（エ）物を投げつける	1	2	3
性 的	（オ）相手がいやがっているのに性的な行為を強要する	1	2	3
	（カ）相手がいやがっているのに、AVなどの性的な動画やわいせつな雑誌をみせる	1	2	3
	（キ）避妊に協力しない	1	2	3
	（ク）中絶を強要する	1	2	3
精 神 的 ・ 経 済 的	（ケ）なぐるふりをしておどす	1	2	3
	（コ）何を言っても長期間無視し続ける	1	2	3
	（サ）必要な生活費を渡さない	1	2	3
	（シ）相手の交友関係や電話、電子メールなどをチェックする	1	2	3
	（ス）「誰のおかげで生活できるんだ」などと、人格を否定するような暴言を吐く	1	2	3
	（セ）ドアをけったり、壁に物を投げつけたりしておどす	1	2	3
	（ソ）大声でどなる	1	2	3
	（タ）大切にしているものをわざと壊したり捨てたりする	1	2	3

問 19. あなたはこれまでに、配偶者（婚姻届を出していない事実婚や別居中も含む）や交際相手から次の（ア）から（ウ）のようなことをされたことがありますか。（○印は1つつ）

※項目ごとに横を見てお答え下さい。 (○印はそれぞれ1つつ) →	何 度 も あ っ た	1、 2 度 あ っ た	全 く な い
（ア）【身体的暴力】殴ったり、けったり、物を投げつけたりなどの身体に対する暴行を受けた	1	2	3
（イ）【性的暴力】嫌がっているのに性的な行為を強要された、あるいは避妊を拒否された	1	2	3
（ウ）【精神的・経済的暴力】必要な生活費を渡さなかった、あるいは電話やメールを細かくチェックするなどの嫌がらせを受けた	1	2	3

付問 1. [問 19 でいずれかに 1. または 2. と答えた方に]

あなたはこれまでに、問 19 であげたような行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（○印はいくつでも）

1. 家族・親族
2. 友人・知人
3. 警察（110番、心のリリーフ・ライン\*）など
4. 市の相談窓口（朝倉市男女共同参画センター「あすみん」\*）など
5. 国や県の相談窓口（配偶者暴力相談支援センター\*、福岡県あすばる相談ホットライン\*）など
6. 民間の相談機関・団体（弁護士、NPO団体）など
7. 学校関係者（教員、スクールカウンセラーなど）
8. 医療関係者（医師、看護師など）
9. その他（具体的に \_\_\_\_\_）
10. 相談したかったが、相談しなかった
11. 相談しようと思わなかった

次ページ付問 1-1. へ

ひとりで悩まずにご相談ください

※心のリリーフ・ライン（県警の犯罪被害者相談電話） 【092-632-7830】

福岡県警察で、犯罪の被害にあわれた方々の心のケアを行う専用の相談電話です。

※朝倉市男女共同参画センター「あすみん」 【0946-62-3375】

朝倉市が設置する夫婦や恋人関係に悩んでいる方の相談窓口です。

※配偶者暴力相談支援センター 【0942-34-8111】

福岡県が設置する DV に関する相談窓口です。

※福岡県あすばる相談ホットライン 【092-584-1266（総合相談）】

福岡県男女共同参画センター「あすばる」が設置する家族関係、対人関係、仕事、生き方、DVなどに悩んでいる方の相談窓口です。

**付問1-1. [付問1で10.または11.と答えた方に]**

**どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(〇印はいくつでも)**

1. どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
3. 相談してもむだだと思ったから
4. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
5. 加害者に「誰にも言うな」とおどされたから
6. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
7. 子どものためにがまんするしかないと思ったから
8. 世間体が悪いから
9. 他人を巻き込みたくなかったから
10. 他人に知られると、これまで通りのつき合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから
11. そのことについて思い出したくなかったから
12. 自分にも悪いところがあると思ったから
13. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
14. 相談するほどのことではないと思ったから
15. その他(具体的に \_\_\_\_\_ )

**問20. あなたは、男女間における暴力を防止するためにはどうしたらよいと思いますか。**

**(〇印はいくつでも)**

1. 家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う
2. 学校で児童・生徒に対し、暴力を防止するための教育を行う
3. 地域で暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
4. 広報・啓発活動を積極的に行う
5. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
6. 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、啓発を行う
7. 暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
8. 加害者への罰則を強化する
9. 暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピュータソフトなど)を取り締まる
10. その他(具体的に \_\_\_\_\_ )
11. 特にない

男女共同参画社会の実現についておたずねします

問 21. 生活のなかでの「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についておうかがいします。次の（A）、（B）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○印は1つずつ）

	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	優先 「仕事」と「家庭生活」をともに	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をいずれも優先
※項目ごとに横を見てお答え下さい。 (○印はそれぞれ1つずつ) →							
(A) あなたの希望	1	2	3	4	5	6	7
(B) あなたの現実(現状)	1	2	3	4	5	6	7

問 22. 「男女共同参画社会」づくりのために、今後、朝倉市（行政）はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（○印は3つまで）

1. 男女共同参画に関する広報・啓発活動や学習機会の提供を充実する
2. 男性を対象とした男女共同参画に関する講座
3. 審議会などの市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やし、女性の意見を反映する
4. 学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習を充実する
5. 働く場での男女格差をなくすよう事業者（企業主）などに対して働きかける
6. 育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める
7. 男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う
8. 女性の就業支援として、研修やセミナーを実施する
9. 性暴力や性差別などに関する問題解決に向けた相談窓口を充実する
10. 女性リーダーの養成・研修の場を充実する
11. 性の多様性についての理解を図る啓発を推進する
12. その他（具体的に
13. 特にない

お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。  
ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて10月17日（金）までに投函してください。

朝倉市男女共同参画に関する市民意識調査  
報 告 書

令和8年1月

編集／発行 朝倉市 男女共同参画推進室  
男女共同参画推進・青少年係  
〒838-0068 福岡県朝倉市甘木198番地1  
TEL 0946-28-7595  
FAX 0946-28-7142  
e-mail: danjo@city.asakura.lg.jp